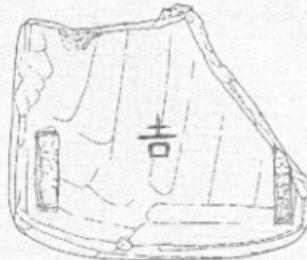


# 史跡 斎宮跡

平成 5 年度発掘調査概報



1994

斎宮歴史博物館



第99次調査区遠景（北から）



第103次調査区遠景（北西から）

史跡斎宮跡



第1図 平成5年度発掘調査地区（1：10,000）

## はじめに

「幻の宮」と呼ばれていた斎宮跡の解明のために続けられてきた発掘調査・研究も昭和45年以來本年で早くも25年が過ぎようとしています。この間、とくに10年毎の節目には、国史跡への指定、普及・公開の場としての斎宮歴史博物館の開館などを得て、史跡の保存も大きく前進いたしております。これも一重に地元住民の皆様をはじめ、関係各機関、諸先輩各位のご努力とご理解・ご協力の賜物と感謝いたしております。

また、地元明和町が事業主体となり、国・県の補助を得て進めておられます史跡公有化事業もすでに20ヘクタール近くに達し、その整備と有効な活用の促進は各方面から強く求められているところでございます。そこで本年度は三重県といたしましても、この整備・活用の指針ともいえます「史跡斎宮跡整備基本構想」を策定すべく予算化し、専門の先生方をはじめ関係各方面の方々のご指導・ご助言・ご協力をいただき、その作業に努力してまいりました。しかしながら、その具体化・事業化に向けて土地公有化と発掘調査の整合、周辺の様々な開発事業との調整、地域生活環境との調和など、今後検討・解決してまいらなければなりません課題は山積していると認識いたしております。

その課題の一つであります史跡の実態解明のための発掘調査も、漸くその調査率が史跡全体の12%に達し、おぼろげながら史跡の概観が判りかけるところまで進んでまいりました。これらの作業は一朝一夕に進むものではなく、長い期間の中での成果の積み上げにより成しえるものだと思いますので、この冊子がその一助となるよう念願いたしております。

最後になりましたが、平素から当斎宮跡の保存・調査・研究等に種々ご指導・ご助言を賜っております文化庁及び調査指導委員の先生方並びに関係各位にお礼申し上げてご挨拶に代えさせていただきます。

平成6年3月

斎宮歴史博物館

館長 久保富子

## 例　　言

1. 本書は、斎宮歴史博物館が国庫補助金の交付を受けて平成5年度に実施した史跡斎宮跡の発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は別途、明和町教育委員会が刊行している。
3. 遺構の実測にあたっては国土調査法による第VI座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
4. 遺構の時期区分は、「斎宮の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。
5. 遺構表示記号は次の通りである。  
SB ; 建物 SK ; 土塙 SD ; 溝 SE ; 井戸 SA ; 構列 SF ; 道路 SX ; その他
6. 遺物実測図は、特に標示がない限り実物の4分の1である。
7. 斎宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

京都府立大学名誉教授	門脇 槟二
千葉大学教授	北原 理雄
椎山女子学園大学名誉教授	久徳 高文
奈良国立文化財研究所 所長	鈴木 嘉吉
大阪文化財センター理事長	坪井 清足
名古屋学院大学教授	樋崎 彰一
三重大学教授	八賀 晋
名古屋大学教授	早川 庄八
京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	福山 敏男
皇学館大学教授	渡辺 寛

8. 本概報の編集・執筆は斎宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏があり、赤岩操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

## 目 次

I. 調査の経過と概要 .....	1
II. 第99次調査 .....	3
III. 第100次調査 .....	17
IV. 第101次調査 .....	23
V. 第103次調査 .....	32
VI. 第104次調査 .....	53

### 表・挿図目次

[ 表 ] 1. 平成5年度発掘調査地区一覧 .....		2
2. 第99次調査 時期別遺構分類表 .....		4
3. S E 6920出土土器構成 .....		14
4. 第100次調査 時期別遺構分類表 .....		19
5. 第101次調査 時期別遺構分類表 .....		24
6. 第103次調査 時期別遺構分類表 .....		33
7. S B 7045・S K 7017・S K 7040出土土器構成 .....		49
8. 第104次調査 時期別遺構分類表 .....		54
9. S E 7060出土土器構成 .....		59
10. 掘立柱建物・柵列一覧表 .....		61
11. 整穴住居一覧表 .....		62
12. 遺物(土器)観察表 .....		63
13. 斎宮跡発掘調査次数一覧表 .....		80
[ 図 ] 1. 平成5年度発掘調査地区(1:10,000) .....		i
2. 第99次調査 調査区位置図(1:2,000) .....		3
3. タ 遺構実測図(1:200) .....		5
4. タ S X 6900実測図(1:20) .....		7
5. タ 調査区北部遺構実測図(1:100) .....		8
6. タ 出土遺物実測図(S E 6920) .....		10
7. タ 出土遺物実測図(S E 6920) .....		11
8. タ 出土遺物実測図(S E 6920) .....		12
9. タ 出土遺物実測図(S E 6920・S K 6890・6914・6875・6905 · 6894・S D 6870・Q-39櫻乱土塙) .....		13
10. タ 出土遺物実測図(S X 6900) .....		14
11. タ S E 6920出土土器杯径高比 .....		14
12. タ 猿面観実測図(1:2) .....		15
13. 第100次調査 調査区位置図(1:2,000) .....		18
14. タ 遺構実測図(1:200) .....		20
15. タ 出土遺物実測図(包含層 他) .....		22
16. 第101次調査 調査区位置図(1:2,000) .....		23
17. タ 遺構実測図(1:200) .....		25
18. タ S D 0081・0082・S F 6983断面図(1:50) .....		26
19. タ 土塙・中世墓実測図(1:40) .....		29
20. タ 出土遺物実測図(S K 6979) .....		29
21. タ 出土遺物実測図(S X 6975・6976・6977・S D 6984・0081 · S F 6983・S K 6973・包含層) .....		30
22. 第103次調査 調査区位置図(1:2,000) .....		32
23. タ 遺構実測図(1:200) .....		35

24.	第103次調査 出土遺物実測図 (S B 7045・S K 7046・S A 7000)	40
25.	タ 出土遺物実測図 (S K 7017)	41
26.	タ 出土遺物実測図 (S K 7017)	42
27.	タ 出土遺物実測図 (S K 7017)	43
28.	タ 出土遺物実測図 (S K 7030)	44
29.	タ 出土遺物実測図 (S K 7030)	45
30.	タ 出土遺物実測図 (S K 7030)	46
31.	タ 出土遺物実測図 (S K 7040)	47
32.	タ 出土遺物実測図 (S K 7040・7029・7052・7051・S D 7014・7007)	48
33.	タ S K 7030・7040出土土師器杯盤高比	48
34.	タ 周辺主要遺構分布図 (1 : 2,000)	51
35.	第104次調査 調査区位置図 (1 : 2,000)	53
36.	タ 遺構実測図 (1 : 200)	55
37.	タ 出土遺物実測図 (S E 7060)	57
38.	タ 出土遺物実測図 (S E 7060・7065・S D 7063・包含層)	58
39.	タ S E 7060出土土師器杯盤高比	59
40.	斎宮跡地区表示	84

### 写 真 図 版

卷頭	上：第99次調査区遠景（北から）	下：第103次調査区遠景（北西から）
1.	第99次調査区全景（真上から）	
2.	上：調査区全景（北から）	下：調査区北東部（南から）
3.	上：調査区南東部（北から）	下：S B 0251（東から）
4.	上：調査区北部（南から）	下：S D 6919・S B 6922（東から）
5.	上：S B 6918（南から）	下：S B 6923（東から）
6.	上：S E 6920（東から）	下：S X 6900検出状況（南から）
7.	第100次調査区全景（真上から）	
8.	上：調査区全景（西から）	下：S A 6940・6941～6943（東から）
9.	第101次調査区全景（真上から）	
10.	上：第101次調査区全景（北から）	下：S F 6983南端（西から）
11.	上：S F 6983（南から）	下：中世墓群（北から）
12.	上：S X 6975（南から）	下：S X 6975遺物検出状況（東から）
13.	上：S X 6977（東から）	下：S X 6976（南から）
14.	第103次調査区全景（真上から）	
15.	上：調査区全景（西から）	下：調査区全景（北西から）
16.	上：S A 7000（東から）	下：調査区南東部（西から）
17.	上：S B 7024（北から）	下：S B 7020（西から）
18.	上：S K 7017（東から）	下：S K 7040（北から）
19.	上：S K 7030（東から）	下：S K 7030遺物検出状況（北東から）
20.	上：第104次調査区遠景（南から）	下：調査区遠景（東から）
21.	上：調査区全景（南から）	下：S D 7067（西から）
22.	上：S E 7060（東から）	下：S D 7063（南から）
23.	第99次調査 出土遺物	
24.	第100次調査 出土遺物	
25.	上：第101次調査 出土遺物	下：第104次調査 出土遺物
26.	第103次調査 出土遺物	

## I. 調査の経過と概要

年度末の3月30日まで調査現場の対応に追われた平成4年度が5年度と替わっても、心機一転する暇もなく本年度最初の計画調査は第99次調査として約740m<sup>2</sup>を対象に、昨年に引き続いで近鉄斎宮駅の北側、内山地区で平成5年4月5日から開始した。当該地は方格地割のうち、斎王の森から南に延びる道路の西側に接し、南北4列を想定する区画の中央を東西に延びる道路との交差点に相当し、その詳細が明らかになることを期待した調査である。

調査の結果、掘立柱建物や近年その検出例が増える生垣、井戸等を検出したほか、区画道路の溝と思われる溝も検出されたが、交差点の詳細については充分に把握できなかった。

また、出土遺物については、これまでの斎宮跡でわずか3例目の資料である猿面鏡が出土している。そのほか、大半が小片とはいえ綠釉陶器の出土が80点近くになる点は注目される。従来から斎宮駅周辺の地域ではその集中する傾向が知られていたが、斎宮跡全体の中での当該地域の位置づけを考察するうえで貴重な知見である。なお、これら調査結果は6月6日に行われた「斎王まつり」に併せ開催した現地説明会で600名余りの参加者を得て公開している。

続く第100次調査は、史跡西部の竹川字中垣内地内で約280m<sup>2</sup>の調査区を設定し、平成5年7月8日から10月6日まで実施した。当該地域は斎宮成立期の飛鳥時代～奈良時代前期の遺構や遺物が比較的集中していることが知られており、その確認や例年の「体験発掘教室」をここで実施することを考慮して設定したものである。面積が狭く、これまであまり調査が進んでいないこともあって、重複する4条の柵列や8棟の掘立柱建物を検出したがその意義付けについては充分に明らかにすることはできなかった。

さらに、第100次調査とほぼ並行して平成5年7月19日から10月13日の期間で、斎宮字篠林で約540m<sup>2</sup>を対象に第101次調査を実施した。昭和63年度以降5か年で上園地区で史跡整備の一環として芝生広場の造成を行い、遠足で史跡を訪れる児童や地域住民から好評を得ており、農道を隔ててその北側に隣接する当地区でその充実を図るべく検討していたところである。そこで、文化庁からの指導もあり事前に発掘調査を実施し、その成果も含めた整備とすることを意図したものである。調査の結果、方格地割の北西角から北にのびる平安時代中期以降の道路跡や中世墓等が検出された。そこで整備に当たってはとりあえず、道路跡に限って砂利広場として表示している。なお、毎年8月上旬に斎宮歴史博物館で受け入れている博物館実習では、学生諸君にここで斎宮跡の調査研究の片鱗を実体験してもらった。

次に、第103次調査は平成5年10月4日から、竹神社の近鉄線を隔てて北側の斎宮字柳原地内で約1,170m<sup>2</sup>の調査区を設定して実施した。竹神社を含め、方格地割におけるこの一画は歴史的にも地域住民から長らくタブー視されてきた区域と考えられ、「斎宮」にとって重要な位

置を占めていた場所であることが想定されていた。調査の結果は、方格地割の交差点を検出したほか、大型の柱掘形を持つ構造や掘立柱建物を検出し、極めて重要な一画であることは想像に難くないが、その核心部分は近鉄線路敷及びその南側の竹神社の境内地に広がるものと思われる。この調査では、当館が平成5年度及び6年度の2か年事業として進めている映像展示の更新ソフトの作成のための現地ロケーションを実施しているほか、平成5年12月12日には現地説明会を開催して約210名の見学者の参加を得、平成6年1月25日に調査を完了した。

本年度の計画調査はもう1か所、旧参宮街道沿いの集落の南側、斎宮宇笛川で平成6年1月31日から3月25日まで約350m<sup>2</sup>を対象に実施した。当該地は方格地割の南東隅に当たる区画の南辺中央に位置し、調査前には門等の存在も予想された。調査の結果はこれに類する遺構は検出されず、斎宮の南限を画する溝と平安時代前半の井戸1基等を検出したにすぎない。

その他、史跡現状変更に伴う事前の発掘調査を明和町教委が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当して第102-1~8次調査として8件実施した。その概要は別途明和町教委より刊行の予定であるが、昨年度の調査で検出された八脚門に取りつく構造の延長部の検出をはじめ、史跡の保存にとって様々な問題を残しつつも、多くの成果を収めることとなった。(吉水康夫)

調査次数	地区名	調査面積m <sup>2</sup>	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
99	6ADN	740	H.5.4.5~H.5.7.13	明和町斎宮字内山3046-11他	明和町他	計画発掘調査	1
100	6ABI-T	280	H.5.7.8~H.5.10.6	明和町竹川字中垣内423	沢恒一	計画発掘調査	3
101	6ADG	540	H.5.7.19~H.5.10.13	明和町斎宮字櫛林3194	明和町	計画発掘調査	1
102-1	6ADS	60	H.5.4.9~H.5.4.23	明和町斎宮字木葉山119-5	瀧野国雄	車庫の新築	3
102-2	6AED-J	90	H.5.6.16~H.5.7.26	明和町斎宮字秦戸2882-5	杉本雅之	住宅の新築	3
102-3	6AAQ	390	H.5.5.11~H.6.3.30	明和町竹川字花園663-1	中川達哉	盛土工事	3
102-4	6ACFA	50	H.5.9.17~H.5.9.30	明和町竹川字東裏365-1	樋口泰弘	住宅の新築	3
102-5	6ABJ-D	260	H.5.10.12~H.5.11.25	明和町竹川字中垣内493-6	川口清一	店舗の新築	3
102-6	6AGN他	270	H.5.12.16~H.6.1.25	明和町斎宮字鍛冶山	明和町	備溝の改修	2
102-7	6ACG-E	250	H.5.2.2~H.6.3.17	明和町竹川字東裏318-1	川本正式	住宅の新築	3
102-8	6AEI他	310	H.5.2.3~H.6.3.14	明和町斎宮字秦戸	明和町	備溝の新設	1
103	6AEQ-A	1,170	H.5.10.4~H.6.1.25	明和町斎宮字柳原2779-3	吉田寿	計画発掘調査	1
104	6AGT	350	H.6.1.31~H.6.3.25	明和町斎宮字笛川1048-1	佐々木茂	計画発掘調査	3

第1表 平成5年度発掘調査地区一覧

## II. 第99次調査

6 A DN (内山地区)

### 1. はじめに

平成5年度第1回目の計画調査は第93次、第95次調査に引き続き、近鉄斎宮駅北側の地域で実施した。史跡東半の平安時代前半の方格地割は、昨年度の第96-5次調査で発見された八脚門SB6850と柵列SA6849によって南北は最大で東西7列分の区画が想定できるようになった。

第99次調査は方格地割を構成する道路のうち、これまで少なくとも確実視されていた最も西側の道路である東から6本目の道路と、北から3本めの道路の交差点部分を調査し、この交差点からさらに西へ道路が延長するのかどうかを確かめ、さらに近鉄斎宮駅北側一帯で将来予想される史跡環境整備に資する情報を得ることを目的として4月5日から7月13日まで、740m<sup>2</sup>を対象として実施した。

周辺の調査としては、先述の第93次、第95次調査が実施されてきており、E4°Nの方格地割の軸線に棟方向を揃えた平安時代初期の掘立柱建物SB0241・0242などや、平安時代前期まで遡る可能性のある生垣SA6645、それに並走する平安時代後期～末期のSD0244やSD6671など方格地割との関連を窺わせる遺構が多数見つかっている。その反面、平安時代前期から方格地割とは向きを異にする掘立柱建物もある。北方約100mの水田地で実施した第78次調査の検出建物は奈良時代古道に関わる溝に向きを揃える平安時代前期の掘立柱建物のみで、この一帯の土地利用の状況は複雑な様相を呈している。また、第95次調査で発見された延喜通寶を入れ



第2図 調査区位置図 (1 : 2,000)

れた土師器壺を埋納する平安時代中期のS X6666は墓塚等の可能性もあり、当地域の性格は依然不明瞭な部分が多いと言える。

調査区の現況は標高11.2m～11.5mほどの畠地で、北東に向かって緩やかに傾斜している。また、調査区の北側約5m先は0.9mほど落ち込んで水田となっており、土取りなどがあった可能性がある。遺構面は灰色系の耕作土と黒褐色壤土系の包含層を30cm～50cm掘削した下部の粘性の強い黄褐色土（地山）を遺構面として捉えた。遺構面は現地表面とはやや異なり、北西部で標高約11.2mと最も高く、南東で10.8m、北東部で10.7mと南東方向にも緩やかに傾斜している。

## 2. 遺構

遺構の分布は、調査区全体でも東部に溝が集中し、北部に径30cm～40cmを中心とする柱穴が極度に密集して検出された。遺構の時期は平安時代初期から鎌倉時代に至るまでのものがあるが、特に平安時代末期のものが量的に卓越している。

### （1）平安時代初期の遺構

掘立柱建物1棟、土塙が2基ある。

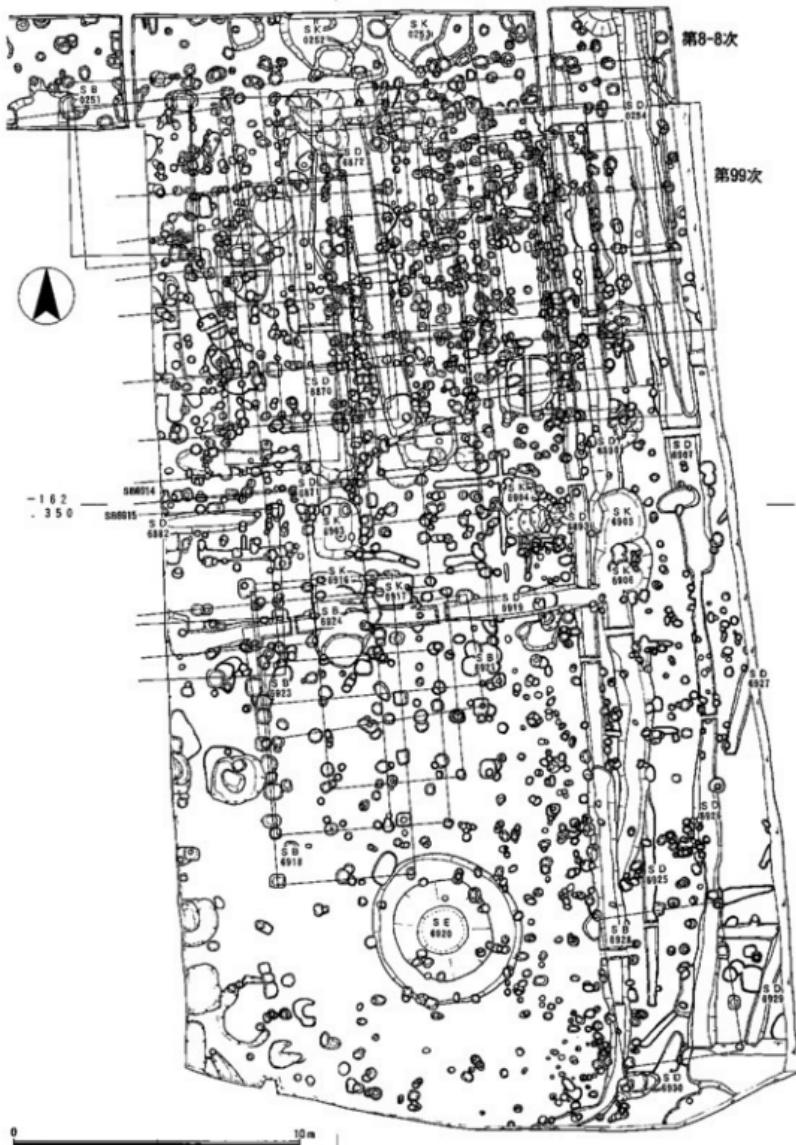
掘立柱建物S B0251は第8-8次調査のMトレンチにかかり確認されていたものだが、今回3間×2間の規模である事が確定した。柱掘形は一辺1m弱と比較的大型に関わらず、柱間寸法は桁行、梁間とも1.9mと狭い。棟方向はN 4°Wと、方格地割と同一である。

土塙はS K6903とS K6916がある。S K6903は、長径約2.2m、深さ約20cmの隅丸方形の土塙

		遺構の種別					
		SA	S B	S D	SE	S K	SX
平安時代	初期	0251				6903 6916	
	前期	6915			6920	6917	
	中期	6918 6922					6900
	後期	6914 6921 6923 6924					
	末期	6863	6860 6861 6862 6864 6865 6866 6867 6868 6869 6873 6874 6875 6878 6879 6883 6884 6885 6886 6887 6888 6889 6890 6891 6892 6897 6898 6899 6908 6909 6910 6911 6912 6913 6931	0254 6871 6872 6879 6880 6881 6882 6893 6896 6907 6919 6925 6926 6927 6929 6930 6931		6876 6877 6899 6894 6895 6904 6905 6906	
鎌倉時代				6870			
時期不明		6928				6901 6902	

第2表 時期別遺構分類表

56. 820



第3図 遺構実測図 (1:200)

で、杯・皿・壺・鉢・甕といった土師器類、杯・蓋・壺といった須恵器類が出土している。S K 6916はS K 6903の南約0.5mで隣接する3.0m×2.2m、深さ約30cmの長方形土塙で、土師器杯・皿・壺、須恵器蓋・壺、灰釉陶器碗や鐵滓が出土した。

### (2) 平安時代前期の遺構

掘立柱建物S B 6915と井戸S E 6920、土塙S K 6917がある。

調査区西端中央で検出されたS B 6915は、西辺は調査区外に延びて全容は窺い知れないが、約2.4m間の桁行が3間、1.9m間の梁行2間の東西棟の南側に、約2.0mの出の庇が付くものとみられる。棟方向もE 4°Nに近く、依然方格地割の規制が残っている。柱穴から平安時代前Ⅱ期の新段階の遺物が出土しており、9世紀後葉の建物と考えられる。

S E 6920は、遺構の分布の薄い調査区の南半で検出された。遺構面での検出段階では直径約5.2mの円形で、約30cmほど掘削した段階で幅の広い肩部をもって、直径3.2mの井戸櫛形になる。遺構面から約2mの深さまで砂質を多量に含んだ黒色土に平安時代前Ⅱ期新段階の土器片が多量に包含されている。灰釉陶器では黒雀90号窯式期～折戸53号窯式期までのものがみられる。最終的な埋没は10世紀前葉であろう。深さ約4mまでは比較的遺物の少ない埋土層が続き、約5m前後でオリーブ黑色砂質層から黒色シルト質壤土層になり、僅かな土器片が出土したが、期待された有機質の遺物は発見できなかった。遺構面下約5.6mの井戸底の上部層からは土師器壺の底部とみられるものが出土し、深さ4.5m程では前Ⅰ期に属する土器片も包含されており、掘削時期は前期以前に遡る可能性がある。なお、S E 6920は方格地割がここより西に拡がるとみた際に、東方からの東西道路（北から3番目の道路）の北側溝が延長してくると予想された部分だったが、この部分で平安時代前期の井戸が検出された事は、方格地割の道路の復元という点で問題を残したと言える。

土塙S K 6917は初期のS K 6916の東に隣接する1.4m×1.1m、深さ約20cmの方形土塙で、前Ⅱ期の新段階に相当する土師器杯・鉢・甕、須恵器片が出土している。

### (3) 平安時代中期の遺構

掘立柱建物2棟、不明土塙1基がある。

S B 6918は今回の調査区では最大の建物で、桁行10.5m、梁行4.8mの5間×2間の南北棟で、柱穴埋土から折戸53号窯式期の灰釉陶器碗が出土している。S B 6922は4間×2間の東西棟だが、S B 6918が方格地割と棟方向を揃えるのに対し、S B 6922はE 9°Nと異なった傾向を示す。

S X 6900は40cm×36cm、深さ約35cmの柱穴状の小土塙で、底部に土師器壺を正置し、その上部に土師器杯5枚以上が埋納されていた。壺内部には「延喜通寶」約9枚と骨片の可能性のある白色物が底部に見られ、その上に焼成されない径約3cmの白色粘土玉2個が入っていた。第

95次調査で検出されたS X6666とほぼ同一の内容を持ち、土器の形式からもほぼ同時期のものである。斎宮の平安時代中期に位置づけられてきた土師器類に、10世紀前葉（907年初鉄）の絶対年代を付与する資料が再度補強されたと言える。遺構の性格については、墓の可能性がまず考えられるが、胎衣壺や地鎮に関わる祭祀遺構の可能性も残されている。

#### （4）平安時代後期の遺構

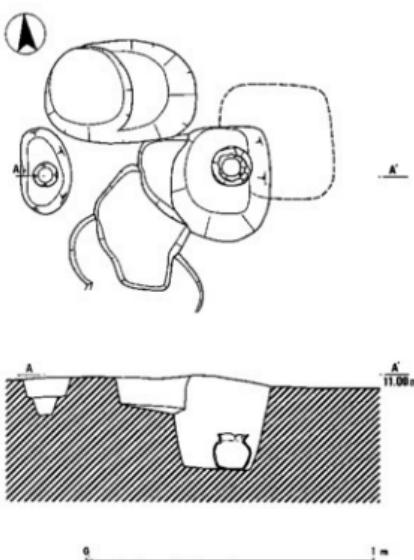
掘立柱建物4棟がある。

S B6914は調査区の中央西端で検出された5間×2間とみられる東西棟、S B6921は4間×2間の東西棟、S B6923は柱間2.0mの3間×2間の南北棟の身舎の東側に2.1mの出の庇が付くものである。S B6924は3間×2間の南北棟である。これらの棟方向はN

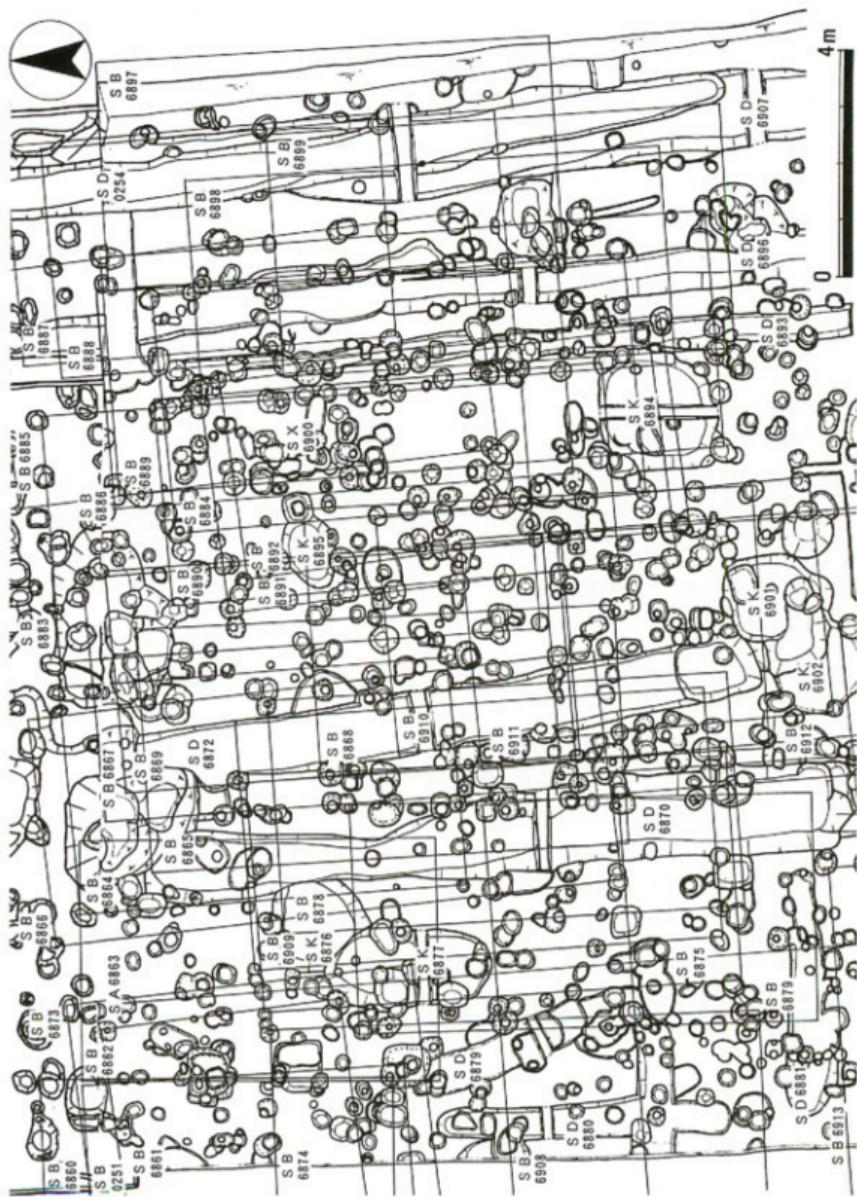
4°W～N 5°Wあるいは、E 5°Nと概ね方格地割の棟方向に沿うものである。柱穴埋土にはS B6923に後Ⅰ期～後Ⅱ期、S B6921とS B6924に後Ⅱ期、S B6914に後Ⅱ期～末期にかけての遺物が包含されており、それぞれ若干の時期差が認められる。

#### （5）平安時代末期～鎌倉時代初頭の遺構

当該期に比定される遺構が最も多く、掘立柱建物33棟、横列1条、溝17条、土塙7基がある。掘立柱建物は柱穴の径が30cm前後的小規模なものが大半で、4間×2間の南北棟を中心になる。煩雑になるために個々の記述は避けるが、タイプ別に分類すると、棟方向ではN 1°Wが2棟、N 2°Wが1棟、N 3°Wが2棟、N 4°Wが5棟、N 5°WあるいはE 5°Nが13棟、N 6°Wが3棟、N 7°Wが5棟、N 8°Wが2棟で、すべて調査区北半に集中し、N 4°WとN 5°Wが約60%を占める。建物規模は最大規模の5間×2間のものが1棟、4間×2間のものが26棟、3間×2間が3棟、不明が3棟で79%が4間×2間のものである事が分かる。柱間寸法は1.9m～2.2mで、梁・桁の間にも統一性は認められない。建物の重複関係は詳細に全てを確認しきれないが、調査区北半の西側と東側でそれぞれ4～5群ほどが3～4回ほど建て替え



第4図 S X6900実測図（1:20）



第5図 調査区北部遺構実測図（1：100）

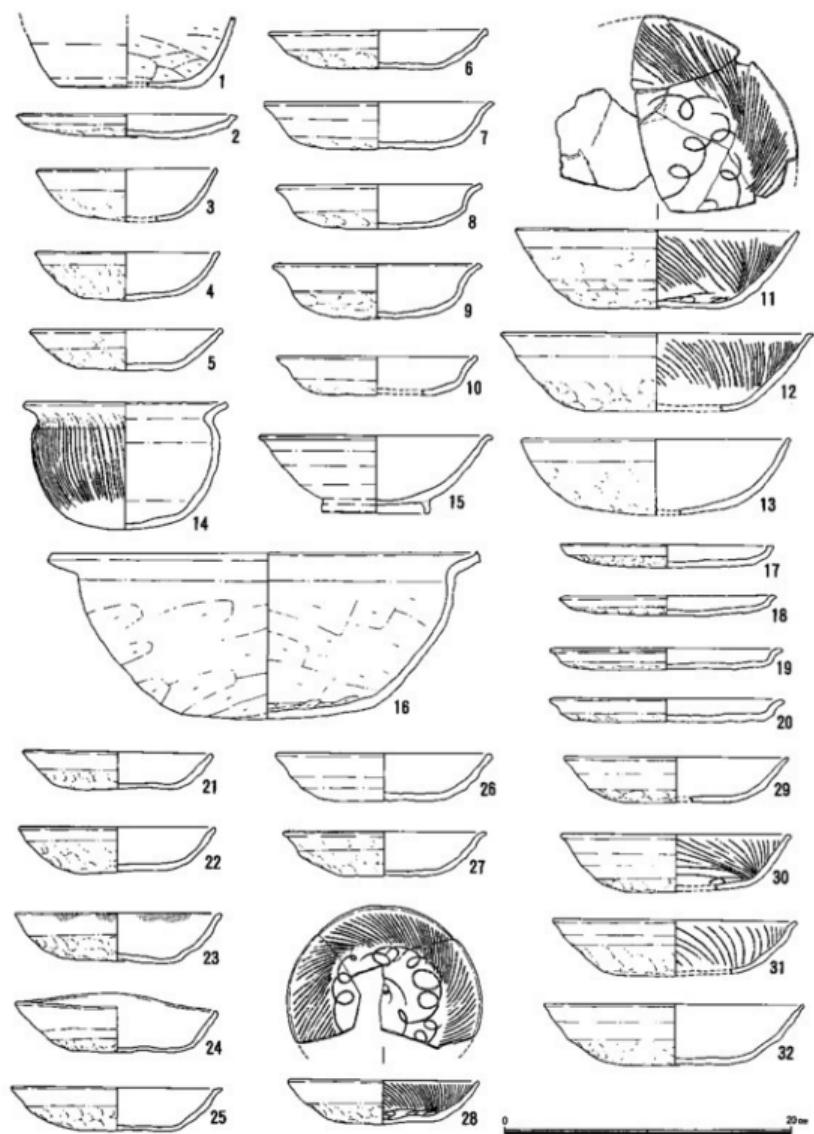
られているものと考えられる（例えば、S B6890・S B6891・S B6892やS B6884・S B6885・S B6886・S B6889の関係など）。斎宮の土器編年観で平安時代末期を概ね12世紀代と捉えているので、単純にみると1軒あたり20年程度までの時間幅が想定できる。

次に溝についてみると、多くは調査区東部を縦断する南北溝と調査区西北の長さ10m強の南北溝、調査区中央部を東西に横断する溝がある。調査区東部の南北溝は、N 4°Wの方向を取り、今回の調査で検出が期待された方格地割に関わる南北道路の西側溝になるとみられるもので、S D0254・S D6893・S D6896・S D6907・S D6925・S D6926がある。この中で重複関係上最も古いとみられるものは最も西側のS D6893で、幅0.3m～0.5mの断面U字形の溝が南に向かって広がりながら続き、調査区南端で再度収束して西南西に折れていく。溝底部の標高は10.7m～10.8mで高低差はほとんどない。埋土はやや粘性を持つ黒色土で土師器杯・皿・高杯・壺、土錐、須恵器蓋・壺片の他、ロクロ土師器椀・杯や山茶椀が出土している。土師器類については、奈良時代の皿や平安時代前Ⅱ期の杯・壺が多数混入しており、平安時代末期とみられる土器類も古相のものである点から、S D6893は少なくとも11世紀代以前には掘削年代が、11世紀末葉～12世紀初頭に埋没年代が想定できる。このS D6893が調査区南端で西に屈曲する点は、その大部分が調査区外になるため明言できないが、この付近が東西道路と南北道路の交差点であった可能性を示唆していると言えよう。他の当該期の溝にこうした明確な屈曲部分は認められないものの、S D6896は調査区南部で西にカーブしている様子が窺われ、S D6927・S D6929・S D6930はN 15°Eほどでこれに向きを揃えている。これらの溝も12世紀末葉までこの部分に道路が曲がる地点=交差点が存した可能性を示している。他の南北溝も、この道路側溝が道路の幅や位置を僅かずつずらしながら数次にわたって掘削されたものとみられる。次に調査区西北部の溝をみると、南北溝ではS D6872がN 12°Wと他の遺構とやや向きを違えるが、S D6870はN 6°Wで一部の掘立柱建物と揃っている。また、東西溝S D6919は幅90cm、深さ35cmほどの断面逆台形状の溝で、E 6°Nの方向をとってS D6896に接続する。こうした溝は掘立柱建物群に伴う区画溝であると考えられる。なお、S D6870からは常滑産の山茶椀が出土しており、13世紀初頭まで継続する可能性がある。

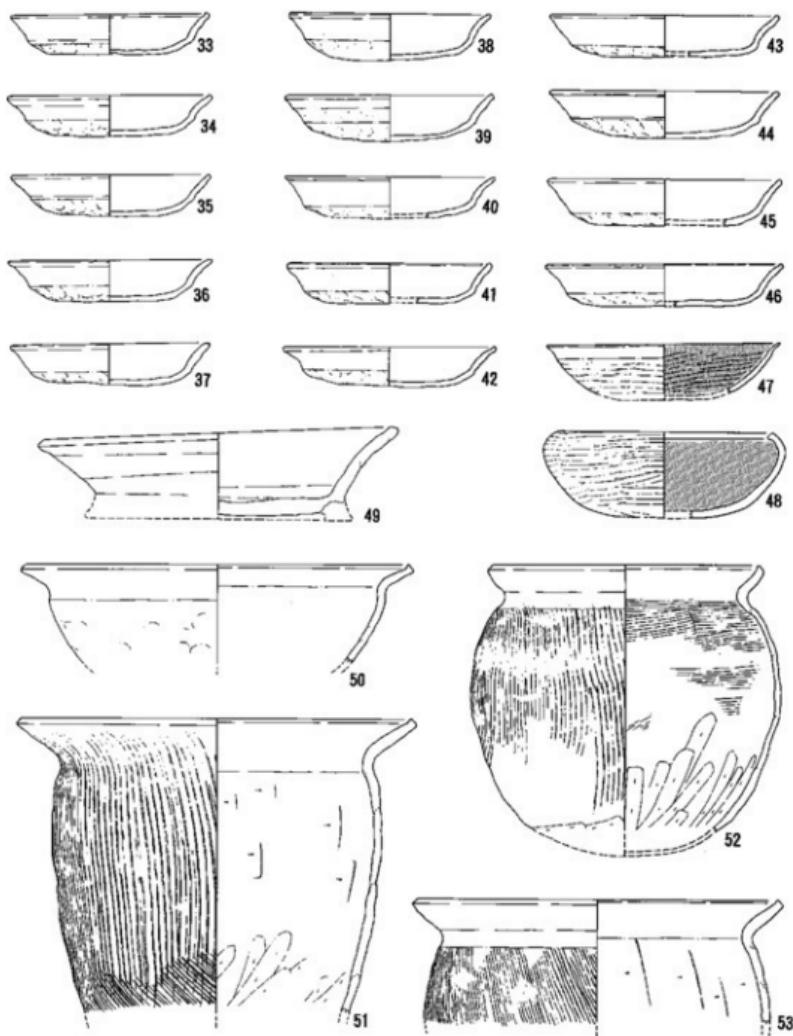
土塙も調査区北半に集まっており、指円形ないし不整円形を呈する。S K6876からは灰釉陶器椀を模倣したロクロ土師器椀が、S K6905からは「て」の字口縁の土師器皿が出土している点が注目されるが、この他にもこれらの土塙からは土師器杯・皿・壺片、ロクロ土師器杯類、山茶椀が出土している。

### 3. 遺 物

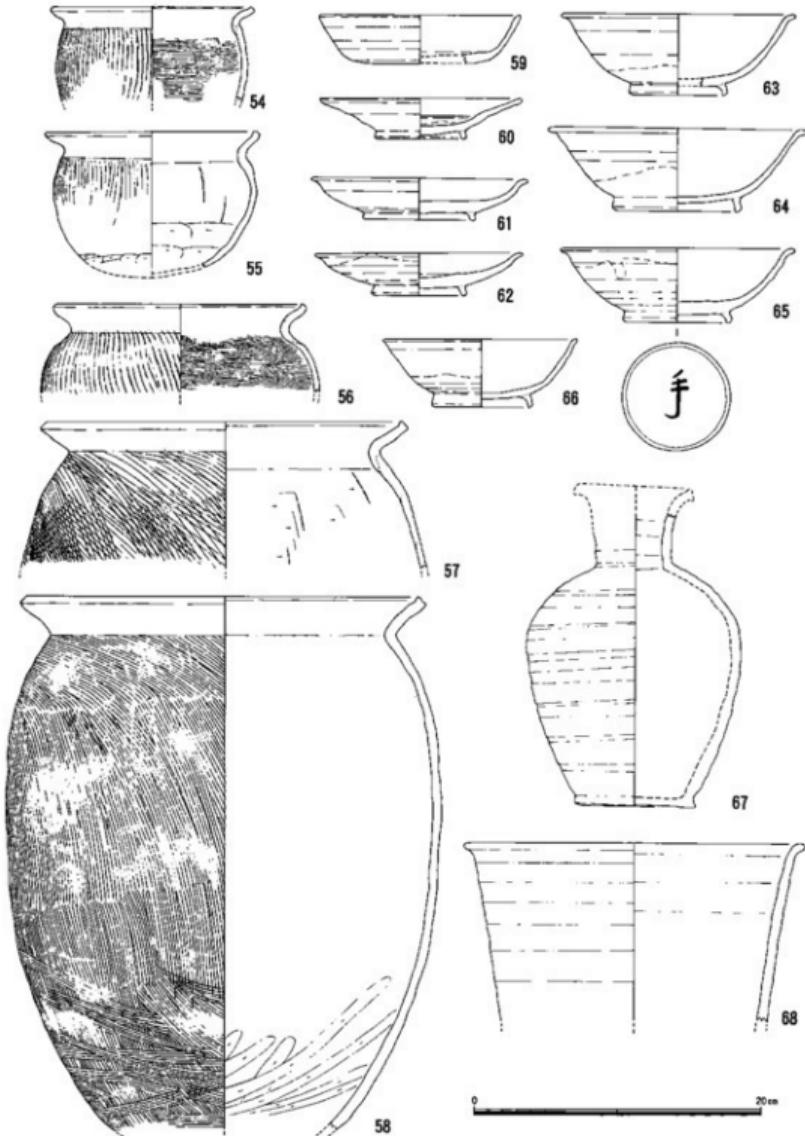
奈良時代から鎌倉時代にかけての土器類を中心に整理箱で72箱の遺物が出土している。この中でも最も多い量の遺物を出土した平安時代前Ⅱ期の井戸S E6920出土の主として土器類を中心



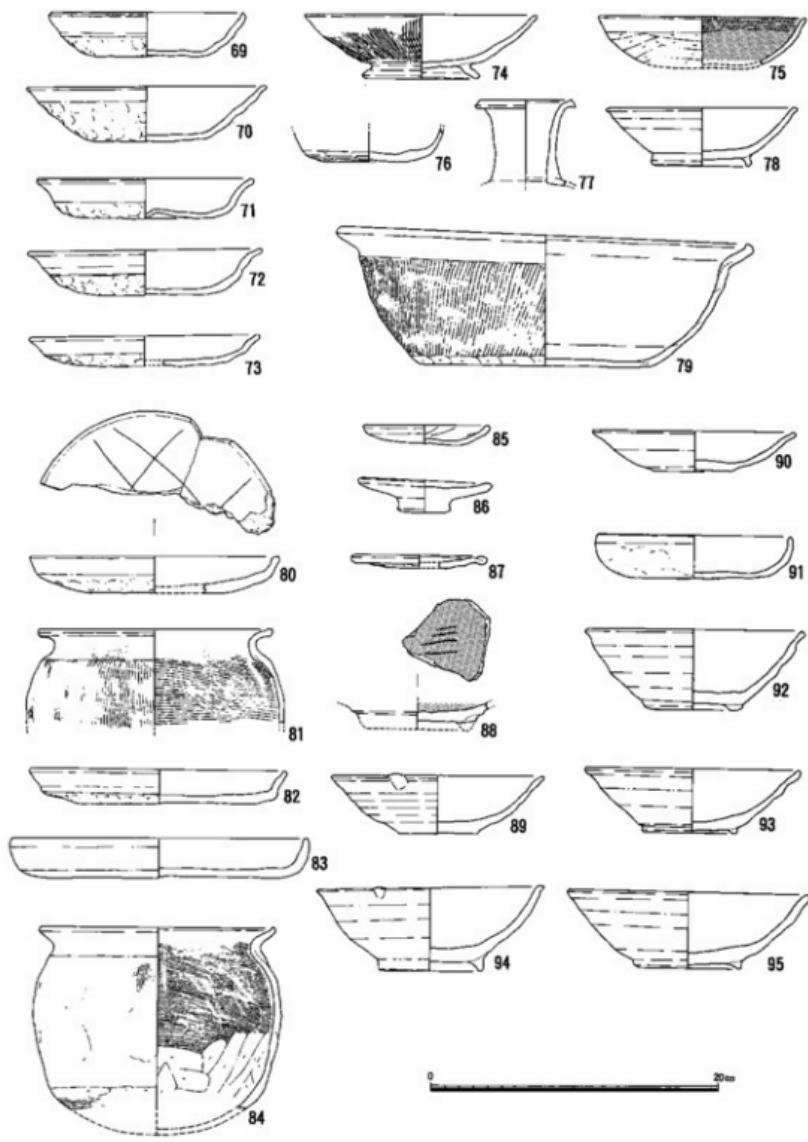
第6図 出土遺物実測図 SE 6920



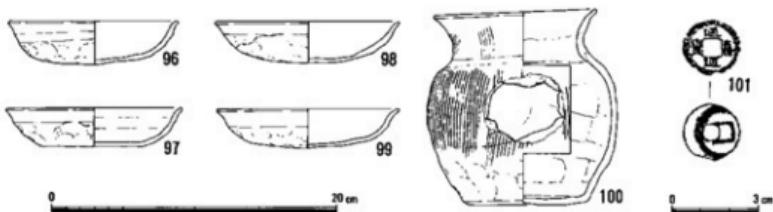
第7図 出土遺物実測図 SE6920



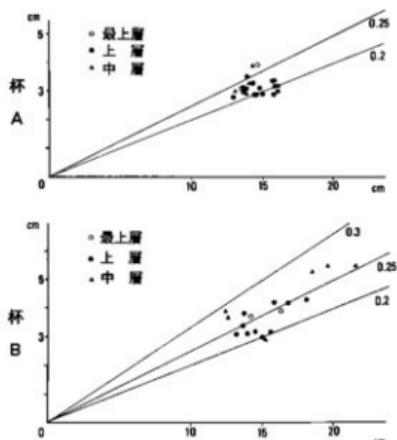
第8図 出土遺物実測図 SE 6920



第9図 出土遺物実測図 S E6920 : 69~79, SK6890 : 80·81, SK6914 : 82~84,  
SK6875 : 85·86, SK6905 : 87·88, SD6870 : 89, SK6894 : 90,  
SD6870 : 91~93·95, Q-39擾乱土塗 : 94



第10図 出土遺物実測図 SX6900 96~100 (1:4), 101 (1:2)



第11図 SE6920出土土器杯径高比

器種	破片数	割合(%)	
		各種割合(%)	総割合(%)
土器類	杯-盤・高杯類	44.28	92.93
	盤・鉢類	3.07	
	甕-瓶-壺類	43.16	
	製塩土器	2.39	
黒色土器	土鉢	0.03	3.53
	杯	0.53	
	盤	3.04	
須恵器類	甕・壺類	0.49	2.93
	碗・豆類	2.32	
	灰・灰陶器	0.61	
総計	2635	100.00	100.00

第3表 SE6920出土土器構成

に報告したい。

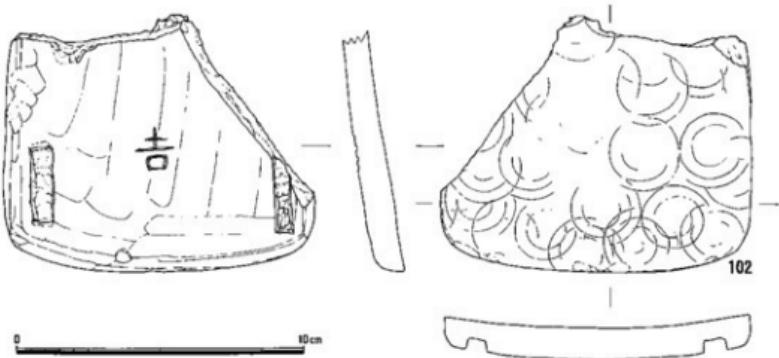
SE6920から出土した遺物の量は土器類で整理箱22箱になるが、破片数をもとに種別の出土量をみたのが第3表である。土器類の比率が90%を越えるのは斎宮における一般的の傾向といえる。また、土器類の中でも供膳形態と煮沸形態がほぼ同率となっている。黒色土器類約0.5%、須恵器類が3.5%、灰釉陶器約3.0%の他に製塩土器が約2.4%含まれている点が留意される。出土遺物は遺構検出面から約30cm下の肩部までを最上層(69~79)、遺構埋土上部のうち遺構面から1.4mまでの上層(2~68)、1.4m~2.0mまでの中層、深さ5m付近の黒色砂壌土の下層(1)に分けた。このうち土器類を口径と器高でみた分布図が第11図である。杯類で口縁が外方に屈曲してのびるものを杯A類、口縁部が内弯するものを杯B類としたが、中層では杯Aは口径13.5cm前後の中型品と16cm前後の大型品に分離できる。杯Bも口径20cm前後を越える

ような大型品、15cm程度の中型品、12cm～13cmの小型品に分離できる。上層では、杯Aは口径13cm～16cmの間にまんべんなく分布し、大中小の区別がやや困難になる。杯Bでも大型品が消失するとともに、やはりサイズの区別が難しくなる。最上層の資料も量的に少なく混入の危険性もあるが、この傾向が進んでいると見ることができるだろう。暗文は杯Bの中型品以上に放射状暗文や螺旋状暗文が施されるが、再上層では認められない。共伴する灰釉陶器は中層では黒窯90号窯式期の新段階の椀が、中層以上はこれに折戸53号窯式期の椀・皿類が加わる。

次にS X 6900の遺物についてみてみる。土師器杯5個以上、平底の土師器壺1個が小土塗に納められる。壺は胴部に径5cmほどの穿孔があり、内部には銅錢が9枚以上納められる。これらは腐蝕が進んでいるが数枚は「延喜通寶」と判読された。ここまで内容については第95次調査のS X 6666と全く同様であり、土師器杯は同形式、同一のサイズである。先述したように木簡などの紀年銘資料が全く出土していない斎宮では土師器類に絶対年代の一点を付与する上で貴重な資料である。なお、壺内部に今回は未焼成の白色の粘土玉が2個入っていたが、内部の状態などは今後の非破壊検査に委ねたい。

その他特筆すべき遺物としては、須恵器猿面観(102)がある。およそ1/2を欠失するが、観面にはスタンプの同心円によって青海波文を表現し、ケズリ調整によって平滑にされる背面には木製の脚が挿入されたとみられる脇穴が刀子状の工具で開けられる。また、背面の中央には「吉」の文字を線刻する。側縁部までていねいにケズリ調整され、木棒等に装着されていたものとは考えられない。猿面観の出土例としては斎宮では3例目である。

墨書き土器は3点あるが、鮮明なのは(65)の灰釉陶器碗で「手」と判読できる。(87)は所謂「て」の字口縁の土師器皿で、斎宮では僅かながら12世紀代まで散見される。胎土は精良だが、京都産のものとは考えられない。黒色土器(88)はロクロ成形の碗で、内面のみ黒化処理され



第12図 猿面観実測図 (1:2)

る。これまでロクロ成形のものは報告されておらず、斎宮では初出であろう。近江産の搬入品だろうか。(89)は須恵器の杯で、底部は糸切り痕が残る。口縁部には輪花表現が認められる。產地は今のところ不明である。綠釉陶器は79片出土しており、近江産、猿投産のものが多く、史跡中央部一帯の一般的傾向を示していると言える。また、明示していないが、調査区北半の各地から鉄滓が出土しており、フイゴの羽口も出土している。焼土などは未検出ながら鍛冶工房に関わる遺構が周辺に存在していたものと考えられる。

#### 4. まとめ

今回の第99次調査は、昨年度の八脚門 S B 6850の発見をうけて、方格地割の区画道路の交差点を確認する事で、方格地割の西方への広がりを探索する事を最大の目的として実施した。その結果、平安時代末期を主とする多数の南北道路の西側側溝は検出する事ができたが、御館・柳原地区から伸びてくると予想された道路側溝の想定部分で、平安時代前期の井戸が発見され、東西方向の溝も明確にする事ができなかった。しかしながら、この南北道路側溝のいくつかは西へ屈曲あるいはカーブする様子がうかがわれ、調査区の東南端から調査区外にかけて、当初予想されたよりも幅員の狭い道路がこの部分を巡っていたという想定ができ、また大半が平安時代末期に属するとはいえ、平安時代初期から多少の振れはあるものの概ね N 4° W を基準とした軸線を持つ遺構が多い。第93次調査や第95次調査の成果と同様、土地利用の上でこの一帯に方格地割の規制が生きており、なおかつ今回の調査地では平安時代末期まで糸余曲折しながらも南北道路が存続し、現在の「斎王の森」の前から伸びてくる町道に引き継がれているものとみられる。以上の点は、方格地割が上園地区や内山地区にかけてさらに広がっていた可能性に対するささやかながら傍証となるものと考えられる。

S X 6900出土の遺物は、第95次調査の S X 6666と並び、10世紀前葉の実年代観を付与する点で斎宮の土師器編年には極めて大きいと言える。しかし、遺構そのものの性格は依然不明のままで、史跡斎宮内における当地域の意味付けの上の大きな問題は残されたままである。壺の内容物の分析など別の機会に譲る点もまた大きい。

調査区北半に密集して検出された平安時代末期を中心とする掘立柱建物群は、第95次調査の東南端で同様の遺構密度を持った部分が見つかっているが、これまでの斎宮跡の発掘調査ではこれほど平安時代末期の遺構が集中して検出された例は少ない。かねがね史跡中央部一帯には平安時代後半から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が卓越する点が指摘されてきている。今回の調査データのみでは、残念ながらこの地域の正当な評価には及ばなかったが、平安時代前半の方格地割の構造と内容の解明とともに、斎王制度終焉のこの時代の様相もまた古代史研究あるいは中世史研究の上での重要課題と言えよう。今後の再検討の機会に期したい。（大川勝宏）

## IV. 第100次調査

6ABI-T（中垣内地区）

### 1. はじめに

第100次調査は、本年度第2回目の計画調査として平成5年7月8日から10月6日にかけて実施した。調査地は史跡西部の台地縁辺部にあたる大字竹川字中垣内423番地に所在し、斎宮歴史博物館の南方約500m、近鉄山田線北側の現況畠地に立地する。西側の段丘低位面は祓川の沖積地で現況水田地帯となる。調査区は東西24m×南北12mを設定し、面積は280m<sup>2</sup>である。

史跡西部の古里・中垣内地区はかつて古里遺跡と呼ばれ、斎宮跡発見の端緒となった地域であるが、これまでの調査成果から飛鳥時代～奈良時代と平安時代末期～鎌倉時代を中心とする遺構分布が顕著であり、弥生時代の遺構・遺物の存在も知られる地域である。

調査区周辺では、計画調査として昭和55年度第30次調査、昭和56年度第36次調査が行われ、飛鳥時代～奈良時代を中心とする堅穴住居・掘立柱建物等の遺構や三彩陶器・円面鏡等の遺物が発見され、当該時期の斎宮跡を考える上では貴重な資料を得ている。また、昨年度実施した第97次調査では所謂鎌倉時代大溝と重複すると考えられた奈良時代大溝が現在山林となっていいる旧竹神社・小倉神社跡地内に延びていくことが確認された。

近年この地域では現状変更に伴う事前調査として小規模な調査が数箇所で実施されているにすぎないが、調査区の西隣、平成2年度第85-8次調査では飛鳥時代の柵列S A6280やそれに伴う掘立柱建物S B6279が検出されている。また、線路を挟んで南側でも昭和60年度の第58-6次調査において飛鳥時代の柵列S A4281・4282が確認されている。

今回の調査は、斎宮跡の成立期及び終末期を考える上でこれまで面的な調査が充分とは言えない状況であった当該地域の遺構・遺物の実態を解明するための資料を蓄積することを主たる目的とした。

### 2. 遺構

遺構検出面（地山）は現況表土面から60cm～80cm下で検出したが、調査区東辺で標高13.4m、西辺で13.6mと西から東に向けてやや傾斜している。基本層序としては上層より表土（褐灰色土）、遺物包含層（黒褐色土）、地山（黄橙色土）である。

主な遺構としては、柵列4条、掘立柱建物8棟、溝4条、土塙14基がある。東西溝を境として南北に柵列・掘立柱建物等の柱穴が密集し、北半には土塙が疊らに見られる。

#### （1）弥生時代の遺構

土塙SK6944～6946がある。SK6944は深さ約20cm、直径約1.4mの円形土塙で南半分を検出した。SK6945は2.8m×2.6mの不整円形、深さは約60cmである。SK6946は深さ約30cmで1.6



第13図 調査区位置図 (1 : 2,000)

m×1.0mの隅丸長方形を呈する。埋土からはいずれも弥生土器小片が出土した。

#### (2) 奈良時代前期の遺構

柵列4条、掘立柱建物8棟、溝4条がある。柵列S A 6940~6943は調査区南部、東西方向でほぼ一直線上に重複しながら柱穴が並んでおり、柱列の方位はいずれもE 0°Wを示す。

柵列S A 6940の柱間はほぼ2.1m等間であり、東西方向で10間分を検出した。柱掘形は重複のため不明瞭だが、柱穴の直径は20cm~40cm、深さは40cm前後を測る。S A 6941の柱間は2.0m~2.2mとやや一定でなく9間分を検出したが、東端で検出した柱穴から南折する可能性をもつ。

柵列S A 6942は柱間2.4m等間でS A 6940と重複して9間分確認した。S A 6940・6942は調査区外の東西に延びるものと考えるが、S A 6943は調査区の中央付近で終わっており、しかも北あるいは南に延びる柱穴は見られず柵列とした。柱間は2.7m等間で4間分を確認し、柱穴は直径約30cmで深さ40cm前後を測る。これらの柵列は出土した遺物が細片のため包含層・遺構上面で奈良時代前期の土器が比較的多いことを根拠に時期決定をした。なお、新旧関係は柱穴の切り合いより古い方からS A 6940→S A 6941→S A 6942→S A 6943と考えられる。

調査区南部で掘立柱建物S B 6950~6955、北東部でS B 6956・6957を検出したが、桁行や梁行の総長が確認できないためその規模全体は不明である。また、柱穴からの出土遺物があまりに細片であるため詳細な時期決定は難しいが、棟方向はいずれも柵列に対してほぼ並行あるいは直交し、柵列と重複するS B 6951・6954を除くと同時期の可能性をもつ。

掘立柱建物S B 6950は柱掘形が一辺約60cmの方形を呈し、深さ約60cm、柱痕跡は直径約25cmを測る。柱間は2.4mで東西1間分を検出したが、対応する柱列を確認できなかった。S B 6951は桁行2間以上×梁行1間以上の東西棟と思われる柱間は2.1m等間、桁行の柱列は柵列S A 6941と重複する。

	遺構の種別			
	S A	S B	S D	S K
弥生時代				6944 6945 6946
奈良時代前期	6940 6941 6942 6943	6950 6951 6952 6953 6954 6955 6956 6957	6960 6961 6962 6963	
平安時代後期				6949
時期不明				6947 6948 6958 6959 6964 6965 6966 6967 6968 6969

第4表 時期別遺構分類表

S B 6952・6953は南北棟と考えられ、梁行2間分を検出し、柱間隔はそれぞれ2.1m、2.3mを測る。S B 6954は柱間2.1m等間で東西1間×南北1間を確認したが、柱掘形は一辺約50cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さ約30cmを測る。S B 6955は柱間2.1mで東西1間分を検出した。柱掘形は一辺約60cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さは45cm程度である。S B 6956・6957は東西1間以上×南北1間以上を検出したが、柱間はそれぞれ2.1m、2.7mである。

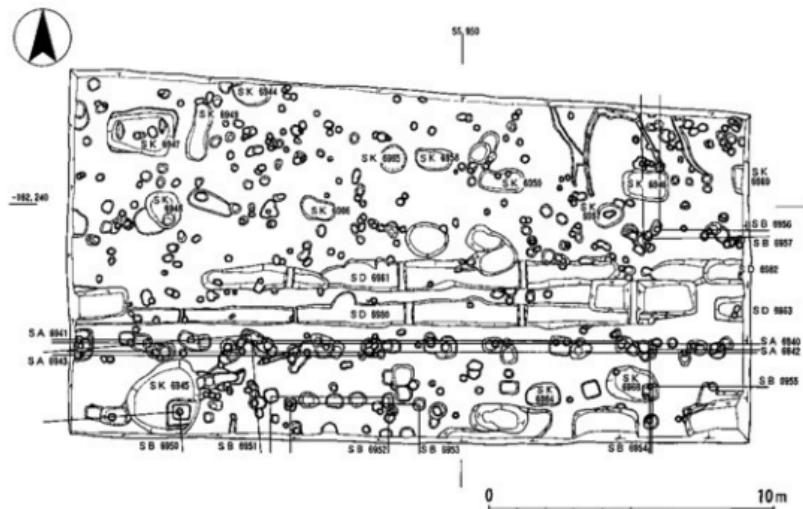
溝 S D 6960～6963は調査区中央で検出した東西溝で槽列 S A 6940の北側に位置し、幅50cm～80cm、深さ10cm～30cmを測る。S D 6960は確認長20.5m、東へ約2mの間隔をおいてS D 6993が続く。S D 6961・6962はS D 6960のさらに北側約1.2mで並行し、確認総長はそれぞれ14.8m、3.2mである。出土遺物は少ないが、槽列と並行することから同時期の可能性がある。

#### (4) 平安時代後期の遺構

土塹 S K 6949は、2.0m×0.7m、深さ約30cmの南北に長い梢円形土塹で、土師器杯がほぼ完形で出土した。

#### (5) 時期不明の遺構

土塹 S K 6947・6948・6958・6959・6964～6969がある。遺物としては弥生土器や奈良時代、平安時代末期～鎌倉時代の土師器及び山茶椀の細片が混在するなど時期決定が難しいものである。S K 6965は完掘できなかったが、深さ1.5m以上、直径1mの素掘りの井戸と考えられる。S K 6967は直径1mの不定円形で深さ40cmを測り、埋土には木炭片が多量に含まれていた。



第14図 遺構実測図（1：200）

### 3. 遺物

第100次調査での出土遺物は遺物整理箱にして42箱あるが、遺構に伴うものは少なく大半が包含層からの出土で完形品は皆無に等しい。弥生時代の土器としては、前期から中期の壺・甕破片が少量出土しているが、前期後半（1～12）と中期前葉（13～17）のものがある。飛鳥時代の遺物では、須恵器杯（18）と古相と考える土師器椀（19）がある。奈良時代前期に比定する土器（20～24）は出土遺物の中心となり、b手法による調整の土師器皿（21）・杯（22）がある。S D6960出土の杯B（23）は、口縁端部をヨコナデし、体部外面をヘラミガキ、内面は放射状と螺旋状2段の暗文を施したものである。また、平安時代初期から前期とみられる土師器（25～28）や平安時代後期の土師器杯（29・30）や灰釉陶器皿（31）が出土している。平安時代末期としては、山茶椀（32）、土師器皿（33）がある。特殊な遺物としては、綠釉陶器片3点、黒色土器片5点、青磁片3点、転用硯2点、その他ふいごの羽口及び鉄滓も出土している。

### 4.まとめ

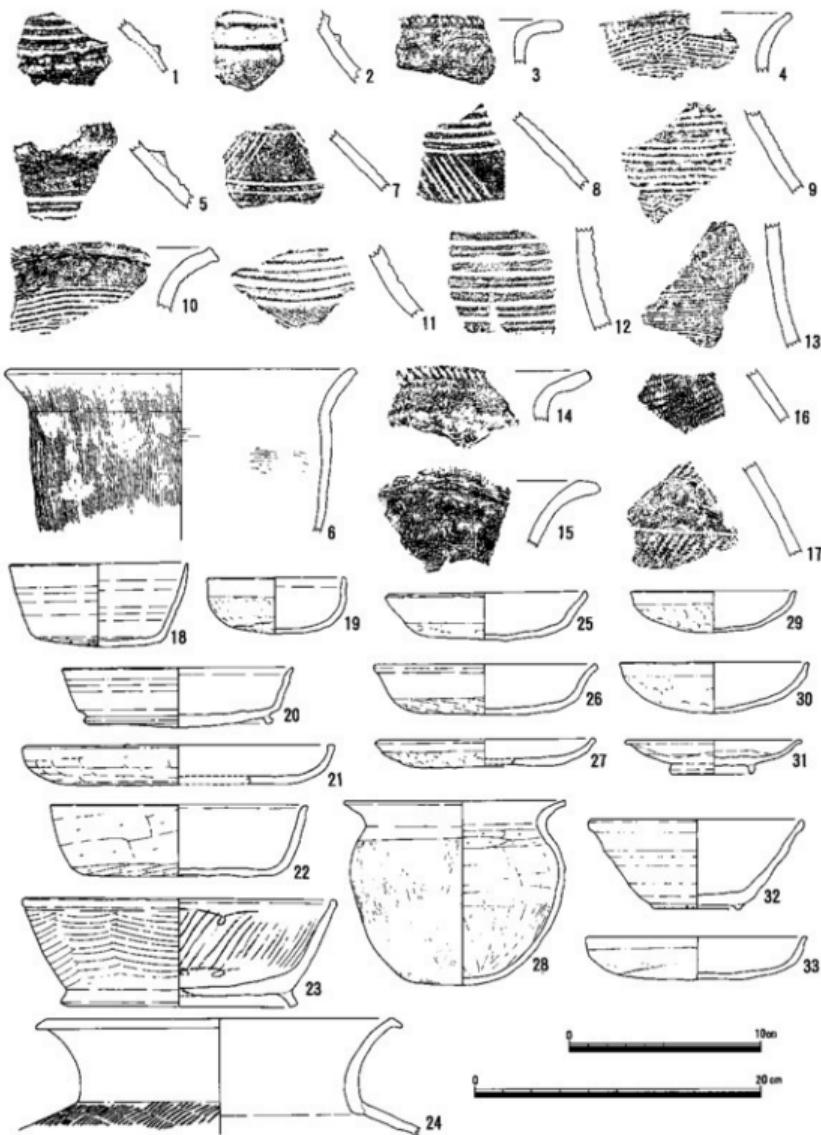
中垣内地区を中心とした台地西辺部における遺構・遺物の状況等を知ることを主たる目的の一つとした今回の調査では、弥生時代前期から中期の遺構・遺物を確認した。周辺ではこれまで当該時期の竪穴住居が検出されているが、調査区の南西約800mに所在する金剛坂遺跡など祓川にのぞむ台地西辺には弥生時代において小単位の住居群が点在する集落が営まれており、斎宮成立以前の当地域を解明する上でも貴重な資料となった。

今回検出された柵列の柱通りは東西の方位とほぼ合致するものであるが、調査区北側の古里・中垣内地区で確認された飛鳥時代～奈良時代の建物の棟方向はいずれも北に対して東や西に相当大きく振れるものが多く、竪穴住居から掘立柱建物への変遷が見られることが判明している。

これまでの調査結果では、第30次調査の奈良時代のS B1616・1620の棟方向はN37°Eを示し、S A1674はN31°Eの方位を持つ。第36次調査における奈良時代の掘立柱建物群の棟方向はN30°EからN19°Eへと変移する。調査区西隣、第85-8次調査のS A6280やS B6279の方位はN33°Eを示し、新旧関係よりS B6290の棟方向はN1°Eと移行する。また、近鉄線を挟んですぐ南側の第58-4次調査で検出したS A4281・4282はN1°Eである。

すなわち柵列や建物の柱通りは飛鳥時代から奈良時代にかけてはN30°E前後→N1°Eへ、奈良時代ではN1°E→N30°E→N19°Eへの変遷が考えられる。今回奈良時代前期とした柵列S A6940～6943の柱筋は東西方向のE0°Wを示し、N1°Eとの関連性が重要視される。したがって、これらの柵列は飛鳥時代末から奈良時代初頭にかけて大幅な変換期を迎えることと、新たな柵列による大規模な区画が構成されることが想定される。なお、これらの検証は今後の面的調査の展開に拠るところが大きいが、当該地区や古里地区を合わせた史跡西部一帯は、飛鳥時代～奈良時代の斎宮を解明するための重要な鍵を握るものと考える。

（野原宏司）



第15図 出土遺物実測図 包含層出土：1～6, 8～22, 24～28, 31～33 SK6945：7  
 SD6960：23 SK6949：29, 30 (1～5, 7～17は1：3)

## IV. 第101次調査

### 6 ADG (篠林地区)

#### 1. はじめに

今年度3回目の計画調査は今年度史跡整備を予定している上園公園の北西の旧畠地の調査である。これまでの調査で確認されてきている史跡東部の方格地割は、昨年度の史跡現状変更に関わる第96-5次調査で八脚門 S B 6850と櫛列 S A 6849が発見されて東西の広がりが最大で7区画まであった事が確認された。第101次調査は方格地割の南北方向が4列とみた場合、北西の隅と目される地点を調査し、方格地割の範囲を明確にする事を主たる目的として実施した。

これまでの周辺の調査では、東南東で第82次調査が実施されている。この調査では、調査区の北端で方格地割の北辺の区画溝 S D 0291の延長部分の可能性のある S D 0136と S D 5602が確認されている。また南南西の第87次調査では、方格地割範囲に沿って S D 0207が屈曲する事が確かめられている。これらの溝はいずれも鎌倉時代に埋没したものだが、何らかの形で方格地



第16図 調査区位置図 (1 : 2,000)

割の規制を受けていたものと考えられている。今回の調査地には史跡範囲確認の際に実施した第8-1次調査のFトレンチがかかるが、平安時代の南北溝S D 0083と鎌倉時代の南北溝S D 0081、S D 0082が見つかっている。他の遺構としては史跡西部には一般的に言えるが、奈良時代や鎌倉時代のものが中心になる事も知られている。

第101次調査はこれらの成果を受けて、方格地割の北西隅と推定される部分の具体相の解明が期待された。調査は平成5年7月19日から10月13日まで、540m<sup>2</sup>を対象に実施した。

調査地は標高10.8mほどの畠地であったものを公有化しており、0.5m～0.6mの掘削で遺構面に達する。遺構面は10cmほどの高低差で西から東に極めて緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。表土の下は砂質を含んだ黒色土の包含層で、飛鳥時代～奈良時代・鎌倉時代の遺物を大量に含み、綠釉陶器も27片出土している。

## 2. 遺構

今回の調査では建物跡は全く発見されず、奈良時代～鎌倉時代の溝11条と道路とみられる遺構、鎌倉時代の墓3基が確認された。また、樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が多数散在しており、倒木痕とみられる擾乱土塗もあるところから、以前は一時期林地となっていたものとみられる。

### (1) 飛鳥時代の遺構

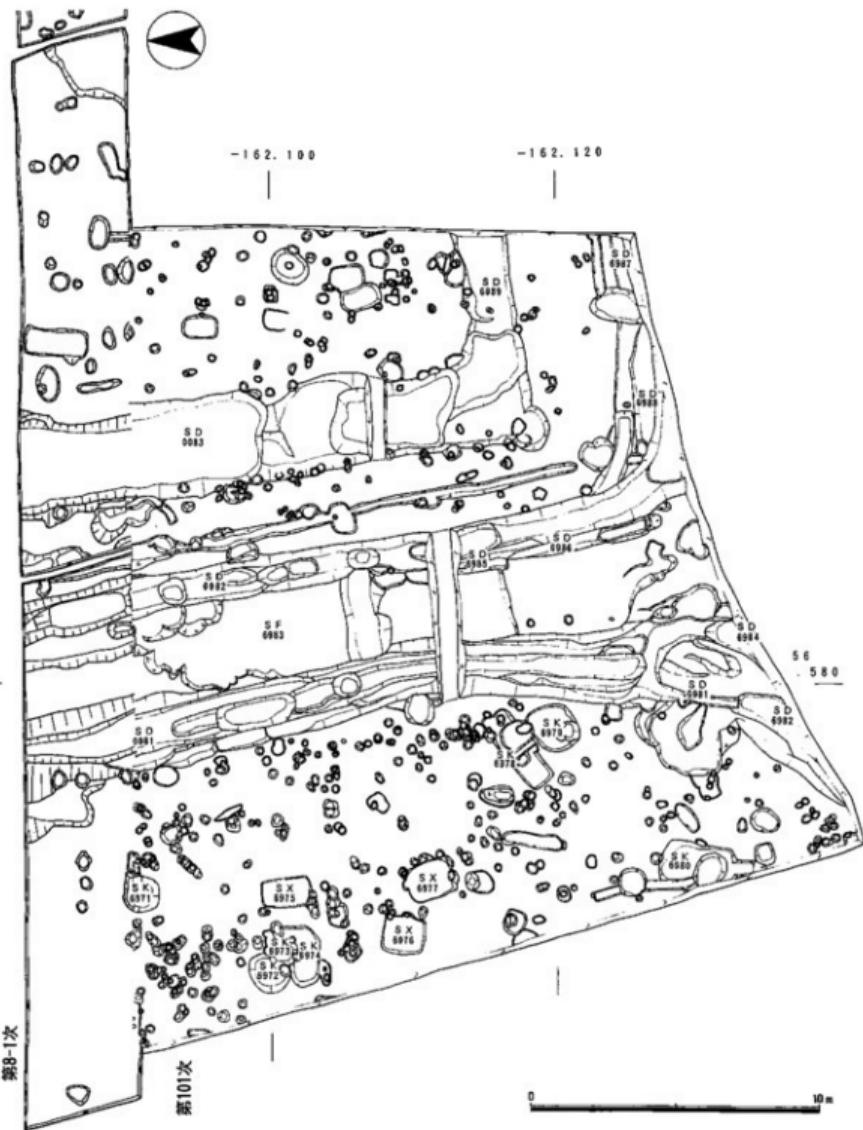
土塙SK 6979がある。径1.7m×1.5m、深さは遺構面から約30cmで土塙内からは飛鳥時代後葉の土師器直口壺1個、壺3個体以上が出土した。近辺では第82次、第87次調査でも当該期の遺構は見つかっていない。

### (2) 奈良時代の遺構

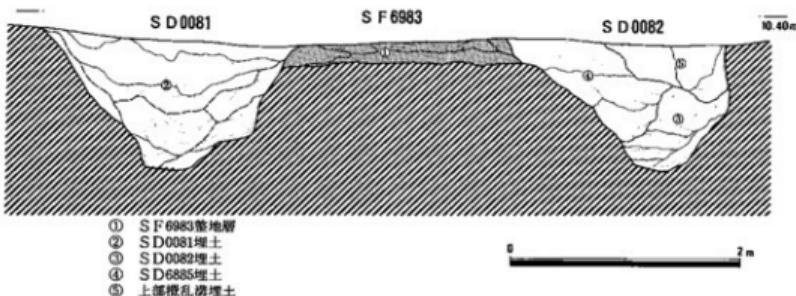
土塙SK 6978は2.7m×1.0mの長方形の土塙で、深さは遺構面から約20cmである。遺物は少なく、須恵器片や土師器片がわずかにみられるのみだが、土師器皿にはb手法による調整が施されており、奈良時代でも後半のものと思われる。

		遺構の種別			
		S K	S X	S F	S D
飛鳥時代		6979			
奈良時代		6978			
平安時代	前期				6988
	後期				0083 6987 6989
	末期	6972 6973 6974			6981
鎌倉時代		6971 6980	6975 6976 6977	6983	0081 0082 6982 6984 6985 6986

第5表 時期別遺構分類表



第17図 遺構実測図 (1 : 200)



第18図 SD 0081・0082・SF 6983断面図 (1:50)

#### (4) 平安時代の遺構

土塹3基、溝5条がある。以下時期別にみていく。

平安時代前期では道路側溝と考えられる東西溝SD 6988がある。遺構埋土は漆黒色で、幅は80cm以上、断面は緩やかな逆台形状になる。遺物は少なく土師器杯・甕片や須恵器甕片が僅かにみられ、埋没は平安時代前II期（9世紀後葉）、掘削はさらに遅るものとみられる。現農道に沿って斎王の森の方向へ直線的に伸びて第8次調査Fトレンチと繋がると考えるならば、第82次調査のSD 5604やSD 5605など、平安時代後期とされる溝と溝心間で約6mの間隔を持つ東西道路が延びていたものと考えられる。

後期では道路側溝とみられる溝が3条ある。調査区の東部をL字状に掘削されたSD 0083はそのままSD 6989に続き、東にのびていく。後述する鎌倉時代のSF 6983の東側溝SD 0082などに先行する溝の可能性がある。幅3.4m～2.0m、深さ40cmほどの浅い溝で、埋土は黒色土である。調査区内での溝底の高低差はほとんどない。東山72号窯式期の灰釉陶器碗の他、土師器杯・皿、須恵器片、土錐が出土しており、これらの遺物から後I期（11世紀前半）に埋没時期が求められる。この東方での延長部分と考えられる溝が第8次調査FトレンチのSK 0133と繋がるとみると、第82次のSD 0136やSD 5602と溝心間で9.4m、肩間で約8.0m幅の道路が想定できる。SD 6987はSD 6988に重複するほぼ同規模の溝で、灰釉陶器模倣のロクロ土師器碗や土師器片が出土しており、後II期に相当するものとみられる。

末期では土塹3基、溝1条がある。

SK 6972・6973・6974は調査区北西部の土塹で、重複関係からはSK 6974→SK 6972→SK 6973の順になる。いずれも不整規円形でSK 6972からは土師器片が、SK 6973からはロクロ土師器杯片や土師器小皿・鍋、渥美産とみられる山茶碗・山皿が、SK 6974からは土師器片が出土しているが、遺物の上では時期差は看取できない。溝では道路側溝と考えられるSD 6981が

ある。鎌倉時代に埋没する S D0081などの下部で確かめられた検出幅35cmほどの溝で、山茶碗片、青磁片、土師器鍋片が出土した。

#### (5) 鎌倉時代の遺構

土塹2基、中世墓3基、溝6条、溝に面される道路遺構がある。

S K6971とS K6980は調査区の北西端と南西端で検出されている。S K6971は直径1.3m、遺構面からの深さ約30cmの円形土塹で、土師器片が出土しており鎌倉時代のものとみられるが、詳細な時期は判別できない。S K6980は長径2.8m、深さ約25cmの土塹で、土師器鍋・皿・小皿が出土した。伊藤裕作氏の分類で第Ⅱ段階c型式の土師器鍋が含まれ、13世紀後葉から14世紀初頭のものと考えられる。

中世墓S X6975は長辺1.8m、短辺1.0m、深さ25cmで、北側に古瀬戸施釉陶器碗片1片、土師器鍋1点・皿4点・小皿1点・鉄製刀子1本がかためて埋納され、土師器皿(7)は鍋(10)の中に入れられていた。遺物から13世紀前葉に属するとみられる。S X6976とS X6977はS X6975の南2.5m~3.0m離れたところに隣接して掘削されている。いずれも長辺1.5m~1.6m、短辺1.3m、深さ30cm~40cmで、S X6976からは土師器皿3点・小皿2点が、S X6977からは土師器皿1点・小皿6点・鉄製短刀1本が墓塙の北あるいは北西にかためて埋納されていた。この2基の遺物はいずれも13世紀後葉から14世紀初頭のものとみられ、時期差は判断しがたい。

溝はいずれも道路側溝と考えられる。S D0081とS D0082は道路遺構S F6983の東西の側溝で、断面はいずれも弱いV字状を呈する。埋土から数次の掘削および堆積が認められるが、径5cm~7cmの円碟や砂質を多量に含む黒褐色土で、溝底はS D0081で9.3m~9.0m、S D0082で9.5m~9.3mで北から南に傾斜している。S D0081は南で緩やかに南西にカーブして一度溝底が持ち上がった後、S D6982やS D6984に繋がる。さらにS D6982は調査区外で再び南に方向を変えて第87次調査のS D0207に続くものと考えられる。ただしこのS D0207は逆に南から北に傾斜しており、これらの溝は道路側溝あるいは区画溝の性格が強い事が看取される。S D0082も南でS D6985に続き調査区南端で大きく東に折れ、現農道に沿って続くものとみられる。これらの埋土内の遺物には土師器皿・小皿・鍋、ロクロ土師器杯、山茶碗、常滑産陶器壺片などがみられ、最終の埋没年代は13世紀後葉から14世紀初頭の中で考えられる。

道路遺構S F6983は地山面まで掘削したため、遺構面に凹凸があるが、この上面には土器片や径約15cmの亜角碟による整地層がある。道路幅は両肩間で2.8m~3.0mで側溝底からの高低差は1m前後となる。遺物は磨耗が著しい物が多く、高杯・壺片などの土師器片、ロクロ土師器片、渥美産とみられる第7型式の山茶碗や須恵器片が混在し、この整地層は道路両側溝の最終埋没時期に近い13世紀後葉から14世紀初頭に位置付けられるものと考える。因みに道路の方向はN10°Wほどと想定され、方格地割とは様相を違える。

### 3. 遺物

今回の調査では整理箱で23箱の遺物が出土している。ほとんどが土器類で、包含層からの出土が多く、溝からの出土はあまり多くはないが、中世墓と一部の土塙からはまとまった資料があり、これらについて述べたい。

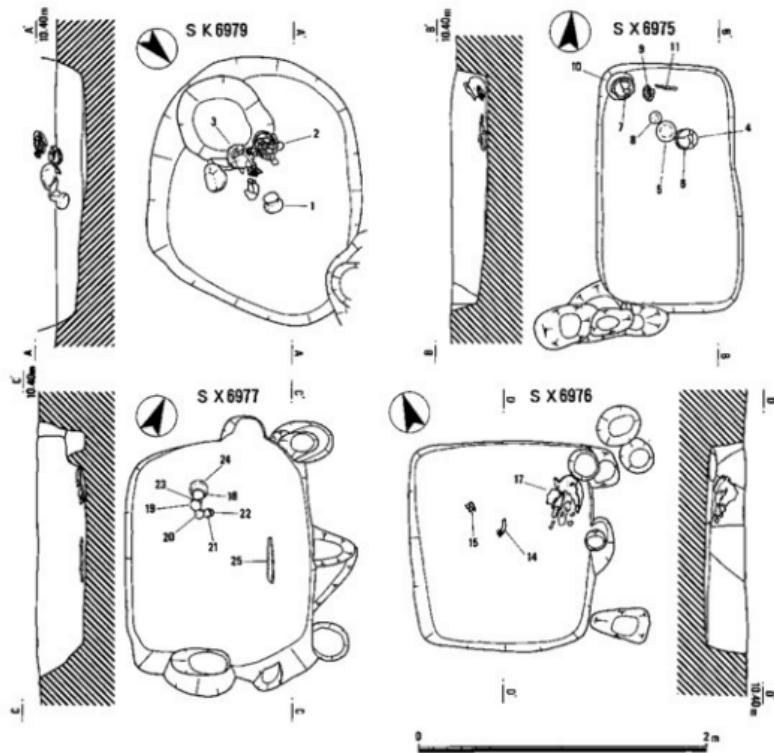
S K6979からは飛鳥時代の遺物がある。いずれも土塙の底部からは浮いた形で出土しているが、図示した資料は共時性の高いものとみられる。土師器直口壺（1）は器表面を細かいハケメで調整するが、緻密な胎土で精良なつくりである。6世紀代の資料は南勢地方でも伊勢市豊河古墳・南山古墳・多気町河田古墳群など古墳出土の資料が認められるが、7世紀代には少なく、近辺では明和町北野遺跡で出土しているのみである。共伴する土師器壺（2・3）は同形のもので口縁部が強く外方へ屈曲し、概ね球形の体部で飛鳥時代でも後葉のものとみられる。

奈良時代の遺物は比較的少なく、包含層から土師器杯・皿片などが見られるにすぎない。

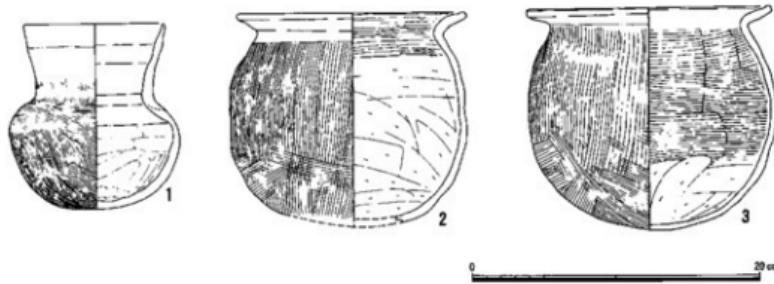
平安時代の遺物も包含層からの出土が大半で土師器・灰釉陶器がある。また綠釉陶器が比較的多量に出土しており特筆できる。灰釉陶器は折戸53号窯式期から東山72号窯式期にかけての碗・皿がある。綠釉陶器は27片あり、近江産とみられるものが顕著だが、狼投産とみられるものも少量ある。土師器は杯・皿を主とするロクロ土師器を含んだ平安時代後期のものが主体となり、全般に10世紀～11世紀の遺物が大半を占めている。

鎌倉時代の遺物は今回の調査では最も多量に出土しているが、まず3基の中世墓からの出土品があげられる。S X6975からは最も豊富な資料が出土しており、土師器皿・小皿・鍋・古瀬戸施釉陶器碗片・鉄製刀子がある。土師器鍋（10）は伊藤裕偉氏の編年で第I段階b型式に相当し、また土師器皿（4～7）は口径13.6cmほどのものと15cmを越えるものがあり、第49次調査のS X2990に相当する時期のものとみられることから、13世紀前葉に位置付けられるであろう。古瀬戸施釉陶器（9）は2分の1ほど欠失した状態で埋納されたもので、淡緑青色の灰釉が内外面に施される。

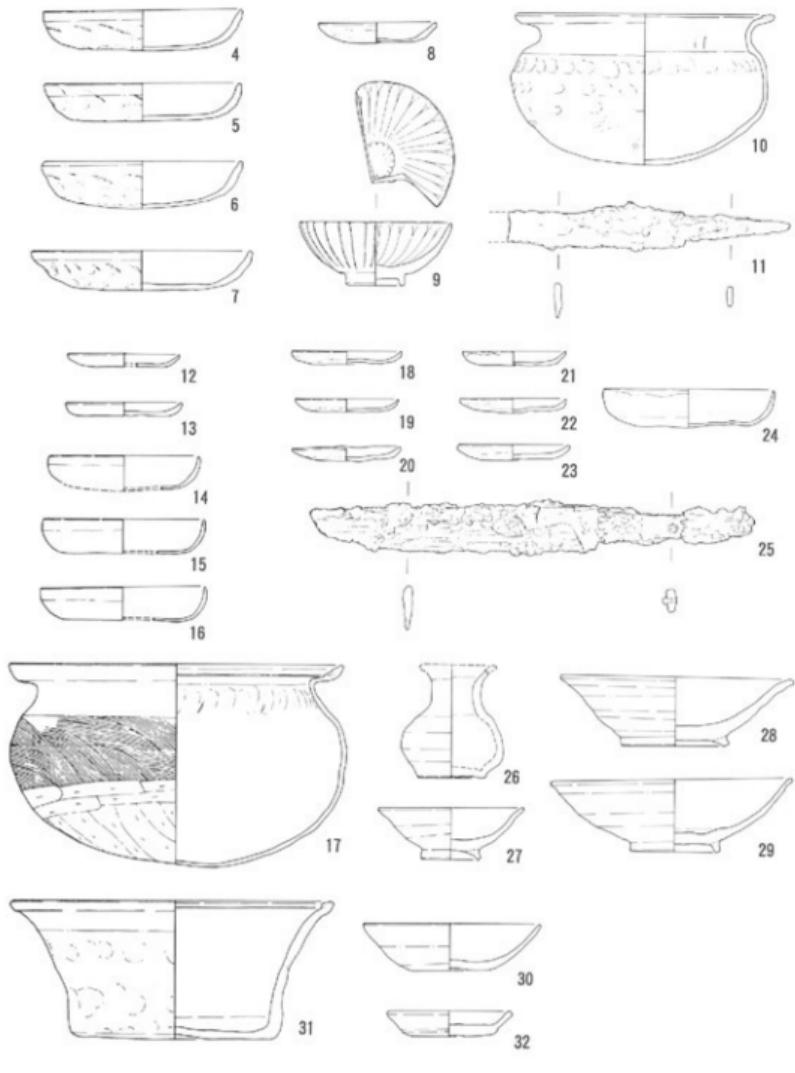
S X6976からは土師器皿・小皿・鍋が、S X6977からは土師器皿・小皿と鉄製短刀が出土している。これらの土師器皿は口径10.2cm～11.8cmで口縁部がやや内寄り気味に立ち上がるものの、小皿は口径7.2cm～8.0cmで、口縁端部をやや上に引き上げてまとめるもので、S X6976の鍋も伊藤氏の分類の第II段階c型式に相当すると考えられ、13世紀後葉～14世紀初頭のものとみられる。S X6976とS X6977の間には遺物の上でも時期差はほとんどないものとみられる。鎌倉時代の遺物はこの他にS F6984の路面整地層から磨耗した多量の山茶椀類が、またこの両側溝S D0081・0082などからも山茶椀・土師器皿・鍋片が出土しているが、これらも13世紀後葉～14世紀前葉のものとみられる。その他の遺物としては無釉陶器の小瓶（26）や灰釉陶器模倣のロクロ土師器碗（29）が注目される。また粗製の土師器鉢（31）は13世紀後葉以降のものと考



第19図 土塁・中世墓実測図 (1:40)



第20図 出土遺物実測図 SK 6979



第21図 出土遺物実測図 SX6975: 4~11, SX6976: 12~17, SX6977: 18~25, SD6984: 26~27,  
SK6973: 28, SF6983: 29, SD0081: 30, 包含層31・32

えられるが、類例が知られない資料である。

平安時代末期～鎌倉時代の特殊遺物とされるものとしては、他に中国陶磁器類があり、白磁片2点、青白磁片2点、青磁片4点が出土している。

#### 4.まとめ

方格地割の北西隅の確認を目的とした第101次調査であったが、明確には平安時代前半の道路角や交差点を見出す事ができなかった。しかし、鎌倉時代の終わり頃には埋没あるいは廃絶した道路やその側溝が調査区の南側で東と東南東に分かれていく事から、この時期には道路交差点が存在していた事が窺われ、間接的ながらこの周辺が少なくとも鎌倉時代以前まで遡って「角」の意識を持たれていた事、その道路「角」はやや位置を西へずらして現在の農道の交差点にまで生き続けている事は判明した。また、道路側溝とみられる平安時代前期のS D6988やS D0083・6989などが残る事から、この「角」の意識はさらに遡及できる可能性は充分にある。

方格地割の北西地域では、第78次調査などでみられるように、史跡を北西から南東に横断する奈良時代古道の影響もまた根強く残る地域として知られている。また、今回調査地の南方の第49次調査などでも方格地割の規制はむしろ希薄であるといえる。しかしながら、こうした複雑さの解明という課題は残されたものの、今回調査地の一角が地割りのコーナーの部分である事はほぼ判明したと言えるだろう。

最後に中世墓についてふれたい。今回発見された3基の中世墓の他にも周辺では第49次調査のS X2990（13世紀前葉）、第50次調査のS X3084（平安時代中期）、第93次調査のS X6533・6534・6537（13世紀中葉～後葉）などの墓遺構が見つかっている。こうした遺構はその性格上斎宮とは相いれないはずのものであるが、今までのところ斎王制度廃絶後の14世紀中葉以降に入る墓遺構は見つかっていない。これは建物などの遺構でも共通して言える点で、こうした墓であっても斎宮の消長とは何らかの関連があった可能性は考えられる。墓の規模・性格あるいは分布について今後再検討が必要であろう。

（大川勝宏）

注) 伊藤裕伸「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』Vol. 1 1990

## V. 第103次調査

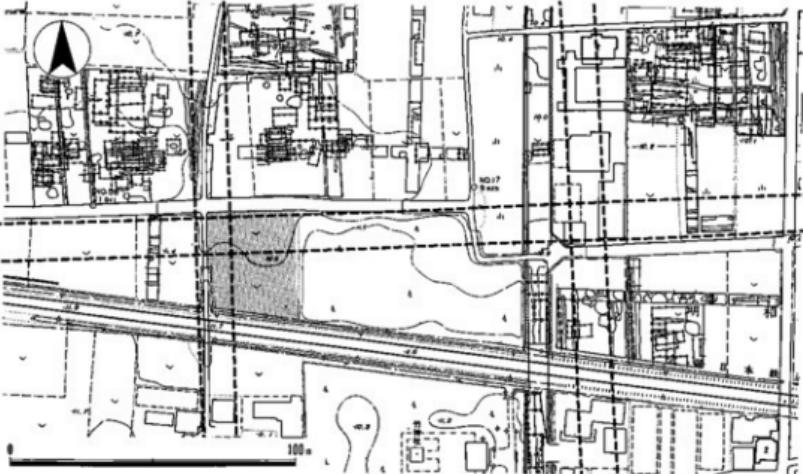
### 6 AEQ-A (柳原地区)

#### 1. はじめに

史跡斎宮跡東部に東西7列南北4列まで想定されている方格地割の中でも、第44次、第46次、第98次調査などで大規模な柵列や大型の掘立柱建物などが発見され、鍛冶山地区を含む区画が平安時代前半の斎宮の極めて重要な部分である事が判明してきている。そしてその西側の区画も、式内社竹神社が鎮座する事からも重要なポイントである可能性が考えられてきた。

この一帯では、第19次、第20次、第28次、第55次という一連の御館・柳原地区の調査で、二面庇の大型掘立柱建物などがL字形に配置されたり、多数の建物が重複して建て替えが行われた様子が窺われ、竹神社のすぐ北側の区画では官衙として重要な部分があった可能性が指摘されてきている。しかしながら、竹神社を含む区画そのものの調査は、大半が近鉄山田線の南側に入り、近世の参宮街道沿いの住宅密集地にもかかる事から、広域圏道路建設に先立つ第10次調査や第44次調査の一部で調査された以外はほとんど資料の蓄積がない。

しかし、これまでの僅かな調査の中でも、第44次調査区の西半部で方格地割を構成する幅約13.7mの南北道路とその内側の区画東辺を画する柱間約3mを測る大型の柵列S A2655が見つかっており、方格地割内でも一部でしか同様な柵列が見つかっていない点は、この竹神社を含む区画が斎宮において重要なポイントである事を示唆しているとみられる。



第103次調査は、この竹神社を含む区画の情報、就中、区画北西の東西・南北の道路交差点の検出と、先述の第44次調査のS A 2655に対応する北辺、西辺の橋列を確認し、この区画の性格を解明する事を目的とした。調査は、柳原地区の農道と近鉄線に沿って1,170m<sup>2</sup>の調査区を設定し、平成5年10月4日から平成6年1月25日にかけて実施した。現況は標高約10.7m～11.1mで、南から北へ緩やかに傾斜している。黒褐色系の表土と包含層は比較的薄く、調査区北で約30cm、南でおよそ40cm～60cm掘削した段階で認められる橙色から黄褐色の粘性が強い洪積層（地山）を遺構面として捉えた。遺構面は標高10.5m前後でほとんど起伏差がない。

包含層は調査区の北半では多量の粘土質や直径5cm前後の礫を含み、遺物の出土はほとんどみられないが、南半では奈良時代から平安時代後期の土器類が含まれていた。

## 2. 遺構

遺構は、奈良時代後期から鎌倉時代までおよび、堅穴住居1棟、掘立柱建物23棟、溝26条、土塙12基を検出した。調査区の北半と西3分の1に東西と南北の道路遺構が広がり、東南部の面積にして4分の1ほどに建物跡などの多数の遺構が密集する。この部分の標高は10.2mで、やや下がるが、その他は全体に10.4m～10.5mではほぼ均平である。

### （1）奈良時代後期の遺構

堅穴住居S B 7045が調査区の南端で検出された。南辺が調査区外に伸び、東側にS K 7046が重複するため全体は窓い知れないが、一辺約4mの方形プランになるものとみられる。遺構面からの深さは約40cmで、土師器杯・皿・把手付鍋、須恵器杯・無台杯・蓋など床面から浮いた状態だが比較的多量の遺物が出土している。柱穴やカマド等の施設は検出されなかった。

		遺構の種別				
		S A	S B	S F	S D	S K
奈良時代		7045				
初 期	6999 7000			6990 7010		7046
	7050				6991 6992 7003	
平 安	7016	7020 7024 7033 7047 7049			7004 7032 7034 7035	7008 7017 7039 7053 7055
	7018 7019 7021 7023 7025 7028				6995 7009 7011 7036	7030 7040
時 代		7022 7026 7027 7037 7038 7041 7042 7043 7044			7012 7013 7014 7015 7054	
		7048			6993 6994 7005 7006 7007	7029 7031
末 期						7051 7052
鎌倉時代					6996 6997	
時期不明					6998 7001 7002	

第6表 時期別遺構分類表

## (2) 平安時代初期の遺構

この時期に成立したと考えられる道路遺構と柵列2条、土塙1基がある。

調査区北半の東西道路S F 6990と南北道路S F 7010は平安時代初期に成立したと考えられている方格地割の区画道路である。後述するが、側溝は埋没時期が平安時代の前Ⅰ期から後期にわたるが、後Ⅱ期にはS F 7010にはS D 7005やS D 7007が、末期にはS F 6990の中央部には土塙S K 7051とS K 7052が掘削されるなど、調査区内では廃絶していったようである。しかし、その後も東西道路は北へ、南北道路は西へ幅員を狭めて現代の農道に継承されている。道路面はS F 7010は後世の搅乱のため詳らかではないが、S F 6990は他の遺構が比較的少ないため、明瞭に観察される。なおS F 6990の遺構面上は、径2cm～4cm程度の亜円礫や固結した粘質土が5cm～10cmの厚みで覆っていた。

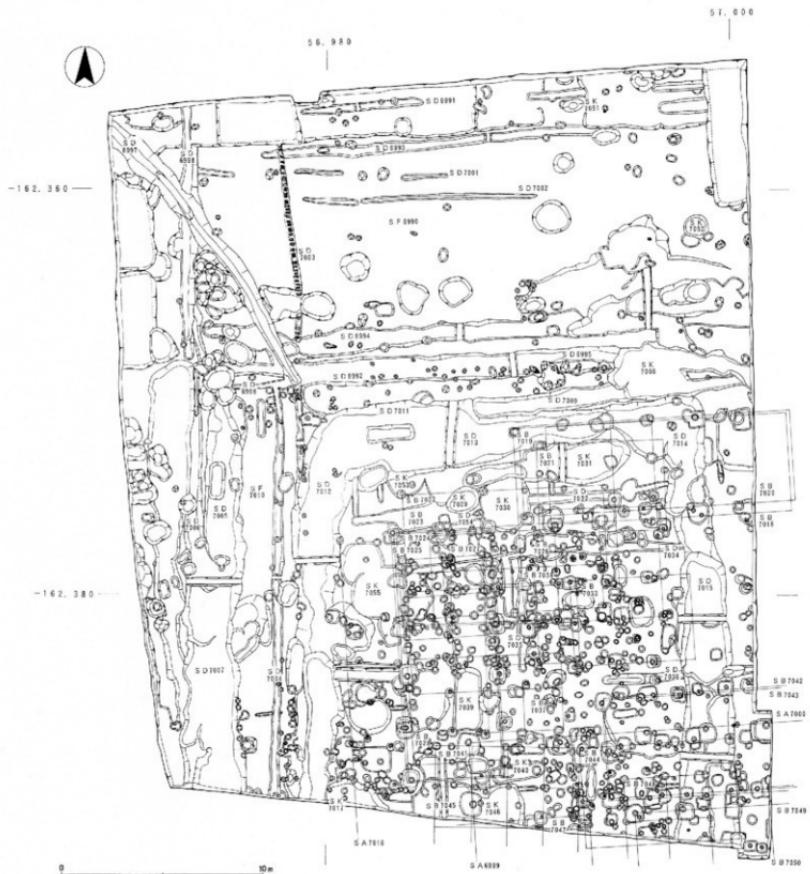
柵列はコーナー部分を挟んで東西方向と南北方向の調査区外に伸びている。S A 7000は東西に5間、S A 6999は南北に1間分が検出された。いずれも柱穴の掘形が一辺1.1m～1.3m、柱痕跡は直径約40cmを測る。柱間寸法はS A 7000、S A 6999いずれもほぼ3mを測り、平安時代初期の基準尺のひとつと考えられている1尺=0.296mでみると1間10尺の規模といえる。これは第44次・第46次・第88次・第92次・第98次調査で確認されている鍛冶山地区のS A 6760・6770等、第83次・第84次調査でのS A 5840、第70-3次・第96-5次調査のS A 5110・6849と同等の規模を持つ極めて大型の区画施設であり、平安時代初期のうちに廃絶すると考えられるものもある中で、当地区では前Ⅰ期までは存続していたものと考えられる。

調査区南端で検出されたS K 7046は、短径で約2m、遺構面からの深さが約60cmの梢円形土塙で、土師器杯・高杯・甕・須恵器甕が出土している。

## (3) 平安時代前Ⅰ期の遺構

調査区南東端で検出されたS B 7050は、柱穴2個が調査区東壁にかかって検出されたのみだが、柱穴掘形は一辺約1mの大型建物であろうか。E 4°Nの棟方向を取り、先述のS A 7000などと共存していた可能性もある。

溝は3条あるが、このうちS D 6991とS D 6992はS F 6990の側溝となるものである。北側溝S D 6991は後世の搅乱・削平を受けているため断続的に確認され、南側溝S D 6992は平安時代中期のS D 6995に北肩を掘削されているがいざれも幅約50cmで、概ねE 3°Nの方向を取る。S D 6991は溝底高が10.1m～10.3mと東へ緩やかに傾斜するものの、S D 6992にはほとんど溝底の高低差がない。この溝によって画される道路の規模は、2条の心々間で約13.3mを測り、平安時代初期で基準尺とみられる1尺=0.296mでみると道路幅の規格は45尺とみることができる。また、S F 7010の東側溝となるものにS D 7003がある。幅は約30cmと細く、溝底高はおよそ10.3cm～10.4cmと緩やかに北へ傾斜している。長さ約16m分を検出したが、平安時代後Ⅰ



第23図 造様実測図 (1 : 200)

期のS D7012に南部は掘削されている。なお、この溝底には10cmほどの間隔で掘削時の鋸先痕とみられる窪みが連続して残っている。S F6990の中央部で北と南に分かれて溝の掘削を進めた様子が窺われ、掘削後短期間のうちに埋没したものとみられる。これら3条の道路側溝は埋土に包含される土師器片から埋没時期を前Ⅰ期に比定できるが、掘削時期は平安時代初期まで遡らせて考えられるだろう。

#### (4) 平安時代前Ⅱ期の遺構

掘立柱建物5棟、柵列1条、溝4条、土塙5基がある。

S B7020とS B7024はL字形配置で共存した建物と考えられ、S B7020は東辺が調査区外へ延びているものの、両者共5間×2間の規模を持つものと考えられる。S B7020南側柱とS B7024の北妻柱はその柱筋を揃えており、共通の計画性を窺わせる。S A7016はS B7024の西側に2.8mの間隔をおいて並列する柵列で、検出された北端の柱穴もS B7020とS B7024のラインに揃い、2棟の建物と共存した施設と考えられる。これらは柱穴の遺物から前Ⅱ期でも新段階のものとみられる。なお、平安時代初期に作られた大型の柵列S A7000・6999は当該期までには消失している。S B7033は東辺の柱列をS D7015に掘削されているが、3間×2間の東西棟とみられる。この建物の周囲には、柱筋から約2mおいて西側に、約1.5mおいて北側に雨落溝とみられる幅50cm～70cmのS D7034とS D7035が巡る（これらの最終的な埋没時期は平安時代中期～後Ⅰ期）。柱穴内の遺物は前Ⅱ期の古段階のもので、S B7020・7024に先行するものとみられる。調査区南端のS B7047は東西で1間分まで、S B7049は2間分が検出された。いずれも東西棟と考えられるが、桁行の柱筋を揃える事、柱間寸法が2.4mと共通である事から、相互に関連の強い建物とみられる。ただし柱掘形の規模はS B7047で一辺約70cm、S B7049で約1mと格差が認められる。

溝S D7004はS F7010の東側溝S D7003を踏襲した溝と考えられる。幅約50cm～60cmで、溝底の高低差はない。土師器杯や灰釉陶器片が出土しており、前Ⅱ期新段階に埋没している。ほぼ真北向き、S D7003とはやや異なる方向を取る。S D7032もE 6°NとS D6992などとやや異なる。幅約50cmで、前Ⅱ期新段階の土師器杯・皿などの大型破片が埋土に混入する。

S K7008・7017・7039・7053・7055はいずれも円形あるいは不整円形の土塙だが、特に調査区南端のS K7017は長径約3mの不整円形の土塙で、北半分を検出した。前Ⅱ期新段階の土器が大量に投棄されており、整理箱で17箱の土器が出土した。大半は土師器で、杯・皿・鉢・壺と若干の須恵器片、木炭片がある。

#### (5) 平安時代中期の遺構

掘立柱建物6棟、溝4条、土塙2基がある。

S B7018とS B7025は前代のS B7020・S B7024が建て替えられたもので、いずれも5間×

2間の規模を受け継ぐものとみられる。さらにS B7028はS B7025の敷地を踏襲している可能性がある。なおS B7028の柱穴からは折戸53号窯式期の灰釉陶器碗を模倣したとみられるロクロ土師器碗が出土している。S B7021はS B7018に重複して建てられた3間×2間の身舎に南面庇を持つE 2°Nの東西棟で、S B7018のE 4°Nとはやや棟方向は振るもの、位置的にはS B7028と対応する関係にあるものと考える。S B7019は5間×2間の南北棟の身舎に東面庇を持つものである。S B7023もS B7025のプランに重複するが東西棟に変化し、S B7019に後出するものである。

溝では前I期頃に埋没したS D6992を踏襲するS D6995と、E 6°Nとやや向きを変えて掘削されたS D7009・S D7011がある。後二者の埋土には若干のロクロ土師器が混在し、中期から後I期にかけて存続したものであろう。S D7036は幅60cmの溝だが、深さは10cm～30cmで部分的に落ち込み状の部分がある。

S K7030は2.4m×2.9mの円形土塗で、遺構面から約30cmの深さがある。整理箱で20箱出土した遺物の大半が土師器杯で、他に皿・鉢・台付鉢・甕と僅かに灰釉陶器碗・皿、須恵器片がある。検出した段階で数枚がまとまって投棄された状況がみられ、また大まかなブロックを想定して遺物は取り上げた。中期の古い段階から新段階にかけての形式幅が想定される。調査区南端のS K7040は2.7m×0.9m、深さ約30cmの長方形土塗で、ここからも整理箱で9箱の土器類が出土した。遺物の上ではS K7030より新相で、中期の新段階に属するものである。

#### (6) 平安時代後I期の遺構

掘立柱建物9棟、溝5条がある。

S B7022は先代のS B7023を規模を縮小して北へすらす形で建てられている。S B7026は3間×2間の東西棟で、これらは柱穴が直径30cm～40cm程度の小規模なものになる。調査区東南部のS B7042とS B7043は建て替えの関係を持つ。東辺が調査区の外へ続くが、(3)間×2間で柱穴の掘形は90cm×70cmと当該期の斎宮においては大型建物と言える。S B7042は柱間が2.4m取られ、規模などの点から前代に近く、中期末葉～後I期前半にかけての間に存続したものとみたい。なおS B7042が先行し、S B7043は平行の柱間寸法を約2.0mに縮小される。S B7044も4間×2間で、平行の柱間が約1.9mとS B7043に近似する点からS B7043に後出するものとみてよいだろう。これら5棟の東西棟は、いずれもE 3°～4°Nに平行の柱筋を揃え、方格地割の区画が意識されている。この他に4棟の総柱建物がある。S B7037は4間×3間の身舎の南側に3間分の庇が付くもので、比較的大型の総柱建物と言える。2間×2間のS B7027とS B7038は全く同一の規模を持つ。重複関係はないが、柱穴埋土の遺物からS B7038が先行するものと考える。調査区南端のS B7041も4間×(2)間の総柱建物で、N 1°Eの棟方向を取り、当区画内において方格地割の遺制がこの段階で弊えた事を示すと思われる。S B

7037等との先後関係を示す証左は無いが、この点から S B 7041は後Ⅰ期でも最後出のものと捉えておきたい。

S D 7012・7013・7014・7015はこれまでの建物密集地を「コ」の字形に囲むように掘削されている。幅が約2.0m～2.7m、深さは遺構面から30cmほどで、断面が浅いU字形を呈する。溝底の高低差は顕著ではない。この溝によって画される範囲は東西で約17m、南北で20m以上になるが、溝の北辺と西辺は初期からの区画道路の内側に収まるように掘削されている。なお、後Ⅰ期に存続したとみられる S B 7042・7043・7044の柱穴に重複しており、後Ⅰ期は「コ」の字区画成立の前後2時期には分離できるとみられる。なお、「コ」の字区画に伴う建物としては S B 7037がそのほぼ中央に位置し、調査区内では単独で建てられていたものと考えられ注目される。これらの溝からは比較的多量の遺物が出土しており（整理箱約15箱）、土師器類、ロクロ土師器類、須恵器類、黒鉢14号窯式期～折戸53号窯式期までの灰釉陶器類、青磁、白磁、緑釉陶器片や製塙器片が出土している。土師器の中には「て」の字口縁の皿や台杯皿が含まれており、また朱の付着した須恵器片も混入しており注目される。S D 7054は S D 7032に沿うように掘削された幅約50cm、深さ10cmほどの溝で、土師器杯・皿、ロクロ土師器杯・高台付杯、灰釉陶器碗、須恵器片が出土した。

#### （7）平安時代後Ⅱ期の遺構

掘立柱建物は調査区東南端の S B 7048のみとなる。40cm程度の柱穴を持つ2間×（1）間の縦柱建物で、後Ⅱ期から末期にかけて存続したものとみられる。

S D 6993と S D 6994は東西道路 S F 6990に関わる南北側溝である。幅はそれぞれ約50cmと1.0m～1.3mで S D 6993は緩やかに東へ傾斜している。土師器片、須恵器片、ロクロ土師器類や百代寺窯式期とみられる灰釉陶器碗などが出土している。この両者は溝心間で約9.5mあり、幅30尺前後の道路として機能していたと考えられる。それに対し S D 7005・7006・7007は一連の南北溝で、かつての南北道路 S F 7010の上に掘削される。幅は最大で約3m、深さは30cm～50cmほどあり、単純に道路側溝としての性格は看取し難い。S F 7010は S F 6990に比べて早くから西へ変遷していったのであろう。

#### （8）平安時代末期の遺構

2基の土塙 S K 7051・7052はいずれも S F 6990路面上に穿たれている。S K 7051は1.1m×0.6m、深さ約30cmの長楕円形土塙で、土師器皿やロクロ土師器杯・台付杯・高台付杯・碗が一括して投棄されていた。S K 7052は直径約1.2m、深さ約30cmの円形土塙で、同様に土師器片、ロクロ土師器片が出土している。

#### （9）鎌倉時代の遺構

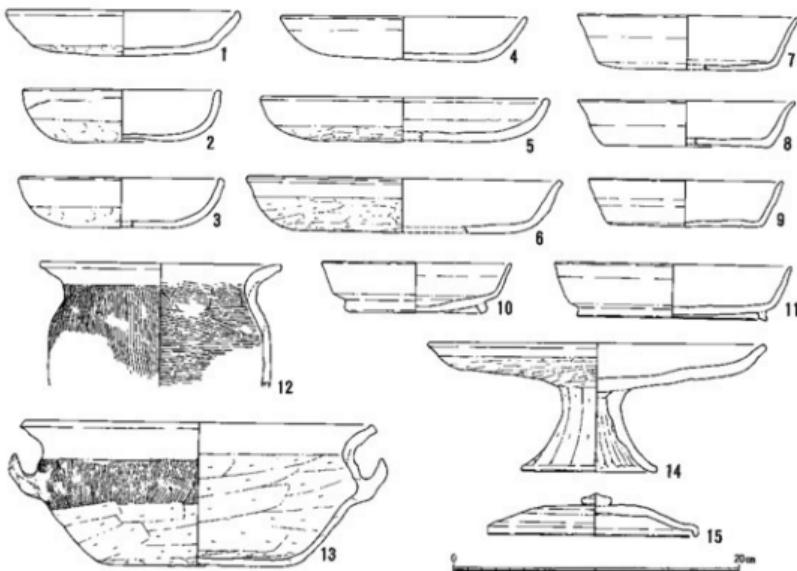
調査区西北部の S D 6996と S D 6997がある。S D 6996は幅約25cm。残存する深さは約10cmの

もので、位置的にみて平安時代前Ⅰ期に埋没した S D6992が S D7003との交差部分を越えて西へ伸びていた部分の痕跡である可能性もあるが、今回出土した山茶椀からは13世紀後半に埋没したものとみられる。S D6997は S F6990と S F7010の交差点部分を斜めに横断するように掘削された溝で、溝底高は10.4m～9.9mで北西に向かって傾斜しており、N35°Wの方向を取る。土師器類やロクロ土師器類が出土しており、平安時代末期から鎌倉時代の初めにかけてのものであろう。なお、時期不明の遺構として3条の溝があるが、他の溝との重複関係から S D6998・7001・7002はいずれも鎌倉時代以降の掘削と判断される。

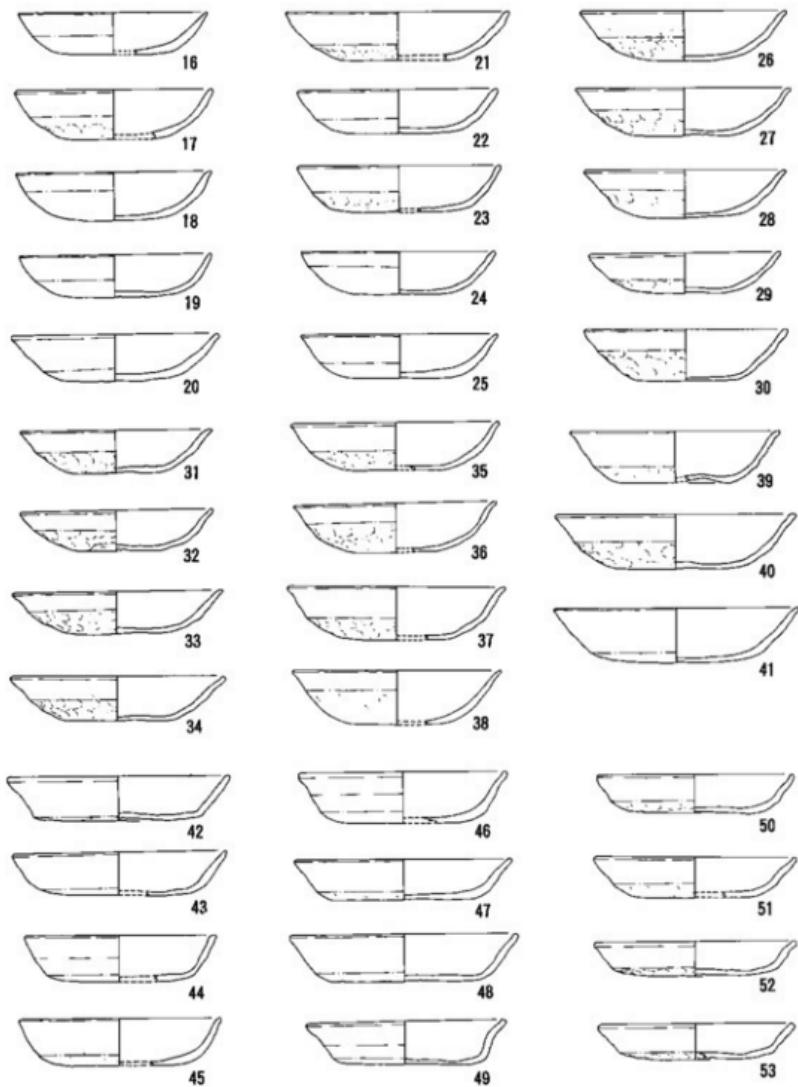
### 3. 遺物

第103次調査では、整理箱154箱の遺物が出土しているが、若干の鉄滓を除けばすべて土器類である。縁釉陶器は41片出土しているが、比較的特殊遺物は少ない。

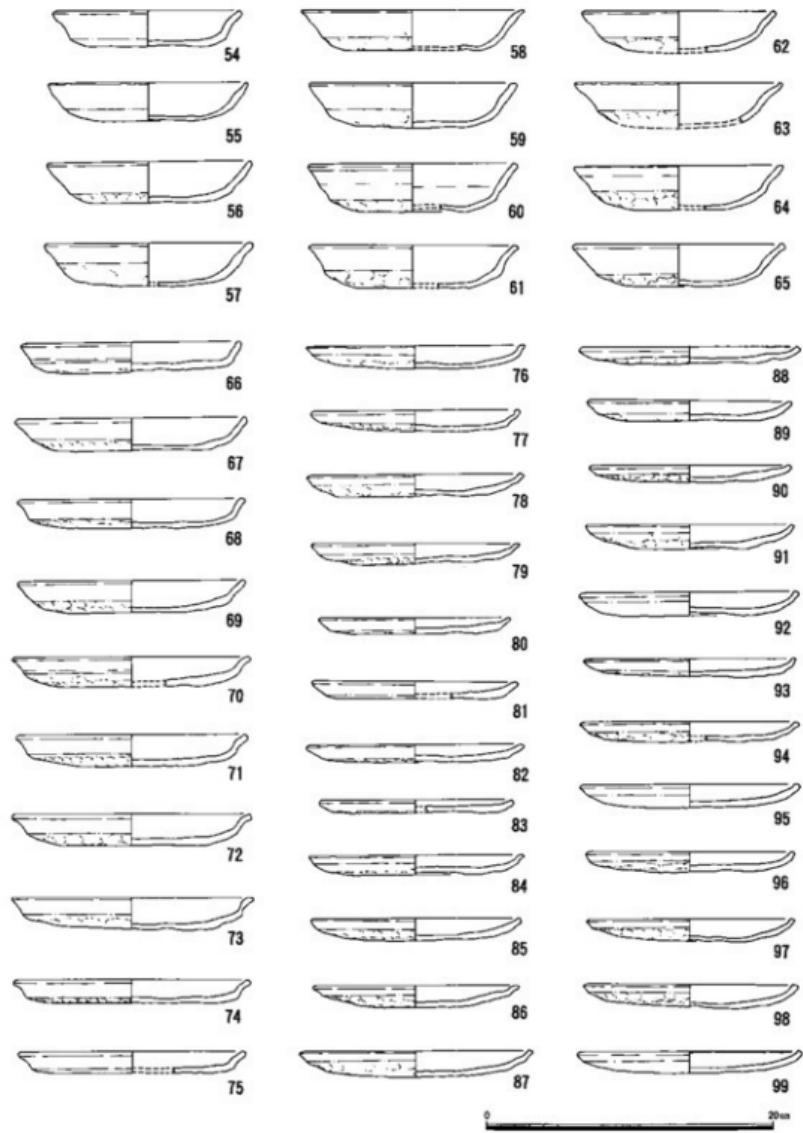
奈良時代の遺物では S B7045から後期の良好な遺物が出土している（1～13）。出土状況から廃絶した竪穴住居内に投棄した状態のものとみられるが、土師器約90%、須恵器約10%の割合で、土師器の供膳形態と煮沸形態の比はおよそ2：1になる。また、土師器杯の中では破片数でカウントすると丸い体部と厚い器壁を持つ在地系の杯（2・3など）が約7割を占める。須恵器は供膳形態と貯蔵形態が破片数の発現率ではほぼ同数といえる。杯類では有台のものと無



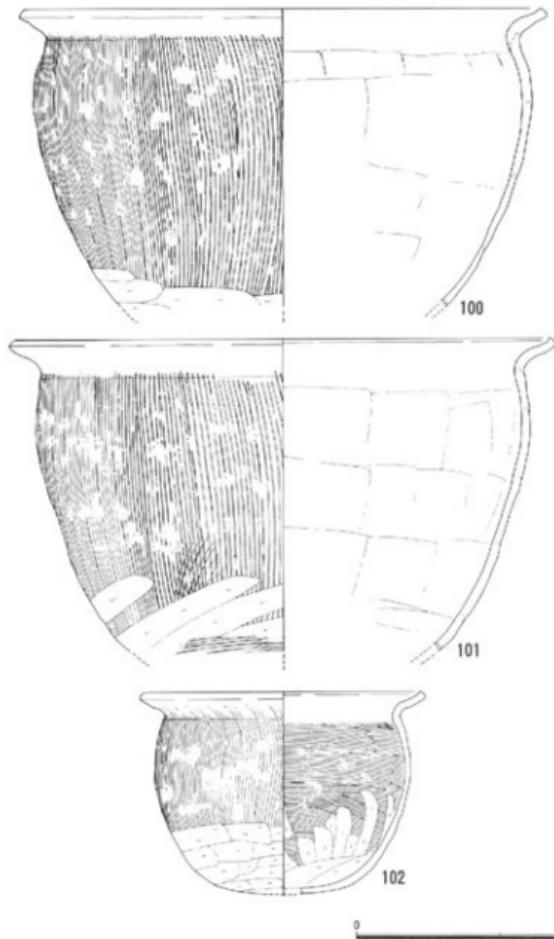
第24図 出土遺物実測図 SB7045: 1～13, SK7046: 14, SA7000: 15



第25図 出土遺物実測図 SK7017



第26図 出土遺物実測図 SK7017

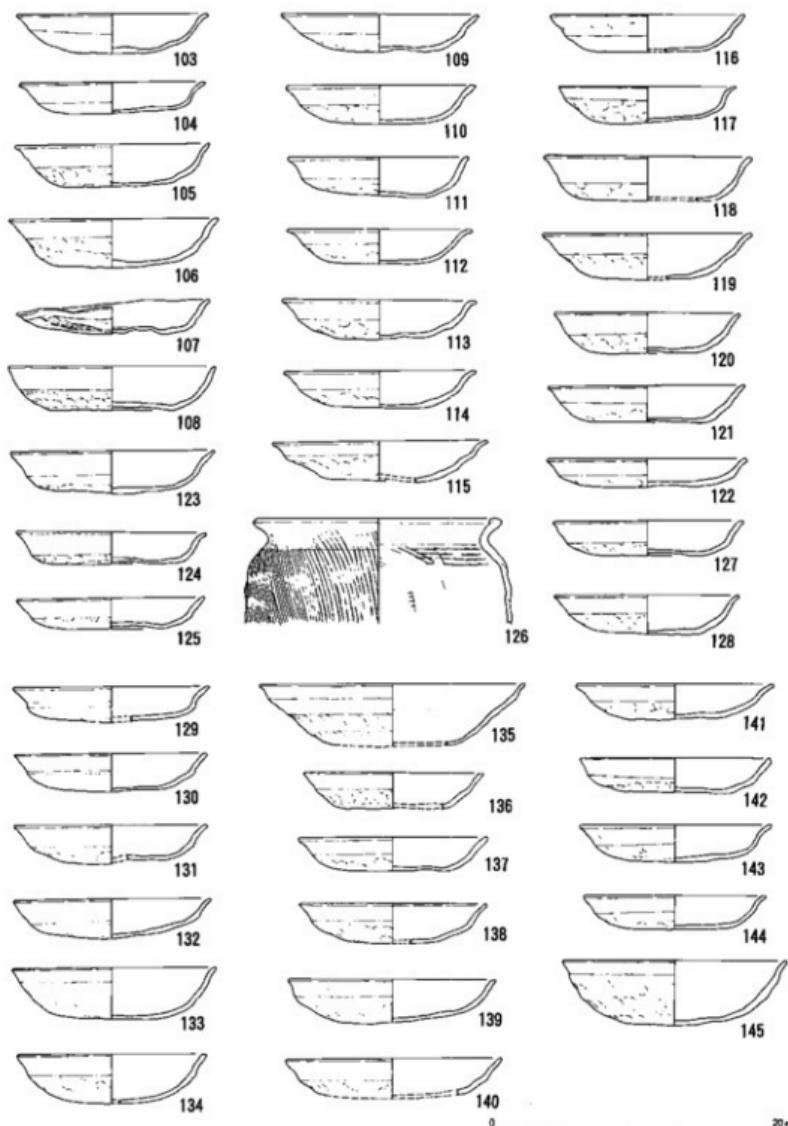


第27図 出土遺物実測図 SK 7017

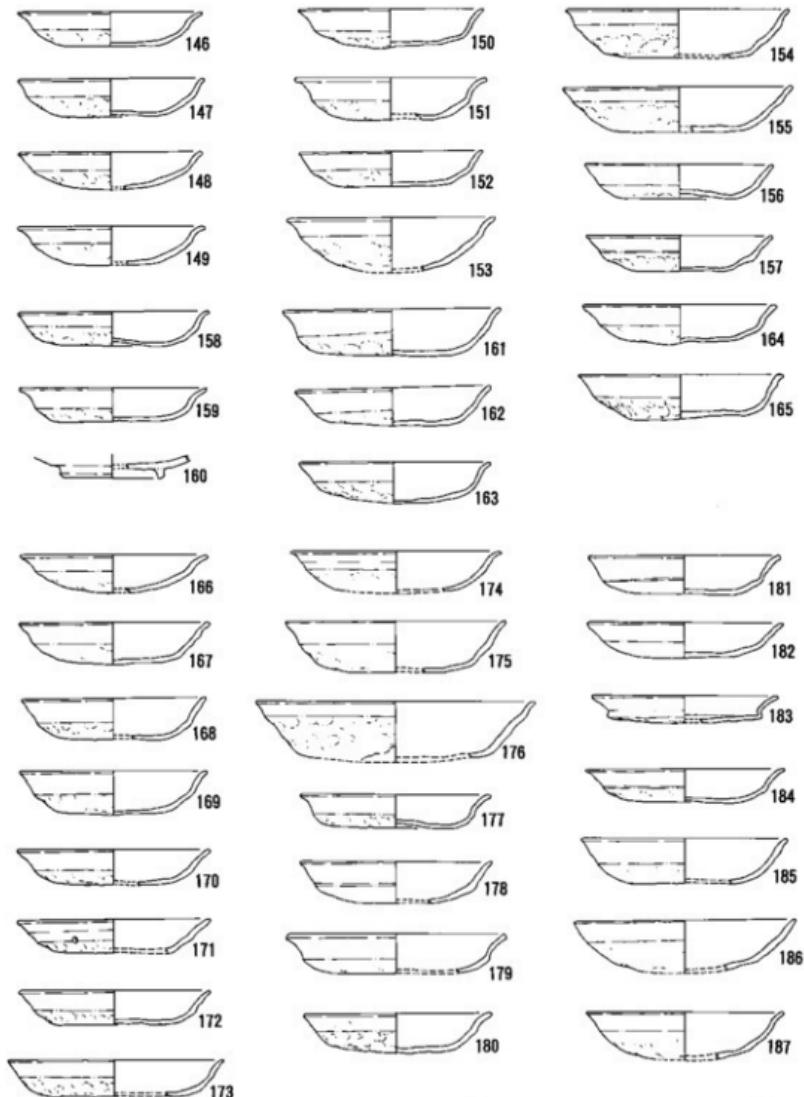
台のものがほぼ同数で、これらは猿投窯編年で鳴海32号窯式期に相当すると考えられる。

平安時代の遺物では、3基の土塗から出土した大量の土器群が着目され、今回これら的一部について概観したい。

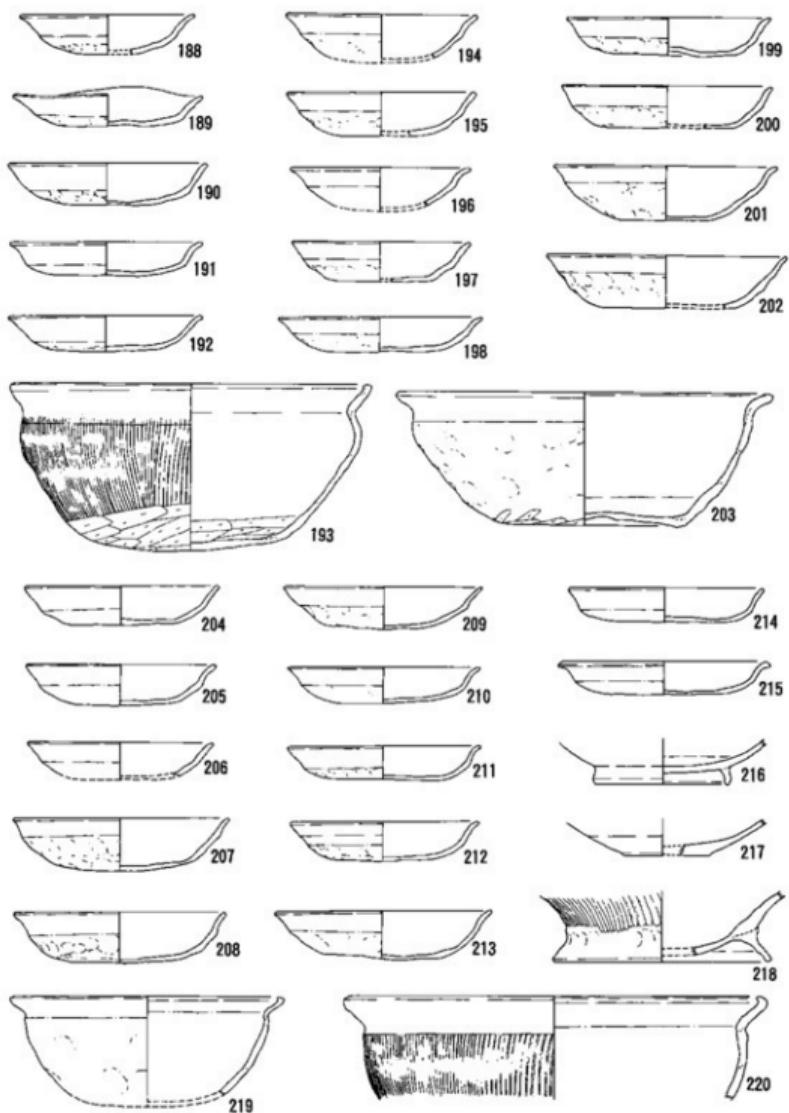
SK 7017から半裁分で総数6651片の土器類を取り上げたが、その99%以上が土師器であり、そのおよそ88%は杯・皿などの供膳形態のものである。杯には口縁が幅広くヨコナデされてや



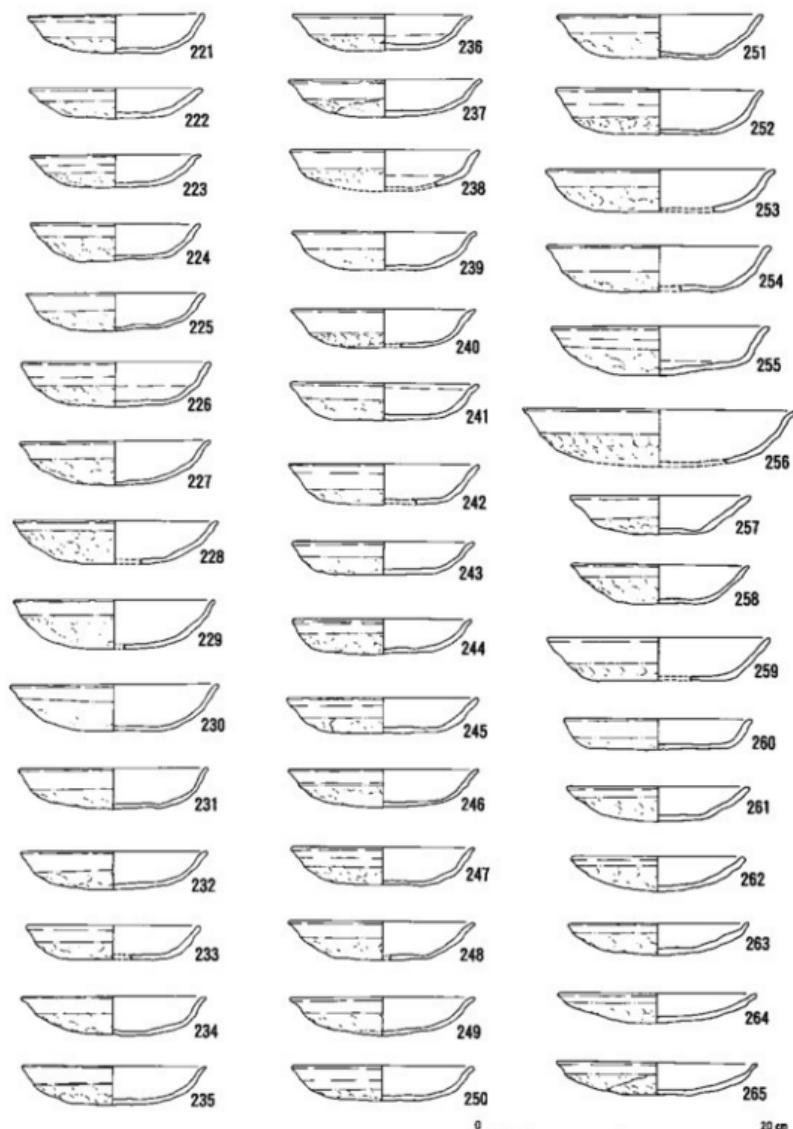
第28図 出土遺物実測図 SK 7030



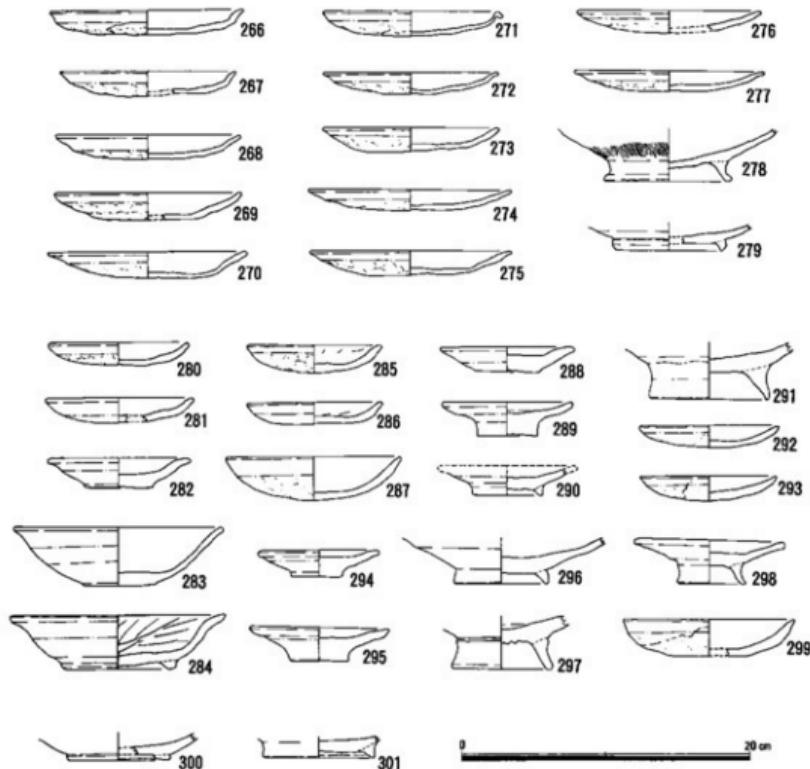
第29図 出土遺物実測図 SK 7030



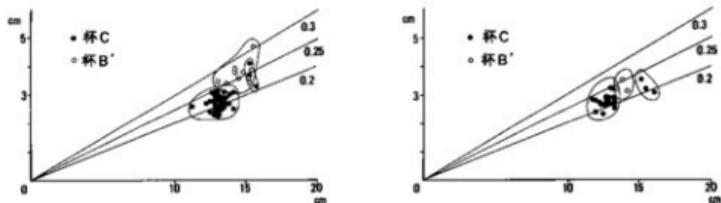
第30図 出土遺物実測図 SK7030



第31図 出土遺物実測図 SK 7040



第32図 出土遺物実測図 SK7040:266~279, SK7029:280~284, SK7052:285~291,  
SK7051:292~299, SD7014:300, SD7007:301



第33図 SK7030-7040出土土師器杯径高比

S B7045

器種	破片数	割合(%)	割合(%)
杯・盃・高脚杯	298	57.97	90.66
土器類	39	7.59	
甕・瓶類	129	25.10	
灰化材	26	5.06	9.34
骨器	22	4.28	
総計	514	100.00	100.00

S K7017

器種	破片数	割合(%)	割合(%)
杯・盃類	6627	88.63	99.68
甕・瓶類	126	1.69	
灰化土器	160	2.14	
不 明	540	7.22	0.28
杯・盃類	4	0.05	
甕・瓶類	12	0.16	
不 明	5	0.07	
灰化土器	3	0.04	0.04
総計	7477	100.00	100.00

S K7040

器種	破片数	割合(%)	割合(%)
杯・盃・皿類	5387	89.89	99.38
甕・瓶類	58	0.97	
灰化土器	8	0.13	
不 明	497	8.29	0.57
杯・盃類	10	0.17	
甕・瓶類	23	0.38	
不 明	1	0.02	0.15
灰化土器	4	0.07	
不 明	2	0.03	
総計	5993	100.00	100.00

第7表 S B7045・S K7017・S K7040出土土器構成

や外反する杯A（42～64）と、内弯して底部と口縁部の境が不明瞭な杯B（16～41）があり、杯Bの中でも口縁部のヨコナデがやや強くなり、肉薄の体部から心持ち外反する口縁を持つもの（31～41）は新しい傾向と言える。なお杯Aと杯Bは破片数で47：53とほぼ同率といえる。皿では、強く屈曲した口縁部が真っ直ぐ（66）、あるいは外反して立ち上がる皿A（67～75）と、明瞭な口縁部を作らず、端部のみ上方へ引き上げて口縁部を成形する皿B（76～99）がある。両者の破片数の比率は32：67で後者の割合が高い。これは皿Bが、後に至って主流になるほとんど口縁部に成形を加えないタイプのものに連続する事を示していると思われる。この他土師器では大型の鉢が2個体分出土している点や、製塩土器の比率が比較的高い点、また炭化材も混入している点も注意される。これらは土器群全体の用途・性格を示すものとみられるが、現時点では祭祀に関わる器物の廃棄土壇と考え得るに止まる。陶器類はほとんどないが、灰釉陶器碗片は黒錆90号窯式期のものと思われ、土師器に若干の形式幅は窺われるものの前Ⅱ期の終わりから中期にかけてのものが主体となる。

S K7030は最も多量の遺物を出土しているが、やはり土師器の杯・皿類が中心となる。出土破片数が多いため現在集計していないが、今後データを整理したい。器種としては前代からの杯A・杯Bに加え、薄手の器壁で底部から口縁にかけて内弯する体部を持ち、口縁部はヨコナデされてゆるやかに外反するタイプのものがある。杯Aと杯Bの形質を受け継いでおり、杯Cとして分離できると考える。杯Cは口径13cm～14cmを中心とする中型のタイプと15cmを越える

大型のタイプに分けられる。また、杯Bにも底部が丸く半球状に成形されるもの杯B'（133・134・145・207・208）がみられるようになる。皿はほとんどみられず、若干の皿Bの破片が散見されるに止まる。なお、S K7030では遺構に50cmメッシュを設定して分割し、またブロック状のものを区分して取り上げた。この中では（103～108）が重ねられた状況で出土している。廃棄の1単位としては口径12.8cm～14.5cmの杯A、杯B、杯Cを含み、器種の区別はない。遺物の時期は、土師器類の形状や僅かに共存する灰釉陶器の挽片が折戸53号窯期のものとみられる点から平安中期のものと判断できるが、先述のS K7017の土器群とは若干の時期差が窺われる。

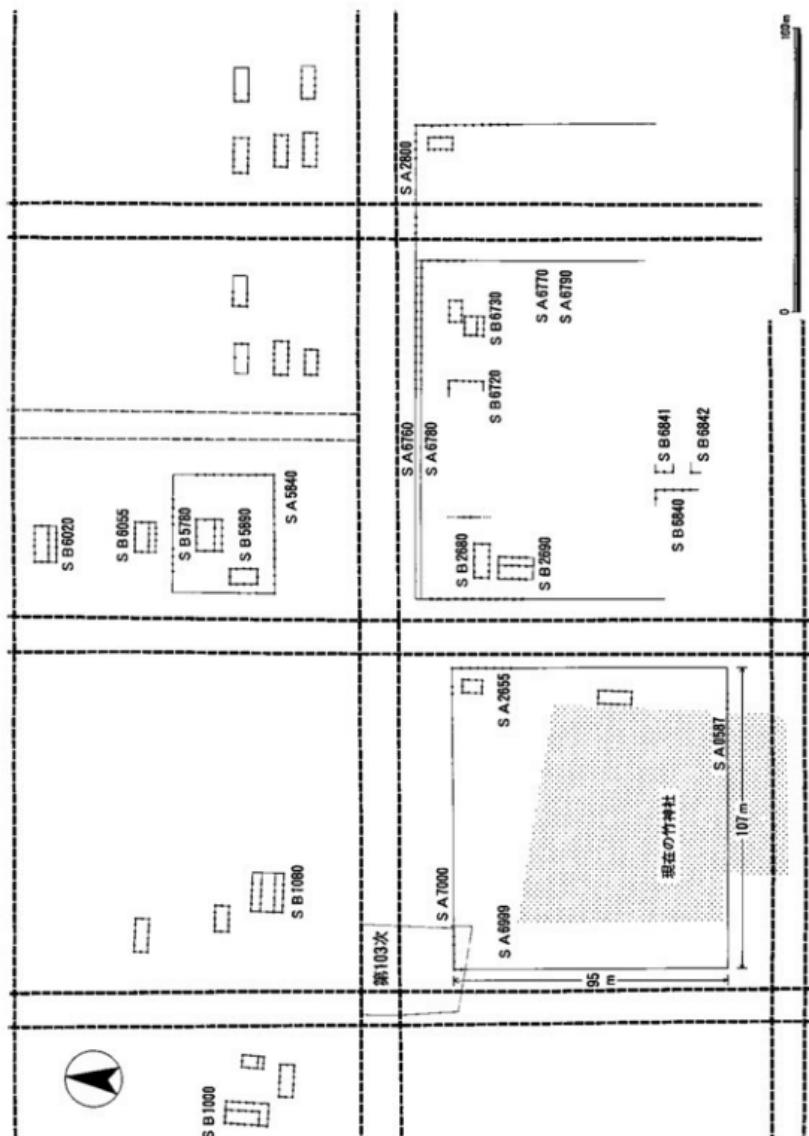
S K7040から出土した遺物も破片数で99%が土師器であり、その9割以上が杯・皿類である。須恵器や灰釉陶器はそれぞれ1%にも満たない。ほぼS K7030と共に性格が窺われるが、製塙土器の比率は低い。炭化材片は僅かだが出土している。土師器杯と皿の比率は6：4で、杯類はA類、B類、C類とC類から派生するとみられる皿との識別が困難なタイプ（261～265など）がある。器種ごとの発現率をみるとA類約14%、B類約20%、C類約65%となる。最終的にはC類の系譜のものが後期の杯・皿類に変化するものとみられる。皿類はA類、B類に加えて口縁部と底部の境がなく、口縁部は軽くヨコナデするのみで屈曲が全く見られない円盤状になるまで成形や調整を省略したものが含まれ（272～277）、C類として分離する。皿類の発現率をみるとA類10%、B類36%、C類54%ほどになる。皿C類は口径12cm～14cmあるが、これが退化して、平安時代的な土師器皿は終束する。ロクロ土師器は含まれていない点からS K7040は中期に属するものと判断できるが、S K7030との比較を試みると、第33図に示した通り、多数を占める杯C類は口径が僅かに縮小傾向にあり、杯B'がS K7040では杯Cに収束していく点も看取できると考える。これらの点からこの二つの土器群の間には中期の中でもS K7030→S K7040の若干の時期差が想定される。

その他特殊遺物に、黒色土器片2点、判読不能な墨書き器片4点、朱の付着した陶器片5点、転用鏡片3点、製塙土器片約110点、白磁片3点、青白磁片1点、青磁片1点がある。

#### 4. まとめ

史跡東部に想定されている平安時代前半を中心とする方格地割内において、これまでの調査成果から中枢部の候補に挙げられてきた地点での調査だったが、S F6990・S F7010という道路の状況を明らかにし、また、この区画道路の内側に大型の横列S A6999とS A7000や、平安時代前期から後期（9世紀～11世紀代）にかけて、多数の掘立柱建物が幾度にもわたる建て替えを経ながら存続していた様子が確かめられるなど多大な収穫をあげる事ができた。

東西道路については、南北両側溝を他の遺構と重複なく明瞭に検出する事ができたため、道路幅が溝心々間から約13.3m、45尺という規格が看取された。また、この道路が平安時代後期（11世紀後葉）まで幅員を縮小させながら存続し、現農道にまで遺制をとどめている事も明ら



第34図 周辺主要遺構分布図（1:2,000）

かにする事ができた。

しかし、今回の調査で最も大きな成果は大型の柵列の確認だろう。柱間約3mを測る柵列による区画は、これまでの調査においても重要と考えられる地区のみに見られたものである。第103次調査地を含む方形区画内での調査は、第10次・第44次など僅かな例を数えるのみだが、これらの成果とあわせて区画の規模を検討すると、東西柵列SA7000は第10次の2個の柱穴を経て、第44次調査の南北柵列SA2655に続くものとみられる。SA2655に接続した後、南下して西折し、再び第10次調査区内でSA0587の3個の柱穴に続くと推定される。このように考えるとこの大型柵列が囲繞する方形区画の規模は、東西延長で約107mで、これは0.296mを1尺と取ると360尺=36間のものになる。南北方向は約95mを測るが、尺単位ではおよそ321尺と明快に10尺等間では割り切れず、東門が存在する可能性も想定しなければならない。なお、この区画の北辺SA7000は、東接する鍛冶山地区の柵列SA6780より約11m南に下がっており、やや小規模な区画であると考えられるが、こうして想定された区画は、現在の竹神社の敷地を囲むようにある事は注意されるべき点である。式内社竹神社は明治44年に史跡西部の中垣内地区から、当地にあった斎宮神社（旧野々宮神社）を合祀してここに鎮座したもので、当地には明治以前から郷社等があった事が知られ、また、『勢陽雑記』には、野呂三郎が弘治元（1555）年の徳政一揆の際に換った斎宮城があったという伝承がある。いずれにしても近世の参宮街道沿いの立地でありながら、社殿地などとして近代まで空閑地のまま遺存しており、推測の域を出ないが、地元でもこの地を特別視するような慣習があったとも考えられる。

次に、東隣の区画と比較すると、第44次・第98次調査区には平安時代後期の遺構・遺物はほとんどみられず、この時期の掘立柱建物10棟や区画溝などを検出した当調査地とは歴然とした差がある事が分かる。こうした差異が何に起因するのかは今のところ明らかではないが、方格地割内において、大規模な柵列を造営する重要な区画の中でも、存続時期に差がみられる点は、斎宮城の構造を考える上でも大きな問題を内包していると言えよう。

遺物の上では平安時代前Ⅱ期から中期にかけての土器溜まりが検出された。当該期は斎宮においても古代的な有り方から中世的なそれに変わる大きな変換点であり、平安時代後期の土器様式の重要な構成要素である輪器形やロクロ土器器類の発生期である。今回はこの時期の土器器の変遷について若干の観察を述べるに止まったが、これらの資料を充分に咀嚼できたとは言い難い。別の機会を待つて幅広い評価を試みたい。

以上のように第103次調査は多大な成果と課題を残したと言える。先述したように、当区画の調査はまだ縁辺の一部で実施されたにすぎず、竹神社社殿地など、中心部分は全く解明されていない。しかしながら、史跡斎宮跡の実態解明と史跡整備の重要なポイントとしてこの地の評価を高める上で第103次調査の果たした役割も極めて大きいと言えるだろう。　（大川勝宏）

## VI. 第104次調査

6 A G T (笛川地区)

### 1. はじめに

平成4年度の第96-5次調査で発見された八脚門S B6850と櫛列S A6849によって、史跡東半に広がっていたとされる方格地割の東西の幅が最大で7区画分におよぶとともに、その南端がほぼ確定したと考えられる。

S B6850は現在明らかになっている最も南西の方形区画の南面中央の正門と考えられるが、これまでの調査では、この方格地割の南辺地域において他の区画施設や門に係わるとみられる遺構は明確にはなっていない。また、八脚門の持つ格式から考えて、方格地割の中でこれが存する区画とそうでない区画では、おのずと格差や機能差が想定され得る。

第104次発掘調査は今年度最後の計画調査として、こうした門と、それに取りつく櫛列等の区画施設が方格地割南面の各区画に普遍的に存在するかどうかを確認する事を目的として、史跡東南端の区画南辺中央付近に調査区を設定し、平成6年1月31日から3月25日まで350m<sup>2</sup>を対象に実施した。

現況の地目は水田で、すぐ南を昭和54年度の圃場整備で作られた東西方向の農道と、その両側側溝が走っている。調査地の標高は現地表面で9m~9.3mである。周辺での調査はこれまでほとんど実施されておらず、史跡範囲確認のための第9-7次トレンチ調査が実施され、東西方向の溝などが検出されたにとどまる。



第35図 調査区位置図 (1 : 2,000)

現地表面から表土と水田床土を約50cmほど掘削した段階で、亜円礫を含む黄褐色の洪積層面（地山面）が現れ、これを遺構面として捉えた。遺構面の標高は8.6m～8.7mほどで大きな起伏差はない。

## 2. 遺構

調査区は推定される方格地割の東南端の区画の東西正中線が通る地点に設定したが、門や区画施設あるいは建物跡などは確認することができなかった。今回見つかった遺構としては、井戸3基、溝5条、土塙1基と樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が散在するのみだった。

### （1）平安時代前期の遺構

井戸SE7060を発見した。長径で約2.4m、短径で約1.8mの楕円形の掘形を持つ素掘りの井戸で、地下水の影響か、深さが約1mのあたりで壁面の一部が横へ水平に抉れていた。規模が小さく、壁面の崩落の恐れがあるため、遺構面から3.1mほどで掘削を中断した。ここまででの埋土は黒色土と黄灰色砂の互層で、この遺構上部埋土層から斎宮編年で平安時代前Ⅱ期～中期の土器類が多量に出土した。井戸の掘削時期も9世紀の中頃以前に比定できるとみられる。

### （2）鎌倉時代後期の遺構

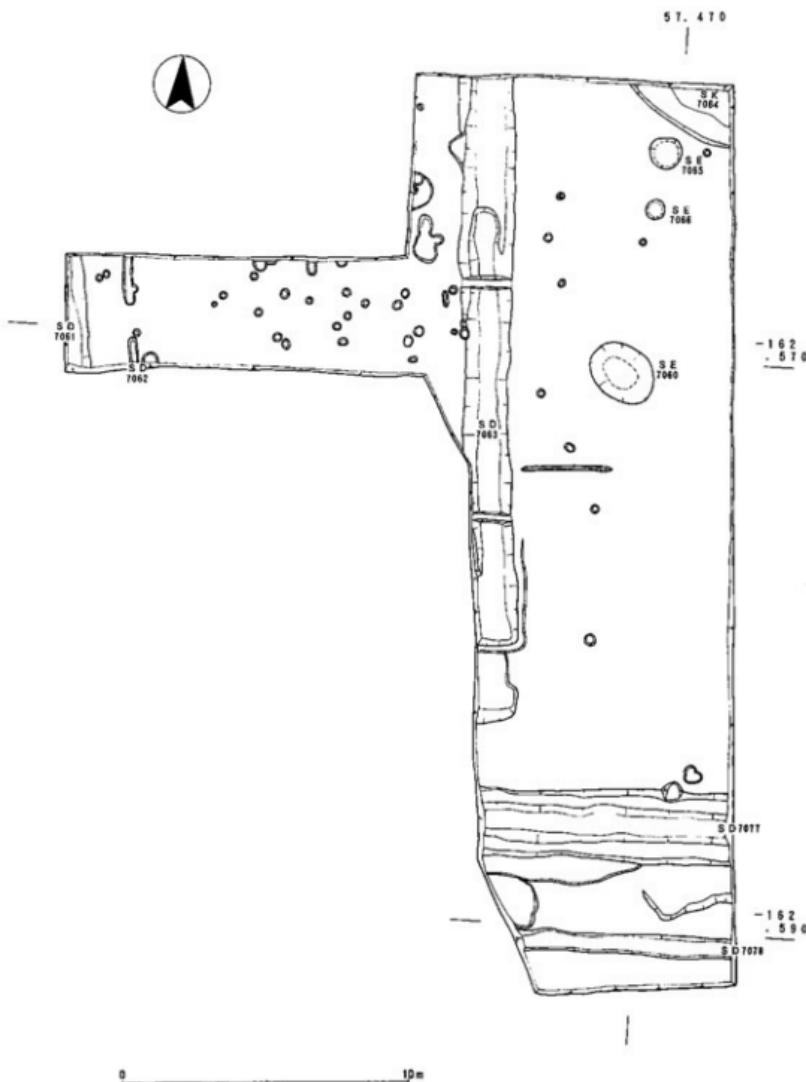
井戸SE7065とSE7066がある。両者とも調査区の北部に2mほどの距離で隣接して掘削されており、SE7065が直径約1.1m、SE7066が直径約0.7mと小規模なものである。井戸枠等の施設は認められなかった。これらも作業の安全上からSE7065は遺構面から2m、SE7066は1.6mほどで掘削を中断した。それぞれ黒褐色の埋土から13世紀後葉のものとみられる土師器皿、鍋片などが出土しており、遺物の上から両者の時期差は判断できない。かなり近接した時間幅の中で掘削、廃棄されたものとみられる。

### （3）室町時代後期～江戸時代の遺構

溝5条、土塙1基がある。調査区北東隅で発見されたSK7064は深さ40cmのすり鉢状で、埋

	遺構の種別		
	S K	S D	S E
平安時代			7060
鎌倉時代			7065 7066
室町時代 以降	7064	7061 7062 7063 7077 7078	

第8表 時期別遺構分類表



第36図 遺構実測図 (1 : 200)

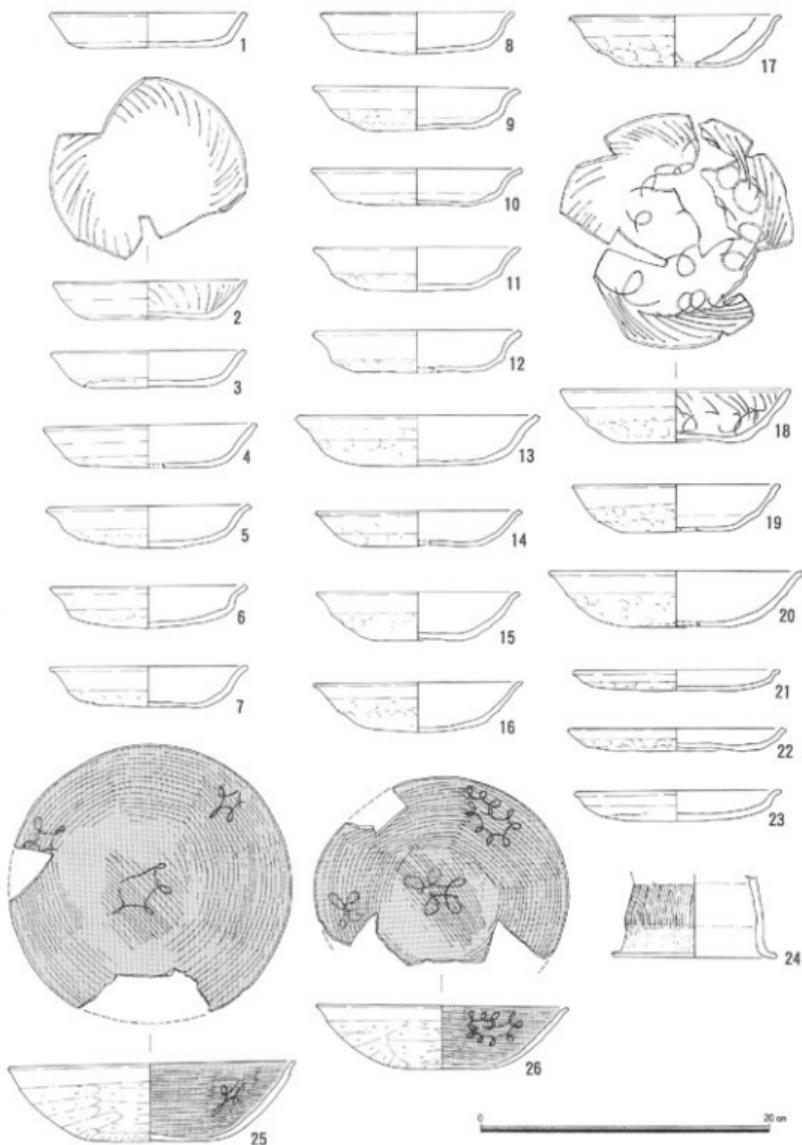
土は一部鉄分の沈着のみられる黄色あるいは灰色のシルト質土壤である。近世以後の溝の肩部である可能性もある。

調査区の西端の南北溝 S D 7061は東肩部のみ検出されたに止まるが、溝壁は遺構面から深さ約70cmまで約65°の傾斜で落ち込む。断面逆台形状の溝であろう。径3cm～5cmの円碟を多量に含む黒褐色の埋土からは16世紀後葉以降の土師器皿・鍋や陶器片が狭小な検出範囲にかかわらず多量に出土している。その東側のS D 7062は深さ10cmほどしか残存していないが同時期の土師器細片が出土している。南北溝 S D 7063は幅1.4m、遺構面からの深さは40cm程だが、調査区内で検出された長さ約20mの間で、溝底高は北から南まで約8.3mとほとんど差がない。出土遺物には16世紀後葉の土師器皿・鍋の他、鎌倉時代の土師器片、平安時代の土器なども同一調査区内では比較的多量に混入している。また、検出された溝南端は調査区の西へほぼ直角に折れて続く事が確かめられたが、西へ13m離れたS D 7061と合流する可能性が高い。中世末期から近世初頭にかけての旧参宮街道沿いの屋敷地の区画を構成する溝と考えられる。S D 7063の屈曲部分付近からは、土師器の把手付茶釜と羽釜が並んで正置された状態で出土している。17世紀には入るものとみられるが、遺構掘形は明確にできなかったものの、溝埋土中に土埴状に掘り込んで埋められたものと考えられる。

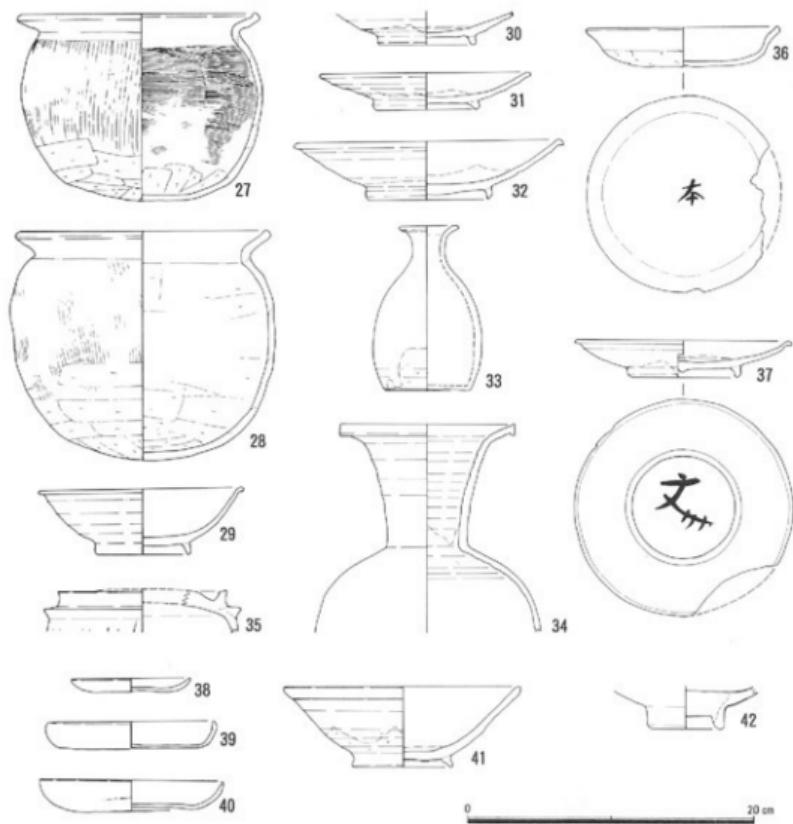
調査区南部では2条の東西溝が見つかっている。S D 7067は幅約2.6m、遺構面からの深さ約80cmの溝で溝底の標高は7.9mで調査区内での高低差はない。深さ約30cmで南北両側に段を作り、数次にわたり掘削された形跡と考えられる。径3cm～20cmの円碟や砂質を多量に含み、自然木片もわずかにみられる。埋土上層からは近世後期以後のものとみられる土師器はうろくが出土している。逆L字に折れたS D 7063との間に幅約5mの道路を形成する可能性がある。S D 7068は幅80cmの断面逆台形状の溝で、溝底の標高8.3m～8.4mで西から東へ非常にゆるやかに傾斜している。

### 3. 遺 物

全体に遺物の出土量は少ない。調査地が水田に造成されていたために地盤が均平されたと考えられ、特に包含層からの出土が極めて少ない。この中では質・量的に際立つ平安時代の井戸 S E 7060からの出土品を中心に概述したい。S E 7060出土遺物は先に述べたように完掘しておらず、遺構の掘削時期を示す物とは考えられない。種別としては土師器杯・皿・鍋・台付杯・瓶・竈片、黒色土器A類の杯、灰釉陶器碗・皿・段皿・小瓶・長頸壺、須恵器円面鏡・甕・高杯・杯・盤・壺片や製塙土器片がある。遺物量は整理箱で8箱になる。これらの破片数での割合を示したのが第9表である。約90%を占める土師器の内、杯・皿などの供膳形態の物と甕・瓶等の煮沸形態の物はほぼ半々になる。須恵器約5%、灰釉陶器約3%の割合は一般的な傾向と言える。土師器杯類をみると杯A類と杯B類があるが、杯A類には口縁部が底部から強く屈

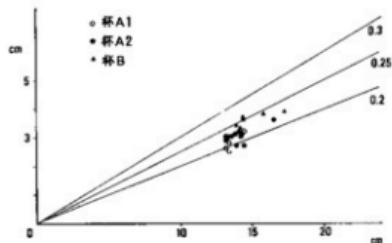


第37図 出土遺物実測図 S E 7060



第38図 出土遺物実測図 SE7060:27~37, SE7065:38~40, SD7063:41, 包含層:42

曲して比較的真っ直ぐのびるもの（杯A 1類：1～4）と強いヨコナデのため口縁部が外反して屈曲するもの（杯A 2類：5～14）がある。杯A 1類は平均で口径13.3cm、器高2.6cmの中型品と、口径14.5cm、器高3.2cmの大型品が、杯A 2類は器高13.9cm、器高2.9cmの中型品と、口径16.6cm、器高3.6cmの大型品がある。杯B（15～20）には口径14.3cm、器高約3.5cmの中型品の他、口径が15cmを越える大型品がある。暗文は杯Bにのみ見られるが、放射状暗文や退化した螺旋状暗文が施される。土師器杯類などからSK2650にはば併行する段階のものと考えられる。黒色土器はA類の杯（25・26）があり、いずれも外面をヘラケズリし、内面はヘラミガキの後、雑な螺旋状暗文を施す。残存状態は良好である。須恵器では円面鏡（35）が出土しているが、



第39図 S E 7060出土土師器杯径高比

器種		破片数	器種別比率(%)	割合比率(%)
土師器	杯・皿・高杯類	346	44.35	89.35
	壺・鉢類	1	0.13	
	甕・瓶類	331	42.43	
	製造土器	19	2.44	
黒色土器	A類 杯・鉢類	16	2.05	2.05
須恵器	杯・盤・高杯類	7	0.90	5.39
	壺・甕類	34	4.36	
	瓶類	1	0.13	
灰釉陶器	碗・皿類	23	2.95	3.31
	甕・瓶類	2	0.26	
总计		780	100.00	100.00

第9表 S E 7060出土土器構成

混入品であろう。灰釉陶器では碗9片に対し皿類が14片と多い。釉はハケ塗りのものとツケガケのものが混在し、形式からみると黒笠90号窯式期から折戸53号窯式期にかけてのものが含まれる。壺(34)は白色の胎土で薄い器壁を持ち、透明な灰釉が均等にかかる良品である。完形で出土した小瓶(33)は灰緑色の自然釉が肩から流れ、弱い肩の張りから折戸53号窯式期に相当すると考えられる。墨書き土器は5点あるが、文字が判読できるものは2点のみである。(36)は土師器杯A2類の底面に「本」と墨書きされる。灰釉陶器皿(37)は不明瞭だが、底面に「文」と筆揃えの痕跡が重複するものとみておきたい。「文」は第58-1次調査の黒色土器の例があり、書体も類似する。以上S E 7060出土遺物は、遺構埋土上層にまとまって投棄された一群と考えられ、若干の形式差があるが、9世紀末葉に主体を持ち、10世紀初頭までに埋没したものとみられる。

S D 7063出土の灰釉陶器碗(41)は混入品で、口縁部をやや肥厚させ外面に沈線をひき、白磁碗を模倣した形態のものである。ツケガケの釉は明灰白色を呈し、内側がやや内弯した三角形の高台をつけ、見込み部に重ね焼き痕が残る。系譜は明確ではないが、直線的にのびる体部や施釉から平安時代後期以後の東濃系のものと考えられる。

鎌倉時代のS E 7065・7066からは土師器皿や鍋の破片が出土している。皿は口径13cm~14cmで、ほぼ完形で8個ほど出土している。鍋は小片が多いが、口縁部の形状などから伊藤裕偉氏

分類<sup>⑤</sup>の2段階b型式～c形式に相当するとみられ、13世紀後葉～14世紀初頭に位置付けられるものと考える。なお先述したように、この両者間の時期差はほとんどないとみられ、前後関係は明らかではない。

特殊遺物とされるものの出土は少なく、青磁片5点、青白磁片1点があり、綠釉陶器はみられなかった。また、S E 7060などから製塩土器片が約20片出土した。

#### 4.まとめ

八脚門と柵列の検出が期待された第104次調査だったが、これらの遺構は確認する事ができなかった。しかしながら平安時代の井戸S E 7060が検出され、その他の遺構からも混入の形で平安時代前期の遺物は散見される。こうした点からみれば例え後世の削平があったとしても、周辺に当該期の建物等の遺構が分布していた可能性も残されたと言える。また周辺の調査例が僅少なため、この付近では方形区画を構成する遺構は明確には確認されていないが、S E 7060は推定される区画の東西のほぼ正中線に乗る位置にある。方格地割東南の区画の状況は他の区画とは異なった様相を呈する可能性も想定される。

次に調査区南端S D 7067についてみると、調査区内での方向はE 1°Nであり、東西方向にはほとんど振れがなく、南の現農道の北側溝排水路の部分との間に溝肩間で約6m程の東西道路が想定される。また、同様に農道南側溝の部分まで延長して考えると幅約12mほどの道路も想定できる。これらはいずれも仮定であり、比較分析するデータに欠けるが、S D 7067が方格地割の南限道路に規制されている可能性もまた残されている。振り返って先の第96-5次調査の八脚門S B 6850周辺を見ると、第70-3次調査での柵列S A 5110の西側約7mの未命名の南北溝や、S A 6849の南の平安時代初期の東西溝S D 5108、鎌倉時代の東西溝とされる第81-3次調査のS D 5962、S D 5963などが平安時代斎宮寮を周囲する道路側溝あるいはそれを踏襲する溝である可能性がある。しかし、現状ではこれらもまた、その連続などが確認されておらず、いずれも可能性の域を出でていない。今回の第104次調査も斎宮寮南限の状況を考える上での材料は提供したものの、古代官衙において重要な南面の状況は今後の地道な調査の蓄積に期待するところが依然大きいと言わざるを得ない。

(大川勝宏)

注) 伊藤裕作「中世南伊勢系の土師器に関する一試験」『Mie history』Vol. 1 1990

## 掘立柱建物・柵列一覧表

造構番号	規 模	棟 方 向	桁 行		梁 行 (m)	柱間寸法(m)		時 期	備 考
			桁 行	梁 行		柱間寸法(m)	柱 行		

第99次調査 (6 A D N)

S B0251	3 × 2	N 4°W	5.70	4.00	1.90	2.00	平安初		
S B6915	[1] × 2	E 2°N	( 2.40 )	3.60	2.40	1.80	平安前 II	南庇出2.0m	
S B6918	5 × 2	N 4°W	10.50	4.80	2.10	2.40	平安中		
S B6922	4 × 2	N 9°W	8.00	4.00	2.00	2.00	*		
S B6914	[4] × 2	E 5°N	( 8.40 )	3.80	2.10	1.90	平安後 II	5間×2間か	
S B6921	4 × 2	E 5°W	8.40	4.00	2.10	2.00	*		
S B6923	3 × 2	N 4°W	6.00	4.00	2.00	2.00	*	東庇出2.1m	
S B6924	3 × 2	N 5°W	6.60	4.80	2.20	2.40	*		
S B6860	(2) × -	N 1°W	( 4.40 )	-	2.20	-	平安末		
S B6861	(2) × (1)	N 8°W	( 4.20 )	( 1.90 )	2.10	1.90	*		
S B6862	(2) × -	N 1°W	( 4.20 )	-	2.10	-	*		
S B6864	(3) × 2	N 5°W	( 6.30 )	4.00	2.10	2.00	*	4間×2間か	
S B6865	(3) × 2	N 3°W	( 6.30 )	4.20	2.10	2.10	*	4間×2間か S B6891より古	
S B6866	4 × 2	N 7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	*		
S B6867	(3) × 2	N 5°W	( 6.45 )	4.30	2.15	2.15	*	4間×2間か	
S B6868	4 × 2	N 4°W	8.00	4.40	2.00	2.20	*	S B6884・6910より古	
S B6869	(3) × 2	N 5°W	( 6.00 )	3.80	2.00	1.90	*	4間×2間か	
S B6873	(2) × (1)	N 7°W	( 4.20 )	( 2.10 )	2.10	2.10	*		
S B6874	4 × (1)	N 3°W	8.60	( 2.00 )	2.15	2.00	*		
S B6875	4 × 2	N 5°W	8.60	3.80	2.15	1.90	*		
S B6878	4 × 2	N 4°W	8.60	4.00	2.15	2.00	*		
S B6879	4 × 2	N 2°W	8.00	4.00	2.00	2.00	*	S B6867より古	
S B6883	(3) × 2	N 6°W	( 6.30 )	4.20	2.10	2.10	*	4間×2間か	
S B6884	4 × 2	N 5°W	8.40	4.20	2.10	2.10	*		
S B6885	(3) × 2	N 8°W	( 6.30 )	4.20	2.10	2.10	*	4間×2間か	
S B6886	4 × 2	N 5°W	8.40	3.80	2.10	1.90	*		
S B6887	(2) × 2	N 5°W	( 4.20 )	3.80	2.10	1.90	*		
S B6888	(3) × 2	N 6°W	( 6.00 )	4.00	2.00	2.00	*	4間×2間か S B6887より古	
S B6889	5 × 2	N 5°W	10.50	4.20	2.10	2.10	*	S B6885より古	
S B6890	4 × 2	N 4°W	8.00	3.60	2.00	1.80	*	S B6883より古	
S B6891	4 × 2	N 7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	*		
S B6892	4 × 2	N 7°W	8.00	3.80	2.00	1.90	*		
S B6897	4 × -	N 4°W	8.00	-	2.00	-	4間×2間か S B6886より古		
S B6898	(3) × (1)	N 5°W	( 6.30 )	1.90	2.10	1.90	*	4間×2間か	
S B6899	4 × -	N 7°W	8.00	4.20	2.00	2.10	*	S B6891より古	
S B6908	3 × 2	E 5°N	6.00	4.20	2.00	2.10	*	北庇出2.1m S B6866・6874より古	
S B6909	4 × -	N 5°W	8.20	-	2.05	-			
S B6910	4 × 2	N 6°W	7.60	4.00	1.90	2.00	*	S B6883より古	
S B6911	4 × 2	N 5°W	8.00	4.00	2.00	2.00	*	S B6867・6869・6875・6878・6912より古	
S B6912	4 × 2	N 4°W	10.25	4.20	2.05	2.10	*	S B6867・6869より古	
S B6913	(2) × 3	E 5°N	( 3.60 )	6.00	1.80	2.00	*		
S A6863	(9)	N 5°W	( 23.40 )	-	2.60	-	9間分検出・柱間不確		
S B6928	(2) × 2	N 8°W	( 3.60 )	4.20	1.80	2.10	不明		

遺構番号	規 模	棟 方 向	桁 行 (m)	梁 行 (m)	柱間寸法(m)		時 期	備 考
					桁 行	梁 行		

第100次調査(6 A B I - T)

S B6950	(1)×-	E 5°N	( 2.4 )	-	2.4	-	奈良前期	南北棟の可能性有り
6951	(2)×(1)	E 5°N	( 4.2 )	( 2.4 )	2.1	2.4	*	S A6941より古
6952	-×2	N 0°S	-	4.2	-	2.1	*	
6953	-×2	N 0°S	-	4.6	-	2.3	*	
6954	(1)×(1)	E 0°W	( 2.4 )	( 2.4 )	2.4	2.4	*	南北棟の可能性有り
6955	(1)×-	E 0°W	( 2.2 )	-	2.2	-	*	南北棟の可能性有り
6956	(1)×(1)	N 0°S	( 2.1 )	( 2.1 )	2.1	2.1	*	東西棟の可能性有り
6957	(1)×(1)	N 2°W	( 2.7 )	( 2.7 )	2.7	2.7	*	東西棟の可能性有り
S A6940	08	E 0°W	(21.6)		2.1		*	10間分検出
6941	(9)	E 0°W	(19.3)		2.1		*	9間分検出 S A6940より新
6942	(9)	E 0°W	(22.3)		2.4		*	9間分検出 S A6941より新
6943	(4)	E 0°W	(10.8)		2.7		*	4間分検出 S A6942より新

第103次調査(6 A E Q - A)

S A6999	(1)	N 4°W	( 2.97? )	2.97?	2.97	平安初		
S A7000	(5)	E 4°N	(14.85)			*		
S B7050	-×(1)	E 4°N	-	( 2.10 )	-	2.10	平安前 I	
S B7020	(4)×2	E 4°W	12.00	4.80	2.40	2.40	平安前 II	5間×2間か
S B7024	5×2	N 4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	*	
S B7033	(2)×2	E 4°N	( 4.00 )	4.20	2.00	2.10	*	3間×2間か・北と西に雨落溝
S B7047	(1)×-	E 4°N	( 2.40 )	-	2.40	-	*	S B7049と同一か
S B7049	(2)×-	E 4°N	( 4.80 )	-	2.40	-	*	S B7047と同一か
S A7016	(6)	N 4°W	(12.30)		20.50	*		
S B7018	(4)×2	E 4°N	(10.80)	4.80	2.70	2.40	平安中	5間×2間か
S B7019	5×2	N 4°W	9.75	4.80	1.95	2.40	*	東底出2.1m S B7021より古
S B7021	3×2	E 2°N	6.20	3.40	2.10	1.70	*	南底出1.2m
S B7023	5×2	E 4°N	10.25	4.40	2.05	2.20	*	
S B7025	5×2	N 4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	*	S B7023・7028より古
S B7028	5×2	N 4°W	10.00	4.40	2.00	2.20	*	
S B7022	5×2	E 3°N	10.00	3.80	2.00	1.90	平安後 I	
S B7026	3×2	E 3°N	6.30	4.00	2.10	2.00	*	
S B7027	2×2	N 4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	*	純柱建物
S B7037	4×3	N 2°W	7.20	5.40	1.80	1.80	*	南底出2.0m・桁3間分 純柱建物 S B7027より古
S B7038	2×2	N 4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	*	純柱建物
S B7041	4×(2)	E 2°S	8.00	( 3.60 )	2.00	1.80	*	純柱建物
S B7042	(3)×2	E 4°N	( 7.20 )	5.00	2.40	2.50	*	
S B7043	(3)×2	E 4°N	( 6.20 )	5.00	2.00	2.50	*	S B7042より古
S B7044	4×2	E 4°N	7.60	5.00	1.90	2.50	*	S B7041より古
S B7048	(1)×2	N 4°W	( 2.10 )	4.20	2.10	2.10	平安後 II	純柱建物

豎穴住居一覧表

遺構番号	遺構(m)	長軸方向	深さ(cm)	柱 穴	カ マ ド	時 期	備 考
------	-------	------	--------	-----	-------	-----	-----

第103次調査(6 A E Q - A)

S B7045	(4)×-	不 明	40	-	-	奈良後期	
---------	-------	-----	----	---	---	------	--

## 遺物（土器）観察表

第99次調査

No	出土遺物 下層	器種	形 量	調査・技術的特徴	土 色	質 感	色 調	残存度	備 考	登録番号	
1	S E 6920 土器部 底付	(底付) (底面)	9.8cm 1.8cm	口縁部コナデ、体部ケメリ ダサス	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR7/6 2.SYR6/6	底付の擦耗着しい	R 99	
2	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.3cm 3.9cm	口縁部コナデ、体部ナデ ダサス	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	7.SYR7/6 *	約60%	R 53	
3	S E 6920 土器部 上層	(口縁) (底面)	12.4cm 3.9cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった消黄褐色 外：グリーン	10YR6/6 *	約60%	R 54	
4	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	12.6cm 3.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった消黃褐色 外：グリーン	7.SYR7/3 *	約70%	R 27	
5	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.0cm 3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：消黃褐色 外：グリーン	7.SYR7/3 *	約60%	R 28	
6	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.2cm 2.8cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR6/6 *	約60%	R 22	
7	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.6cm 3.0cm	口縁部コナデ、体部ない だりなタケミ。オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR6/6 *	約60%	R 25	
8	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.0cm 3.3cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	2.SYR6/6 *	約60%	R 50	
9	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.2cm 3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：消黄褐色	SYR6/6 10YR6/6	約60%	消黄褐色付すむ	
10	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.8cm 3.5cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR6/6 *	約60%	R 26	
11	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	19.6cm 5.5cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：消黄褐色	SYR6/6 *	約60%	R 30	
12	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	21.0cm 5.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR6/6 *	約60%	内面に放射状地文施す	
13	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	19.5cm 5.3cm	口縁部コナデ、体部ナデ (一部底面左端底丸)	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	7.SYR6/6 *	約60%	R 29	
14	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.8cm 9.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ ターハー、西面ナデ、内面 に含む	繊維	良好	内：にごった 消黄褐色	7.SYR7/4 2.SYR7/3	約60%	内面とも火化物付着	
15	S E 6920 武鉢形器 上層下部	(口縁) (底面)	16.1cm 5.5cm	口縁部コナデ、体部ナデ 内面ナデ、五瓣付近 アラ	絹糸～Seamの段粒 も入るするが有	良好	内：灰オリーブ 外：褐色	SYR6/2 *	約60%	内面のみハケヌリの痕 跡のこる	
16	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	29.7cm 11.8cm	口縁部コナデ、体部ナデ 内面ナデ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	10YR6/6 *	約60%	R 73	
17	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.7cm 1.6cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：消黄褐色 外：褐色	SYR5/6 *	約60%	R 14	
18	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.4cm 1.4cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR5/6 *	完存	R 17	
19	S E 6920 土器部 上層	(口縁) (底面)	13.6cm 1.5cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：消黄褐色 外：褐色	SYR5/6 *	約60%	R 20	
20	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.8cm 1.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	7.SYR7/6 *	約60%	R 11	
21	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	12.9cm 2.8cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった 消黄褐色 外：にごった 褐色	7.SYR7/4 10YR6/3 7.SYR7/4	約60%	R 36	
22	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.6cm 3.4cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：消黄褐色 外：褐色	7.SYR5/6 *	約60%	R 7	
23	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.2cm 3.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった 褐色 外：にごった 褐色	SYR7/4 2.SYR6/4	約60%	口縁部に黒色地文	
24	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.7cm 3.8cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった 褐色 外：褐色	10YR7/4 *	柱状地文 剥離のものが大きい。 内外面の剥離が著しい。	R 16	
25	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	14.5cm 3.3cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	SYR7/6 *	約60%	第一方向に通達する爪状 溝(手中筋)あり	R 15
26	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.0cm 3.3cm	口縁部二段コナデ、体部 ナデ・オサエ	繊維	良好	内：にごった 褐色 外：褐色	7.SYR7/4 *	約60%	R 57	
27	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.9cm 3.1cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：にごった 褐色 外：褐色	7.SYR7/4 *	約60%	R 12	
28	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	13.3cm 3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	7.SYR6/6 *	内部に放射状地文、織紋 地文が施される	R 19	
29	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.5cm 4.2cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：褐色 外：褐色	7.SYR7/6 *	約60%	R 21	
30	S E 6920 土器部 上層下部	(口縁) (底面)	15.8cm 3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ オサエ	繊維	良好	内：消黄褐色 外：褐色	2.SYR5/6 *	内面に織紋地文、放射状 地文が施される	R 2	

No	出土遺物	器種	形 量	調査・技術的特徴	地 土	調 成	色 調	性質度	圖 号	登録番号
31	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 16.0cm (深さ) 4.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 黒 外: *	SYR6/4 *	約50%	内部に放射状線文が施される
32	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 18.0cm (深さ) 4.0cm	口縁部二段ヨコナギ、体部ナ ゲ、オサエ	黒帯	良好	内: 暗 外: *	2.5YR6/8 *	約60%	
33	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 13.6cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 暗 外: *	SYR6/6 *	約70%	
34	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 14.0cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: にぶい 外: にぶい質粗	7.5YR2/4 10YR8/4	約40%	
35	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 13.8cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 浅黒	10YR8/3 *	約50%	
36	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 13.7cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: にぶい 外: *	SYR6/4 *	約50%	
37	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 13.6cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 暗 外: 開口	SYR6/8 SYR6/1	約50%	
38	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 13.8cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部比較 的丁寧なナゲ、オサエ	黒帯	良好	内: にぶい 外: *	10YR7/4 *	約60%	
39	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 14.2cm (深さ) 3.0cm	口縁部二段ヨコナギ、体部 ナゲ、オサエ	黒帯	良好	内: 明赤褐 外: *	SYR6/8 *	約40%	内面に黑色物付着
40	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 14.0cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: にぶい 外: *	10YR7/4 *	約50%	口縁部が斑状にくぼむ
41	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 14.4cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 明赤褐	2.5YR6/6 *	約40%	
42	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 14.7cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 暗 外: *	SYR6/6 *	約70%	
43	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 15.7cm (深さ) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 明赤褐 外: *	SYR6/8 *	約60%	
44	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 15.0cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 暗 外: *	7.5YR6/8 *	約50%	
45	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 15.8cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒	良好	内: 暗 外: *	SYR6/8 *	約50%	
46	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 16.0cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒帯	良好	内: 明赤褐 外: *	SYR6/8 *	約50%	
47	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口徑) 16.0cm (深さ) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、内外面 にヨリカ	黒帯	良好	内: 暗 外: にぶい	SYR7/4 7/5YR5/4	約25%	黑色土器A類
48	S E 6900 黑色土器 上層上部	黑色土器 杯	(口徑) 15.0cm (深さ) 6.0cm 外側にキズ	口縁部ヨコナギ、内面ナゲ ナゲ	黒	塑性	内: 暗 外: 暗	SYR7/1 SYR6/5	約50%	黑色土器A類
49	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 盤?	(口径) 24.1cm	口縁部ヨコナギ、体部内外 にナゲ、底部ナゲ	黒帯	良質	内: 淡黄 外: *	10YR8/4 *	約40%	底部は柱 形状、調整とも複
50	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 26.0cm (深さ) 6.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ、 オサエ	黒	良好	内: 淡黄 外: *	2.5YR8/3 *	口縁の1/5 ~1/6	
51	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 27.0cm (深さ) 6.0cm	口縁部ヨコナギ、内面ヨコナ ギテハラ、内面ヨコナギ、外 面ナゲ、ナゲ	黒帯	良質	内: 暗 外: *	SYR6/6 2.5YR7/2 SYR6/6	口縁の1/2 全体の10%	外側の一部赤変し色物
52	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 18.4cm (深さ) 18.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 ヨコナギ、外面ヨコナギ、外 面ナゲ	黒帯	良質	内: にじった 底部	SYT7/3 *	口縁の60% 全体の30%	外側に多量にスッペ付着
53	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 20.0cm (深さ) 8.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 タマヘタ、内面ヨコナギ、外 面ナゲ	黒帯	良質	内: 陰灰斑 外: *	2.5YSR2/2 10YR5/2	口縁の1/4	口部にスッペ付着
54	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 12.0cm (深さ) 6.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 タマヘタ、内面ヨコナギ	黒帯	良質	内: 淡黄 外: にぶい	2.5YR4/2 SYR7/4	口縁の1/3	二次焼成のため外因赤変
55	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 14.0cm (深さ) 9.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 タマヘタ、内面ヨコナギ、底 部ケメリ	黒帯	良質	内: にぶい 外: *	10YR5/3 *	約50%	
56	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 17.0cm (深さ) 6.2cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ナゲ、ナゲ	黒帯	良質	内: にぶい 外: *	7.5YR7/4 *	口縁の1/4	二次焼成のため外因赤 変
57	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 14.0cm (深さ) 10.0cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ナゲ、ナゲ	黒	良好	内: 淡黄 外: *	2.5YR7/3 *	口縁の1/4	
58	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 22.4cm (深さ) 3.4cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ナゲ、ナゲ	黒	良質	内: にぶい 外: *	10YR6/4 *	口縁の1/5 全体の30%	
59	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 14.2cm (深さ) 2.0cm	内面ヨコナギ、底部ケメ リ、内面ヨコナギ	黒	良好	内: にぶい 外: *	10YR7/2 2.5YR7/1	約50%	口縁部に一部自然物 転用
60	S E 6900 土器部 上層上部	土器部 杯	(口径) 14.0cm (深さ) 6.0cm	口縁部ヨコナギ、内外面 ヨコナギ	黒	良質	内: 淡黄 外: *	2.5YR7/1	約50%	内面に灰褐色の色
61	S E 6900 河跡陶器 上層上部	河跡陶器 皿	(口径) 15.0cm (深さ) 6.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 ナゲ	黒	良質	内: 淡 外: *	SYR6/1 *	約60%	内面のみ灰褐色からる
62	S E 6900 河跡陶器 上層上部	河跡陶器 皿	(口径) 11.4cm (深さ) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部内面 ナゲ	黒	良質	内: 淡白 外: *	SYT7/1 *	約70%	灰輪ガタガタ

No	出土遺物	器種	文書	個體・群衆の特徴	地	土	無	成	色	調	残存度	備考	登録番号
63	S E 6000 上層部	灰陶器 輪	(口徑) 15.6cm (底面) 6.2cm (高さ) 5.7cm	口縁部ヨコナギ、内面凹部 ヨコナギ、底面アラメナ ヨコナギ	堅密な砂質含むが 少	良好	体部：灰黄 輪：灰黄	2.5Y6/2 2.5Y6/1	約90%	灰胎ハケあり	R 59		
64	S E 6000 上層部	灰陶器 輪	(口徑) 17.0cm (底面) 8.2cm (高さ) 5.3cm	口縁部ヨコナギ、外面凹 部ヨコナギ、内面ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	体部：灰黄 輪：灰黄	2.5Y5/3 2.5Y7/3	約40%	灰胎ハケあり	R 33		
65	S E 6000 上層部	灰陶器 輪	(口徑) 15.5cm (底面) 6.8cm (高さ) 5.3cm	口縁部ヨコナギ、外面凹 部ヨコナギ、内面ヨコナギ、 底面ヨコナギ、輪ヨコナギ	砂質多く含むが 少	良好	体部：灰黄 輪：灰黄	10YR7/3 SY6/3	約50%	灰胎ナゲタグ、底盤に 「手」あるいは「手中」の 墨跡、内面に重ね焼痕	R 72		
66	S E 6000 上層部	灰陶器 輪	(口徑) 13.5cm (底面) 4.8cm (高さ) 4.8cm	口縁部ヨコナギ、外面ヨコ ナギ、ヨコナギ、底面ヨコ ナギ、ヨコナギ、輪ヨコナギ	堅密な砂質含むが 少	良好	内：灰 外：灰白	5Y7/2 2.5Y7/1	約90%	灰胎ハケあり	R 33		
67	S E 6000 上層部	灰陶器 輪	(底面) 20.5cm (高さ) 8.0cm	輪ヨコナギ、外面外 面ヨコナギ、内面ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	5Y6/1 2.5Y6/1	約90%	伴隨外平面上に火がかり痕	R 74		
68	S E 6000 上層部	灰陶器 輪?	(口徑) 22.8cm (底面) 12.5cm	口縁部ヨコナギ、内面凹 部ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	7.5Y6/1 2.5Y6/1	約50%	O型の1/4	R 60		
69	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 13.4cm (底面) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	5Y6/2 2.5Y6/2	約90%		R 39		
70	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 16.3cm (底面) 3.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	7.5YR7/6 7.5YR6/4	約90%		R 41		
71	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 14.6cm (底面) 2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	5YR5/6 2.5Y5/6	約90%	底盤に泥附時のくびれ	R 39		
72	S E 6000 上層部	土器器 件	(口徑) 16.9cm (底面) 3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	5YR5/6 2.5Y5/6	約90%		R 69		
73	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 15.6cm (底面) 2.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	5YR6/6 2.5Y6/6	約90%		R 42		
74	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 15.2cm (底面) 7.6cm (高さ) 4.2cm	口縁部ヨコナギ、底盤ナゲ ヨコナギ、外葉ハケ、底盤ナ ギ	堅密	良好	内：灰 外：灰黑	5YR6/6 2.5YR4/2	約90%	底盤の高台設けのための 長い引手と底盤外側 のハケ有り	R 34		
75	S E 6000 底上層	黑色土器 輪	(口徑) 14.6cm (底面) 3.4cm	口縁部ヨコナギ、内面裏方 面ヨコナギ	堅密	良好	内：墨 外：灰	5Y2/1 2.5Y3/2	約90%	黑色土器A形	R 104		
76	S E 6000 底上層	土器器 件	(底面) 2.2cm	内面ヨコナギ、底盤ヨ コナギ	堅密な砂質多いが 少	良好	内：ややこ 外：灰白	7.5Y7/2 2.5Y7/2	約90%	底盤のみ 内面に一部自然剥がげ 状況につく	R 44		
77	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 15.2cm (底面) 6.3cm	口縁部ヨコナギ、内面凹 部ヨコナギ	堅密	良好	内：灰 外：褐色灰	5Y6/2 2.5YR3/1-5/3	約90%	口縫合のみ 残存	R 45		
78	S E 6000 底上層	灰陶器 輪	(口徑) 12.8cm (底面) 4.2cm	口縁部ヨコナギ、内面凹 部ヨコナギ、底盤ヨコナ ギ	堅密	良好	体部：灰黄 輪：灰黄	2.5Y7/1 2.5Y7/3	約90%		R 71		
79	S E 6000 底上層	土器器 件	(口徑) 15.2cm (底面) 16.0cm (高さ) 9.6cm	口縁部ヨコナギ、外葉ハ ケ、底盤ヨコナギ	堅密な砂質含むが 少	良好	内：K-5.5-灰 外：灰	10YR7/4 2.5Y6/4	約90%		R 68		
80	S K 6003	土器器 件	(口徑) 17.2cm (底面) 2.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	堅密	良好	内：K-5.5-性 外：灰	7.5YR2/4 2.5Y6/4	約90%	面部にヘラ状工具によ る擦痕	R 83		
81	S K 6003	土器器 件	(口徑) 16.2cm (底面) 2.6cm	口縁部ヨコナギ、底盤ヨ コナギ	堅密な砂質含むが 少	良好	内：灰 外：灰	10YR5/3 SY6/4	約90%	O型の1/2	R 82		
82	S K 6016	土器器 件	(口徑) 17.5cm (底面) 2.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	7.5YR6/5 2.5Y6/5	約90%		R 86		
83	S K 6016	土器器 件	(口徑) 16.2cm (底面) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	やや砂質多いが 少	良好	内：K-5.5-灰 外：灰	10YR7/3 2.5Y3/1	約90%	外面に黒色付着	R 87		
84	S K 6016	土器器 件	(口徑) 16.1cm (底面) 6.7cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ナゲ、底盤ナゲ、内面ヨ コナギ、底盤ヨコナギ	砂質多量に含む	良好	内：K-5.5-灰 外：灰	10YR6/3 10YR5/3	約90%	外面にスミ付着	R 88		
85	S K 6025	土器器 件	(口徑) 8.5cm (底面) 2.6cm	口縁部ヨコナギ、底盤ナ ギ	底盤多量に含むが 少	良好	内：灰 外：灰	7.5YR2/6 2.5Y6/6	約90%	内面にヘラ状工具の當た り痕	R 90		
86	S K 6025	ロクロ土 器	(口徑) 9.4cm (底面) 2.0cm (高さ) 0.9cm	内外面ヨコナギ、底盤ヨ コナギ	堅密な砂質多量に 含む	やや古い	内：灰白 外：灰	5Y6/2 2.5Y6/2	約90%		R 89		
87	S K 6025	土器器 件	(口徑) 9.0cm (底面) 0.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	堅密	良好	内：灰 外：灰	7.5YR7/6 2.5Y7/6	約90%	裏赤系「て」の字の縦 跡は底盤か?	R 90		
88	S K 6025	黑色土器 輪	—	内外面ヨコナギ 底盤ヨコナギ 内面に灰状工具の沈 積	堅密	良好	内：灰 外：灰	10YR2/2 7.5YR7/6	約90%	底盤成形済、底盤外の 底盤に不明に判別しがたい	R 102		
89	S K 6070	灰陶器 輪	(口徑) 14.7cm (底面) 4.3cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ナゲ、底盤ナゲ、内面ヨ コナギ	やや砂質含むが 少	良好	内：灰オリーブ 外：灰	5Y6/2 2.5Y6/2 SY4/1	約90%	腹は不明だが輪縫出現 中国に火がかり	R 97		
90	S K 6094	ロクロ土 器	(口徑) 12.9cm (底面) 5.2cm (高さ) 2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	堅密な砂質含むが 少	良好	内：灰黄 外：灰	10YR5/4 2.5Y6/4	約90%		R 85		
91	S D 6070	土器器 件	(口徑) 5.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナ ギ	堅密な砂質含むが 少	良好	内：灰 外：灰	2.5YR7/3 2.5Y7/3	約90%	O型のゆがみ大	R 93		
92	S D 6070	陶器 輪	(口徑) 14.7cm (底面) 4.5cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ヨコナギ、内面ナゲ、底 盤ヨコナギ	1.5cm弱の砂質多 量に含む	良好	内：灰 外：灰	5Y6/1 2.5Y6/1	約90%		R 94		
93	S D 6070	陶器 輪	(口徑) 14.8cm (底面) 6.2cm (高さ) 1.5cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ヨコナギ、内面ナゲ、底 盤ヨコナギ	1.5cm弱の砂質多 量に含む	良好	内：灰白 外：灰	5Y7/1 10Y5/2	約90%	底盤内面からろ過縫出現 内面にかけて自然剥離行 程	R 95		
94	Q-29 陶器 輪	(山形県)	(口徑) 15.8cm (底面) 6.1cm	口縁部ヨコナギ、体部外 面ヨコナギ、底盤静止ナ ギ	砂質多量に含むが 少	良好	内：灰黄 外：灰	2.5Y7/2 2.5Y7/2	約90%	内面充満 三方向に輪縫出現	R 91		

No	出土遺物	分類	目 量	調査・既往の特徴	地 士	地 式	色 調	残存度	備 考	登録番号	
95	S D6870	陶器 (山野窯)	(口径) 16.5cm (底面) 5.6cm	口縁部ヨコナギ、体部内外 斜削部ヨコナギ、底部斜削 部ヨコナギ	砂質多いが密 な土	良好	内：灰オリーブ 外：■	SY5/2 SYR7/2	約80%	口縁部等に部分的に馬 蹄形付	R 96
96	S X6900	土器器 杯	(口径) 11.6cm (底面) 3.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密緻	良好	内：にぶい黄 外：にぶい黄	7.SYR7/3 SYR7/4	約70%		R 76
97	S X6900	土器器 杯	(口径) 12.4cm (底面) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密緻	良好	内：にぶい黄 外：■	7.SYR7/3 SYR7/4	約70%	外間に粘土板擦合痕ある	R 75
98	S X6900	土器器 杯	(口径) 13.0cm (底面) 2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密緻	良好	内：にぶい黄 外：■	10YR7/4 SYR7/4	約90%	外間に粘土板擦合痕ある	R 78
99	S X6900	土器器 杯	(口径) 12.4cm (底面) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密緻	良好	内：にぶい黄 外：■	10YR7/4 SYR7/4	約60%	表面面の剥離する	R 77
100	S X6900	土器器 広口型	(口径) 11.2cm (底面) 3.7cm	口縁部ヨコナギ、体部外側 タテハナ、内面底ナデ、底 部ナデ	密緻	ややあまい	内：浅黄 外：■	SY5/3 SYR7/3	約90%	底部に約5mm×約4mmの 内壁からの剥離痕跡が みられる	R 79
102	石-40 P 1	重宝器 鏡頭	(直径) 10.4cm (厚) 1.1cm	背面ケズリ、裏面同心円状 のスタンプ文	底面はどの部位 も有	良好	内：灰 外：■	SY5/1 SYR7/1	約60%	背面に「古」と銘文刻 入する	R 98

## 第100次調査

No	出土遺物	分類	目 量	調査・既往の特徴	地 士	地 式	色 調	残存度	備 考	登録番号	
1	F-9 包含層	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、凹面平行凹縫 網状隙縫、ナメの付着痕	疊重な砂粒多いが 密	良好	内：浅黄 外：■	2.SYR5/3 SYR7/3	-	外間に僅かに赤茶の斑駁 あり	R 13
2	E-12 包含層II	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、断面三角形の 縫合付痕	密	良好	内：浅黄斑 外：■	7.SYR5/4 SYR7/4	-		R 22
3	F-8 包含層II	劣生土器 瓶	(口径) 8cm (底面) 6cm	口縁部ヨコナギと、外間に細 い平行凹縫文	密	良好	内：にぶい黄 外：■	10YR5/4 SYR7/4	-		R 16
4	灰土	劣生土器 瓶	(口径) 8cm (底面) 6cm	外表面本体1.3cmのハナ、 内面ハナのちテナ	底1cm前後の砂粒 多く含む	良好	内：暗灰斑 外：にぶい黄斑	2.SY4/2 10YR7/3	-		R 25
5	D-9 包含層II	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、通路部ヨコナギ の縫合付痕、ナメ平行凹縫文	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：明赤褐 外：■	2.SYR5/4 SYR7/4	-		R 2
6	D-9 包含層II	劣生土器 瓶	(口径) 24.6cm (底面) 11.4cm	外表面本体1.3cmのハナ、 内面ハナのちテナ	細かい粘土の入る 立つ立つが密	良好	内：根 外：■	7.SYR6/6 SYR7/6	約60%		R 27
7	S K6945	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、横位・傾行平 行凹縫文	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：褐 外：■	7.SYR4/3 SYR7/3	-		R 20
8	F-9 包含層II	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、横位・傾行平 行凹縫文	1cm程度の砂粒を 多く含む	良好	内：にぶい根 外：にぶい黄	7.SYR5/4 10YR7/4	-		R 9
9	F-9 包含層II	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	通路部ヨコナギ、横縫接合文、 内面ナメ	疊重な砂粒含む量に 含む	良好	内：にぶい黄根 外：にぶい黄	10YR7/4 10YR7/3	-		R 10
10	F-9 遺構上部	劣生土器 瓶	(口径) 8cm (底面) 6cm	口縁部ヨコナギ、外縫合部 横縫文、内面ハナ	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：深 外：浅黄-暗灰斑	2.SYR5/3 2.SYR7/3	-		R 17
11	D-9 包含層II	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	凹状の平行凹縫文 7mm/cmのハナ、内面ナメ	底1cm程の砂粒多 量に含むが密	良好	内：根 外：■	7.SYR6/6 SYR7/6	-		R 1
12	F-11 劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	棒状工具による平行凹縫文	砂粒多いが密	良好	内：明赤褐 外：■	SYR5/6 SYR7/6	-		R 18	
13	D-12 包含層I	劣生土器 瓶	(口径) 8cm (底面) 6cm	日本1.1cmの横縫接合文、 内面ナメ	内：にぶい根 外：■	良好	内：にぶい根 外：■	7.SYR5/4 SYR7/4	-		R 3
14	F-9 包含層II	劣生土器 瓶	(口径) 8cm (底面) 6cm	口縁部ヨコナギと、外縫部ハケ 内面ナメ	疊重な砂粒多量に 含むが密	良好	内：浅黄斑 外：にぶい黄	7.SYR7/6 10YR7/4	-		R 12
15	E-8 P 2	劣生土器 広口型	(口径) 8cm (底面) 6cm	内外面ナメ、外縫一部ハケ 外縫部横縫接合状文	密	良好	内：浅黄斑 外：■	10YR8/3 SYR7/3	-		R 7
16	F-8 遺構上部	劣生土器 底盤付	(口径) 8cm (底面) 6cm	外縫LR風文、内面ナメ	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：にぶい黄 外：■	10YR7/4 SYR7/4	-		R 5
17	F-8 包含層II	劣生土器 底盤付	(口径) 8cm (底面) 6cm	外表面圓筒内に朱墨文 を充満。内面ナメ	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：にぶい黄 外：■	10YR7/3 SYR7/3	-		R 14
18	F-11 包含層II	鉢	(口径) 12.5cm (底面) 5.9cm	底縁部ヨコナギ、底部外縫 ヨコナギ	密	良好	内：根 外：■	7.SYR2/1 SYR7/1	約70%	外間に斑状の模様ありロ クロ右出軸	R 46
19	E-9 包含層II	土器器 瓶	(口径) 9.8cm (底面) 3.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密	良好	内：にぶい根 外：■	7.SYR5/3 SYR7/3	約60%		R 48
20	F-12 包含層II	土器器 杯	(口径) 15.5cm (底面) 4.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナデ オサエ	密	良好	内：灰オリーブ 外：■	SYR5/2 SYR7/2	約50%	ロクロ右出軸	R 51
21	E-12 包含層II	土器器 杯	(口径) 22.0cm (底面) 2.8cm	外縫ヘラケズリ、内面ナメ	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：根 外：■	SYR7/6 SYR7/6	約20%		R 44
22	E-12 包含層II	土器器 杯	(口径) 18.8cm (底面) 5.6cm	外縫ヘラケズリ、内面ナメ	疊重な砂粒含むが 密	良好	内：根 外：■	7.SYR6/8 SYR7/8	約30%		R 41
23	S D6870	土器器 底盤付	(口径) 22.5cm (底面) 7.6cm	口縫部ヨコナギと、底縫部ヨ コナギ	密	良好	内：根 外：■	SYR6/8 SYR7/8	約20%		R 34

No	地土種類	標 雷	法 畠	調査・採集の特徴	地 土	機 成	色 調	透視度	質 考	登録番号
24	E-13 根含草目	根含草 目	(口目) 24.2m (根目) 7.5m	口部ヨコナダ、断面外 部内面ヨコナダ、内面ナダ オサエ	透 2~3mmの砂 粒含むが繊維	良好	内: 黄 外: ブ	10YR7/2 * * * *	口部の 約1/6 外間に自然物かかる	R 52
25	F-10 根含草	土根草 目	(口目) 14.2m (根目) 3.3m	口部ヨコナダ、体部ナダ オサエ	透	良好	内: 淡 外: ブ	7.5YR7/6 * * * *	約70%	R 53
26	E-13 根含草目	土根草 目	(口目) 15.4m (根目) 3.5m	口部ヨコナダ、体部内面 ナダ・オサエ	透	良好	内: 淡 外: ブ	7.5YR7/6 * * * *	約60%	R 49
27	F-12 根含草	土根草 目	(口目) 15.0m (根目) 2.8m	口部ヨコナダ、体部ナダ オサエ	透	良好	内: 淡 外: ブ	7.5YR7/6 * * * *	約40%	R 54
28	F-9 根含草	土根草 目	(口目) 15.5m (根目) 13.0m	表面を木と3.7cmのハケ、 内面ケリ・板ナダ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	約60%	R 39
29	SK6949	土根草 目	(口目) 11.6m (根目) 3.1m	口部ヨコナダ、体部ナダ オサエ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	10YR8/4 * * * *	ほぼ完存	R 35
30	SK6949	土根草 目	(口目) 13.2m (根目) 3.1m	口部ヨコナダ、体部ナダ オサエ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	10YR8/3 * * * *	約90%	R 36
31	D-9 風輪海藻上部	風輪海藻 上部	(口目) 12.1m (根目) 2.5m	口部ヨコナダ、側部ロカ クナダ、底面ヨコナダ 内面ケリ・板ナダ	透	良好	内: にぶい黄 外: ブ	10YR8/3 * * * *	完存	クロ左回転
32	E-12 根含草目 (山根草)	根含草 目	(口目) 16.0m (根目) 6.0m	口部ヨコナダ、側部ロカ クナダ、底面ヨコナダ 内面ケリ・板ナダ	砂質が多い	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	約40%	クロ左回転
33	F-9 根含草目	土根草 目	(口目) 15.7m (根目) 2.5m	体部ナダ・オサエ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	7.5YR8/4 * * * *	約90%	地土接合構造も
										R 42

## 第101次調査

No	地土種類	標 雷	法 畠	調査・採集の特徴	地 土	機 成	色 調	透視度	質 考	登録番号
1	SK6979	土根草 目	(口目) 9.8m (根目) 2.5m	内面15.1/1.5mmのハケ 内面ナダ・オサエ	繊密	透	内: 淡 外: ブ	7.5YR8/6 * * * *	ほぼ完存	R 22
2	SK6979	土根草 目	(口目) 15.6m (根目) 14.0m	外面11.1/2.3mmのハケ 内面ナダ・オサエ	砂質多いが透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	約70% 表面風化著しい	R 23
3	SK6979	土根草 目	(口目) 11.2m (根目) 15.7m	内面7.1/1.5mmのハ ケ内面ヨコナダのハケとケ リ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	7.5YR8/4 * * * *	約80%	R 21
4	SX6975	土根草 目	(口目) 13.7m (根目) 3.0m	口部ヨコナダ・体部ナ ダ・内面ナダ・オサエ	透	良好	内: にぶい黄 外: ブ	10YR7/4 * * * *	ほぼ完存	外間にヘラ状工具の当た り痕あり
5	SX6975	土根草 目	(口目) 13.6m (根目) 2.8m	口部ヨコナダ・体部内 面ナダ・オサエ	透	良好	内: にぶい黄 外: ブ	10YR7/4 * * * *	外間にヘラ状工具の當た り痕あり	R 3
6	SX6975	土根草 目	(口目) 13.6m (根目) 3.4m	口部ヨコナダ・体部内 面ナダ・オサエ	透	良好	内: にぶい黄 外: ブ	10YR7/4 * * * *	完存	外間にヘラ状工具の當た り痕あり
7	SX6975	土根草 目	(口目) 12.8m (根目) 2.8m	口部ヨコナダ・体部内 面ナダ・オサエ	透	良好	内: にぶい黄 外: ブ	10YR7/4 * * * *	約60%	外間にヘラ状工具の當た り痕あり
8	SX6975	土根草 目	(口目) 8.2m (根目) 1.5m	口部ヨコナダ・体部内 面ナダ・オサエ	砂質多いが透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	完存	R 5
9	SX6975	土根草 目	(口目) 10.6m (根目) 3.8m	前出山台、内面輪轉花 柄、底面内面以外全透明 内面ナダ・オサエ	繊密	透	内: 透 外: 淡灰	透視灰色の動脈 SYR8/2	約60% 黒斑点、見込み部に発光 スタンプ文	R 6
10	SX6975	土根草 目	(口目) 17.5m (根目) 10.6m	口部ヨコナダ・内面ナ ダ・オサエ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y7/4 * * * *	繊密化口 部SYR8/3	外間に黑色物付着
12	SX6975	土根草 目	(口目) 7.7m (根目) 1.0m	内外面ナダ・オサエ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y7/3 * * * *	約50%	R 32
13	SX6975	土根草 目	(口目) 8.0m (根目) 1.0m	内外面ナダ・オサエ	繊細な砂粒多量に 含む	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/4 * * * *	約50%	R 11
14	SX6975	土根草 目	(口目) 10.2m (根目) 2.4m	内外面ナダ・オサエ	繊密	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y4/1 * * * *	約50%	R 9
15	SX6975	土根草 目	(口目) 11.0m (根目) 2.4m	内外面ナダ・オサエ	繊密	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	約40%	R 10
16	SX6975	土根草 目	(口目) 11.3m (根目) 2.5m	内外面ナダ・オサエ	砂質多いが透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y7/3 * * * *	約50%	R 8
17	SX6975	土根草 目	(口目) 23.3m (根目) 14.3m	外圍1本/cmのハケ、ケ リ、内面ナダ	透	良好	内: 淡黄 外: ブ	10YR8/2 * * * *	約60% 外間に多量のスヌ付着	R 29
18	SX6977	土根草 目	(口目) 7.2m (根目) 0.9m	内外面ナダ・オサエ	繊細な砂質含むが 透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	完存	R 14
19	SX6977	土根草 目	(口目) 7.2m (根目) 1.2m	内外面ナダ・オサエ	繊細な砂質含むが 透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/3 * * * *	完存	R 15
20	SX6977	土根草 目	(口目) 7.2m (根目) 1.1m	内外面ナダ・オサエ	繊細な砂質含むが 透	良好	内: 淡黄 外: ブ	2.5Y8/2 * * * *	完存	R 16
21	SX6977	土根草 目	(口目) 7.2m (根目) 1.1m	内外面ナダ・オサエ	繊細な砂質含むが 透	良好	内: 淡白 外: ブ	2.5Y8/2 * * * *	地土接合構造も	R 17

No	出土遺構	器種	形 型	性質・特徴の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登錄番号
22	S X6977	土器部 小瓶	(口徑) 7.4cm (底周) 1.1cm	内内面ナデ・オサエ	豊かな砂質含むが 有	良好	内: 黄黄 外: *	2.5YR/4 ~	完存	R 18
23	S X6977	土器部 小瓶	(口徑) 7.7cm (底周) 1.2cm	内内面ナデ・オサエ	豊かな砂質含むが 有	良好	内: 黄黄 外: *	2.5YR/3 ~	完存	やや厚手
24	S X6977	土器部 旗	(口徑) 11.8cm (底周) 2.7cm	内内面ナデ・オサエ	豊かな砂質含むが 有	良好	内: 黄黄 外: *	2.5YR/4 ~	完存	底板都合残る
25	S D6964	陶器 小瓶	(底周) 4.5cm (高さ) 7.7cm	内内面ロタナデ、底面ホ ーフ面無	砂質多いが有	良好	内: 黄 外: *	7.5YR/1 ~	口縁部のみ 欠損	R 29
27	S D6964	陶器 小瓶 (山田)	(口徑) 10.3cm (底周) 3.9cm (高さ) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、底面ロカ ロナデ、底面内面凹凸有切 れ風模	やや砂質多いが有	良好	内: 黄白 外: *	5YR/2 ~	約70%	R 30
28	S D6973	陶器 盆	(口徑) 16.4cm (底周) 7.1cm (高さ) 4.9cm	口縁部ヨコナデ、底面ロカ ロナデ、底面内面凹凸有切 れ風模	1mm以上の砂質含む するが有	良好	内: 黄白 外: *	7.5YR/1 ~	約80%	口縁部に輪花装飾か?
29	S D6963	陶器 ラ土 盆付鉢	(口徑) 16.5cm (底周) 7.3cm (高さ) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、底面ロカ ロナデ、底面内面凹凸有切 れ風模	やや砂質多いが有	良好	内: 黄白 外: *	2.5YR/3 ~	約90%	R 24
30	S D6964	陶器 ラ土 盆付鉢	(口徑) 12.4cm (底周) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、底面ロカ ロナデ、底面内面凹凸有切 れ風模	有	良好	内: 黄 外: *	7.5YR/7/6 ~	約80%	R 25
31	包含層	土器部 旗	(口徑) 12.2cm (底周) 9.9cm	口縁部ヨコナデ、底面ナデ	1mm以下の砂質多 く含む	良好	内: 黄白 外: *	5YR/2 ~	口縁端部取り返して肥厚 させた	R 31
32	包含層	ロクニ士 器部 旗	(口徑) 8.5cm (底周) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、底面ロカ ロナデ	砂質多いが有	良好	内: K-5I-黄 外: K-5I-1	10YR/4 SYR/6/4	約90%	R 28

### 第103次調査

No	出土遺構	器種	形 型	性質・特徴の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登錄番号
1	S B7045	土器部 旗	(口徑) 16.0cm (底周) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部外腹 ハラケリ、内面ナデ	有	良好	内: 棕 外: *	7.5YR/7/6 ~	約30%	R 278
2	S B7045	土器部 旗	(口徑) 13.5cm (底周) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ オサエ	有	良好	内: K-5I-1-黄 外: * 棕	10YR/7/3 SYR/7/6	約90%	外面に粘土被覆有り、内 面に墨・赤褐色の付着物
3	S B7045	土器部 旗	(口徑) 13.9cm (底周) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ オサエ	有	良好	内: K-5I-1-棕 外: *	7.5YR/6/4 ~	約40%	R 274
4	S B7045	土器部 旗	(口徑) 17.2cm (底周) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部外腹 ハラケリ、内面ナデ	やや砂質多いが有	良好	内: 明赤褐 外: *	SYR/5/6 ~	約80%	修復面の磨耗有し。
5	S B7045	土器部 旗	(口徑) 20.2cm (底周) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部外腹 ハラケリ、内面ナデ	やや砂質多いが有	良好	内: 棕 外: *	SYR/6/8 ~	約40%	R 281
6	S B7045	土器部 旗	(口徑) 22.0cm (底周) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外腹 ハラケリ、内面ナデ	有	良好	内: 棕 外: *	7.5YR/7/6 SYR/6/8	約30%	R 279
7	S B7045	灰窓器 旗	(口徑) 15.2cm (底周) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ロカ ロナデ、底面内面ナデ	1mm～3mmの砂 質含む	良好	内: 棕 外: *	2.5YR/2 ~	約80%	R 277
8	S B7045	灰窓器 旗	(口徑) 15.0cm (底周) 3.1cm	外腹ニコナデ、体部ロカ ロナデ、底面内面ナデ	1mm～5mmの砂 質、小石を含む	良好	内: 緑一ツ波 外: 緑セリ一ツ波	5GY/1 5GY/4/1	約90%	R 276
9	S B7045	灰窓器 旗	(口徑) 13.4cm (底周) 3.5cm	外腹ニコナデ、体部ロカ ロナデ、底面内面ナデ	1mm以下の砂質 含む	良好	内: 棕 外: *	SYR/1 ~	約70%	R 271
10	S B7045	灰窓器 付合鉢	(口徑) 13.3cm (底周) 3.5cm	外腹ニコナデ、体部ロカ ロナデ、底面内面ナデ	1mm以下の砂質 含む	良好	内: 棕 外: *	2.5YR/2 ~	約40%	R 270
11	S B7045	灰窓器 付合鉢	(口徑) 16.4cm (底周) 13.1cm (高さ) 3.8cm	内腹ニコナデ、体部ロカ ロナデ、底面内面ナデ	1mm以下の砂質 含む	良好	内: 棕 外: *	2.5YR/2 ~	約80%	R 275
12	S B7045	土器部 旗	(口徑) 16.7cm (底周) 8.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外腹 ハラケリ、内面ロカハ レ	豊かな砂質多量に 含む	良好	内: 暗灰 外: 棕 SYR/6/6 ~	2.5YR/4/2 2.5YR/1	口縁部1/4 部一部入られる	R 280
13	S B7045	土器部 旗	(口徑) 14.2cm (底周) 10.0cm	口縁部ヨコナデ、体部内面 ナデハラケリ、内面ロカハ レ	有	良好	内: 暗赤褐 外: *	SYR/5/6 ~	約60%	R 269
14	S K7046	土器部 高杯	(口徑) 23.2cm (底周) 9.5cm	口縁部ヨコナデ	豊かな砂質多量に 含む	良好	内: 棕 外: *	2.5YR/3/8 ~	約80%	R 286
15	S A7000	灰窓器 旗	(口徑) 14.5cm (底周) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、上部ヘラ ケリ、内面ロカハ レ	1mm～2mmの長 石粒含む	良好	内: 棕 外: 棕 地オーブン灰 10GY/3/1	2.5GY/4/1 10GY/3/1	約60%	R 304
16	S K7017	土器部 旗	(口徑) 13.2cm (底周) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや砂質多いが有	良好	内: 棕 外: *	SYR/8 ~	約40%	全表面が有し。
17	S K7017	土器部 旗	(口徑) 13.7cm (底周) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ オサエ	有	良好	内: 棕 外: *	SYR/7/6 ~	約40%	R 215
18	S K7017	土器部 旗	(口徑) 13.6cm (底周) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	有	良好	内: 棕 外: *	7.5YR/6/6 ~	約40%	R 214
19	S K7017	土器部 旗	(口徑) 13.4cm (底周) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	有	良好	内: 棕 外: *	SYR/6/8 ~	約30%	R 237
20	S K7017	土器部 旗	(口徑) 14.3cm (底周) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	有	良好	内: 暗褐 外: *	10YR/7/6 ~	約70%	R 240

No	出土遺物	器種	形 番	調査・採集の特徴	胎 土	燒 定	色 調	表層度	解 考	登録番号
21	SK7017	土器部 杯	(口周)15.6cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄褐色 外：グリーン	10YR7/4 x	約60%	R 226
22	SK7017	土器部 杯	(口周)13.4cm (底周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	ややあまい	内：にぶい黄褐色 外：グリーン	10YR7/4 x	約40%	全表面焼着しい
23	SK7017	土器部 杯	(口周)14.2cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約60%	表面焼着するむ
24	SK7017	土器部 杯	(口周)13.4cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内：黄褐色 外：グリーン	10YR8/6 x	完存	全表面焼着しい、足込不整黑色の地露出
25	SK7017	土器部 杯	(口周)13.7cm (底周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR6/6 x	約60%	表面焼着しい
26	SK7017	土器部 杯	(口周)14.2cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約60%	R 233
27	SK7017	土器部 杯	(口周)14.8cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約60%	R 190
28	SK7017	土器部 杯	(口周)13.9cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR7/6 x	約60%	R 231
29	SK7017	土器部 杯	(口周)13.2cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：明赤褐色	2.5YR6/6 2.5YR5/6	約60%	R 229
30	SK7017	土器部 杯	(口周)14.0cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR6/6 x	約60%	表面の風化すむ
31	SK7017	土器部 杯	(口周)13.4cm (底周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR6/6 x	約60%	R 229
32	SK7017	土器部 杯	(口周)13.4cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約70%	施上板面焼失
33	SK7017	土器部 杯	(口周)14.6cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	ややあまい	内：明赤褐色 外：グリーン	SYR5/6 x	約60%	R 233
34	SK7017	土器部 杯	(口周)14.7cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR7/6 x	約60%	R 234
35	SK7017	土器部 杯	(口周)14.5cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR7/6 x	約60%	R 251
36	SK7017	土器部 杯	(口周)14.0cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	10YR7/3 x	約60%	R 212
37	SK7017	土器部 杯	(口周)15.2cm (底周)3.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄褐色 外：グリーン	10YR7/4 x	約40%	R 244
38	SK7017	土器部 杯	(口周)14.5cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	やや砂質多いが密	ややあまい	内：黄褐色 外：グリーン	7.5YR6/4 x	約60%	全表面焼着しい
39	SK7017	土器部 杯	(口周)14.4cm (底周)3.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	ややあまい	内：浅黄褐色 外：グリーン	10YR8/4 x	約40%	外表面の風化すむ
40	SK7017	土器部 杯	(口周)16.4cm (底周)3.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR7/6 x	約60%	R 265
41	SK7017	土器部 杯	(口周)17.0cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約60%	R 211
42	SK7017	土器部 杯	(口周)15.4cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：明赤褐色 外：グリーン	2.5YR5/6 x	約60%	R 266
43	SK7017	土器部 杯	(口周)14.9cm (底周)3.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	緻密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約70%	R 186
44	SK7017	土器部 杯	(口周)15.4cm (底周)3.3cm	口縁部二段ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約60%	R 241
45	SK7017	土器部 杯	(口周)14.0cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	緻密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約40%	R 189
46	SK7017	土器部 杯	(口周)14.4cm (底周)3.6cm	口縁部二段ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR6/8 x	約40%	R 252
47	SK7017	土器部 杯	(口周)15.0cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄褐色 外：グリーン	10YR7/4 x	約60%	R 246
48	SK7017	土器部 杯	(口周)15.8cm (底周)3.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	砂質をや多く含む	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約70%	表面の風化すむ表面 のゆがみや大きさ
49	SK7017	土器部 杯	(口周)13.6cm (底周)3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：明赤褐色 2.5YR7/6 2.5YR6/8	SYR6/8 10YR7/6 2.5YR6/8	約70%	R 185
50	SK7017	土器部 杯	(口周)13.4cm (底周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：褐 外：グリーン	7.5YR7/6 x	約60%	R 235
51	SK7017	土器部 杯	(口周)13.8cm (底周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約40%	外表面に施焼付帯
52	SK7017	土器部 杯	(口周)13.7cm (底周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	密	良好	内：褐 外：グリーン	SYR6/8 x	約70%	R 213

No	出土遺物	形 様	材 量	測定・柱数の特徴	地 土	地 式	地 面	理 存度	測 定	登録番号
53	S K7017	土器器 杯	(口周)13.2cm (腹周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約40%	R 179
54	S K7017	土器器 杯	(口周)12.8cm (腹周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約40%	R 195
55	S K7017	土器器 杯	(口周)13.0cm (腹周)2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	やや詰 多い	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約40%	R 264
56	S K7017	土器器 杯	(口周)14.3cm (腹周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	やや詰 多い	良好	内: 深 外: フ	10YR4/4 x	約80%	R 236
57	S K7017	土器器 杯	(口周)14.2cm (腹周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	やや詰 多い	ややあまい	内: 深 外: フ	10YR3/3 x	約50%	R 263
58	S K7017	土器器 杯	(口周)15.0cm (腹周)3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約30%	R 223
59	S K7017	土器器 杯	(口周)14.5cm (腹周)3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	7-SYR6/6 x	約30%	R 228
60	S K7017	土器器 杯	(口周)14.3cm (腹周)3.0cm	口縁部二段ヨコナギ、体部ナゲ・ ナゲ・オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約40%	R 260
61	S K7017	土器器 杯	(口周)14.4cm (腹周)3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	7-SYR7/6 x	約30%	R 242
62	S K7017	土器器 杯	(口周)13.9cm (腹周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	7-SYR7/6 x	約30%	R 191
63	S K7017	土器器 杯	(口周)14.2cm (腹周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 深 外: フ	10YR7/6 x	約30%	R 254
64	S K7017	土器器 杯	(口周)14.2cm (腹周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	7-SYR6/6 x	約30%	R 255
65	S K7017	土器器 皿	(口周)14.2cm (腹周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅(粘土に小石含む)	堅密	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	充存	外側C粘土複合構
66	S K7017	土器器 皿	(口周)15.0cm (腹周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	やや詰 多い	良好	内: 積 外: フ	SYR6/8 x	約90%	R 187
67	S K7017	土器器 皿	(口周)15.8cm (腹周)2.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約90%	R 181
68	S K7017	土器器 皿	(口周)15.2cm (腹周)2.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/8 x	約60%	R 249
69	S K7017	土器器 皿	(口周)15.4cm (腹周)2.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR7/6 x	約90%	R 197
70	S K7017	土器器 皿	(口周)16.2cm (腹周)2.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	7-SYR2/6 x	約40%	R 225
71	S K7017	土器器 皿	(口周)16.7cm (腹周)2.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	7-SYR7/6 x	約40%	R 180
72	S K7017	土器器 皿	(口周)16.5cm (腹周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	7-SYR6/8 x	約50%	R 262
73	S K7017	土器器 皿	(口周)16.2cm (腹周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	堅密	内: 積 外: フ	7-SYR2/6 x	充存	R 204
74	S K7017	土器器 皿	(口周)16.1cm (腹周)1.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	堅密	内: 深 外: フ	7-SYR7/8 x	約40%	R 193
75	S K7017	土器器 皿	(口周)15.4cm (腹周)1.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	堅密	内: 積 外: フ	SYR6/8 x	約30%	R 258
76	S K7017	土器器 皿	(口周)15.2cm (腹周)1.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/8 x	±±充存	R 245
77	S K7017	土器器 皿	(口周)14.4cm (腹周)1.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約90%	豪浜の堅持者しい
78	S K7017	土器器 皿	(口周)14.8cm (腹周)1.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約90%	R 238
79	S K7017	土器器 皿	(口周)14.4cm (腹周)1.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/8 10YR2/6	約50%	R 184
80	S K7017	土器器 皿	(口周)13.4cm (腹周)1.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	ややあまい	良好	内: 深 外: フ	10YR3/3 x	約50%	豪浜の堅持者しい
81	S K7017	土器器 皿	(口周)14.2cm (腹周)1.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/8 x	約50%	R 227
82	S K7017	土器器 皿	(口周)15.0cm (腹周)1.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 深 外: フ	10YR4/4 10YR6/6	約40%	R 183
83	S K7017	土器器 皿	(口周)15.5cm (腹周)0.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約50%	R 217
84	S K7017	土器器 皿	(口周)15.1cm (腹周)1.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・ オサエ	堅密	良好	内: 積 外: フ	SYR6/6 x	約40%	R 194

%	出土遺物	樹種	古 量	洞魚・技術の特徴	植 土	株 成	色 調	残存度	備 考	登録番号	
85	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.5cm (高さ)1.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 明赤褐 外: ブラウン	SYR6/8 %	完存	R 199	
86	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.6cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	7-SYR6/6 %	約50%	R 256	
87	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	堅韌	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/8 %	約60%	R 207	
88	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	7-SYR7/6 %	約50%	R 267	
89	SK7017	土壌腐 木	(口徑)11.9cm (高さ)1.6cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	やや良好	内: 深赤褐 外: ブラウン	10YR7/6 %	柱形完存 表面剥離耗耗しい	R 268	
90	SK7017	土壌腐 木	(口徑)13.6cm (高さ)1.6cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約70%	R 261	
91	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.3cm (高さ)1.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: にぶい棕 外: ブラウン	7-SYR7/4 %	約50%	R 192	
92	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.6cm (高さ)1.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: にぶい棕 外: ブラウン	10YR7/4 %	約50%	R 209	
93	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.3cm (高さ)1.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約60%	R 239	
94	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.7cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約40%	表面内面に木目ミの蟲跡 残る	R 243
95	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	堅韌	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約70%		R 224	
96	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約90%	R 206	
97	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.1cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	やや良好	内: 棕 外: ブラウン	7-SYR7/6 %	完存 表面剥離し磨耗	R 206	
98	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	堅韌	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/8 %	完存		R 202	
99	SK7017	土壌腐 木	(口徑)14.0cm (高さ)1.6cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	7-SYR6/6 %	約60% 表面剥離すむ	R 208	
100	SK7017	土壌腐 木	(口徑)26.0cm (高さ)2.1cm	□縦断ハサツ、体部外側 タテハサツ、ケズリ、内面ナヂ タテハサツ、ケズリ	直	やや珍貴多い・が良	内: 深赤褐 外: 深褐色	10YR8/6 10YR8/3 10YR7/2 10YR7/1	口徑の70% 外径二次削減による黒化 スス材質	R 203	
101	SK7017	土壌腐 木	(口徑)27.0cm (高さ)2.0cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ タテハサツ、ケズリ、内面ナヂ タテハサツ、ケズリ	直	良好	内: 深赤褐 外: にぶい黄褐	10YR8/2 10YR7/3	口徑の8/4	R 230	
102	SK7017	土壌腐 木	(口徑)19.4cm (高さ)14.3cm	□縦断ヨコナヂ、体部外側 タテハサツ、ケズリ、内面ナヂ タテハサツ、ケズリ	直	良好	内: 深赤褐 外: にぶい黄褐	10YR8/4 10YR7/3	約90%	R 188	
103	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.1cm (高さ)2.9cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	堅韌	内: 棕 外: にぶい棕	7-SYR7/6 7-SYR7/4	約90%		R 59	
104	SK7030	土壌腐 木	(口徑)12.5cm (高さ)2.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: 深赤褐 外: にぶい黄褐	2-SYR3 %	約90%	R 61	
105	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.4cm (高さ)3.3cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	やや珍貴多く含む が良	良好	内: 深赤褐 外: にぶい棕	10YR7/6 %	約90% 体部に黒斑斑による大き な凹凸が數ヵ所つく	R 63	
106	SK7030	土壌腐 木	(口徑)14.5cm (高さ)3.0cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: 深赤褐 外: ブラウン	10YR8/4 %	約90% 表面四隅色	R 62	
107	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.7cm (高さ)2.4cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: にぶい棕 外: ブラウン	7-SYR7/4 %	約80% やがん黒めて大、やがん だ崩れついとみられる 木目状模様あり	R 64	
108	SK7030	土壌腐 木	(口徑)14.4cm (高さ)3.1cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	堅韌	内: 深赤褐 外: にぶい黄褐	10YR8/1 10YR7/3	約90%		R 60	
109	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.8cm (高さ)2.7cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: にぶい黄褐 外: ブラウン	10YR7/3 %	約70% 表面の剥離すむ	R 65	
110	SK7030	土壌腐 木	(口徑)12.8cm (高さ)2.8cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: にぶい棕 外: ブラウン	SYR7/3 %	約80%	R 67	
111	SK7030	土壌腐 木	(口徑)12.5cm (高さ)3.3cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: 深赤褐 外: ブラウン	10YR8/3 %	約90% 表面黒色	R 66	
112	SK7030	土壌腐 木	(口徑)12.0cm (高さ)2.5cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	堅韌	内: にぶい黄褐 外: ブラウン	10YR7/4 %	約90% 表面の中段にややあり 表面の剥離すむ	R 146		
113	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.0cm (高さ)2.8cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: にぶい棕 外: ブラウン	7-SYR6/4 %	約80%	R 145	
114	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.0cm (高さ)2.8cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	やや珍貴含むが良	良好	内: にぶい黄褐 外: ブラウン	10YR8/4 %	約90%	R 151	
115	SK7030	土壌腐 木	(口徑)15.0cm (高さ)3.1cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: にぶい黄褐 外: ブラウン	10YR7/4 %	約90% 表面やや中がむ	R 159	
116	SK7030	土壌腐 木	(口徑)13.4cm (高さ)2.6cm	□縦断ヨコナヂ、体部ナヂ、 オサエ	直	良好	内: 棕 外: ブラウン	SYR6/6 %	約90%	R 153	

No	出土地名	基盤	底質	洞開・柱状の特徴	粘土	構成	色	調査	既存度	備考	登録番号
117	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 豊富な砂質含むが 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	約80%	表面うすく茶褐色の薄地 すり	R 147	
118	SK7000	土砂盛杯	(口幅)14.0cm (底幅)3.1cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	約30%		R 152	
119	SK7000	土砂盛杯	(口幅)14.4cm (底幅)3.3cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR2/6 "	約30%		R 117	
120	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.8cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:淡黃 外:淡黃	10YR2/4 2.5YR7/3	完存		R 58	
121	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.4cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡黃 外: "	2.5YR3 "	約80%		R 114	
122	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.2cm (底幅)2.6cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡黃 外: "	2.5YR3 "	約90%	節理のゆがみ大きい	R 116	
123	SK7000	土砂盛杯	(口幅)14.1cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 やや砂質多いが 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	約60%	節理の発達著しい	R 129	
124	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.1cm (底幅)2.5cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	ほぼ完存	表面の選択著しい	R 131	
125	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.2cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	約60%		R 130	
126	SK7000	土砂盛杯	(口幅)16.6cm (底幅)7.4cm ナゲ	□縦断ヨコナデ、体部内面 ナハリ、内面ヨコハラ後 ナゲ	砂質多いが 少	良好	内:にじい黄 外: "	2.5YR6/3 "	口徑の1/4	R 174	
127	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.1cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	砂質多いが 少	豊漸	内: 淡黃 外: "	2.5YR3 "	約70%		R 147
128	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.2cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	砂質多いが 少	豊漸	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	ほぼ完存		R 166
129	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.0cm (底幅)2.4cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい緑 外: "	7.5YR2/4 "	約30%		R 87	
130	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい緑 外: 淡黃	7.5YR2/4 2.5YR3/3	約90%		R 86	
131	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内: 淡黃 外:にじい緑	10YR2/4 10YR2/4	約80%		R 90	
132	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.7cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡黃 外: "	2.5YR4 "	約70%	節理の発達著しい	R 88	
133	SK7000	土砂盛杯	(口幅)14.2cm (底幅)3.0cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内: 淡 外: "	7.5YR6/8 "	約70%		R 84	
134	SK7000	土砂盛杯	(口幅)13.0cm (底幅)3.0cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR6/6 "	約50%		R 85	
135	SK7000	土砂盛杯	(口幅)18.6cm (底幅)4.3cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR6/6 "	約40%		R 89	
136	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.5cm (底幅)2.6cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内: 淡黃 外: "	10YR2/2 "	約30%		R 108	
137	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄緑 外: "	10YR2/4 "	ほぼ完存		R 107	
138	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.5cm (底幅)2.8cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内: 淡 外: 明るい緑	SYR6/6 SYR3/2	約30%		R 112	
139	SK7000	土砂盛杯	(口幅)14.2cm (底幅)3.3cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR6/6 "	約50%		R 106	
140	SK7000	土砂盛杯	(口幅)15.2cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内:にじい黄 外: "	10YR2/3 "	約20%		R 111	
141	SK7000	土砂盛杯	(口幅)15.5cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR2/6 "	約80%		R 142	
142	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.6cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄 外: "	10YR2/4 "	約90%		R 143	
143	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	内:にじい黄 外: "	10YR3/3 "	約90%	内面見込みに淡くナゲた 風隙あり	R 168	
144	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.4cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	豊漸	豊漸	内: 淡 外: "	7.5YR6/8 "	約60%		R 169
145	SK7000	土砂盛杯	(口幅)15.5cm (底幅)4.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内:にじい黄 外: "	10YR2/4 "	約70%		R 170	
146	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.6cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	7.5YR2/6 "	約60%		R 162	
147	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡 外: "	2.5YR2/2 2.5YR3/3	約40%		R 161	
148	SK7000	土砂盛杯	(口幅)12.0cm (底幅)2.7cm オサエ	□縦断ヨコナデ、体部ナデ、 少	良好	内: 淡黃 外: "	2.5YR4 "	約40%	破壊風化色	R 154	

No	出土遺物	器種	法 量	調査・採集の特徴	地 土	地 草	色 調	残存度	備 考	登録番号	
149	SK7030	土器部 枝	(口周) 12.8cm (腹周) 2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：黒 外：*	7.5YR6/6 *	約90%	R 155	
150	SK7030	土器部 枝	(口周) 12.9cm (腹周) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：黒 外：*	7.5YR7/6 *	ほぼ完存	R 160	
151	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.3cm (腹周) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：灰黄褐色 外：にぶい黒	10YR6/2 7.5YR6/4	約90%	R 156	
152	SK7030	土器部 枝	(口周) 12.8cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：灰黄 外：*	2.5YR3 *	約90%	R 159	
153	SK7030	土器部 枝	(口周) 14.2cm (腹周) 3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：黒 外：*	7.5YR7/6 7YR6/6	約90%	R 157	
154	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.4cm (腹周) 3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：灰黄褐色 外：*	10YR6/4 *	約90%	R 158	
155	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.7cm (腹周) 3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	若干あまい	内：灰黄 外：*	2.5YR3 *	約90%	R 144	
156	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.0cm (腹周) 2.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	R 133	
157	SK7030	土器部 枝	(口周) 12.5cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	R 132	
158	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.3cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：灰黄褐色 外：灰黄褐色	10YR6/4 7.5YR6/3	ほぼ完存 表面の剥離すむ	R 104	
159	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.0cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：灰黄褐色 外：*	10YR6/4 *	約90%	R 105	
160	SK7030	瓦類	(全高) 6.7cm (底周) 1.7cm	片端面ヨコナギ、底部ロタ リーナギ、内側ナゲ	堅密	堅密	内：灰黄 外：1/3	2.5YR7/2 *	馬糞窓の 馬糞窓	R 96	
161	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.2cm (腹周) 3.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	やや砂質含むが密	良好	内：灰黄褐色 外：*	10YR6/4 *	約90%	R 171	
162	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.5cm (腹周) 2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：灰黄褐色 外：*	10YR6/4 *	約90%	R 172	
163	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.4cm (腹周) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黒 外：*	7.5YR7/4 *	柱状完存	R 173	
164	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.1cm (腹周) 2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	ややシルト質多い が密	良好	内：黒 外：*	SYR7/6 *	柱状完存 表面の剥離・風化著し い	R 140	
165	SK7030	土器部 枝	(口周) 14.0cm (腹周) 3.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	堅密	内：にぶい黒 外：*	7.5YR7/4 *	約90%	表面のゆがみ大きい	R 139
166	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.0cm (腹周) 2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：にぶい黒 外：*	7.5YR7/4 *	約90%	R 75	
167	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.0cm (腹周) 3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：にぶい黒 外：*	10YR7/3 *	約90%	R 68	
168	SK7030	土器部 枝	(口周) 12.8cm (腹周) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：灰黄褐色 外：*	10YR6/3 *	約90%	R 69	
169	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.0cm (腹周) 3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	R 70	
170	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.2cm (腹周) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：灰黄褐色 外：にぶい黄褐色	10YR6/4 10YR7/4	約90%	R 80	
171	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.3cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：にぶい黒 外：*	7.5YR6/4 *	約90%	5mm程度の焼成済隙孔 を外から内へ露す	R 71
172	SK7030	土器部 枝	(口周) 13.2cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	堅密	内：黒 外：*	SYR6/6 *	約90%	R 72	
173	SK7030	土器部 枝	(口周) 14.9cm (腹周) 2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR6/4 *	約90%	R 77	
174	SK7030	土器部 枝	(口周) 14.5cm (腹周) 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	堅密	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	R 78	
175	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.3cm (腹周) 3.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	R 76	
176	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.5cm (腹周) 4.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄褐色 外：*	10YR7/4 *	約90%	外面に粘土板接合痕	R 79
177	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.0cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：黒 外：*	7.5YR7/6 *	ほぼ完存	表面の剥離すむ	R 83
178	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.3cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：灰黄 外：*	2.5YR3 7.5YR7/6	約90%	R 82	
179	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.0cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：黒 外：*	7.5YR7/6 7.5YR6/6	約90%	R 82	
180	SK7030	土器部 枝	(口周) 15.3cm (腹周) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナゲ・オサエ	土	良好	内：にぶい黒 外：*	7.5YR7/4 *	約90%	R 164	

No	出土遺構	分類	古 量	調査・性状の特徴	出 土	発 実	色 調	残存状	備 考	登録番号	
181	S K7030	土器部 片	(口幅)13.1cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、オサエ	書	ややあまい 内：淡黄 外：白	2.5YR3/ 2	約90%		R 165	
182	S K7030	土器部 片	(口幅)13.4cm (底周)2.6cm	口縁部ヨコナギ、体部丁寧 なナギ、オサエ	書	良好	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/4 2	残存充	R 163	
183	S K7030	土器部 片	(口幅)12.7cm (底周)2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR7/2 2	口縁部強くナギで、大き く歪曲する	R 126	
184	S K7030	土器部 片	(口幅)13.7cm (底周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	堅緻	内：にふい・黄澄 外：灰黄褐	10YR6/3 10YR5/2	約90%	R 109	
185	S K7030	土器部 片	(口幅)14.0cm (底周)3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR6/6 2	約90%	R 110	
186	S K7030	土器部 片	(口幅)13.6cm (底周)3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/3 2	約90%	R 127	
187	S K7030	土器部 片	(口幅)13.6cm (底周)3.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：根 外：白	7.5YR7/6 2	約90%	R 128	
188	S K7030	土器部 片	(口幅)11.9cm (底周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/4 2	約90%	R 134	
189	S K7030	土器部 片	(口幅)12.2cm (底周)2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/4 2	約90%	R 102	
190	S K7030	土器部 片	(口幅)13.6cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	堅緻	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/4 2	約90%	R 135	
191	S K7030	土器部 片	(口幅)13.1cm (底周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 103	
192	S K7030	土器部 片	(口幅)13.2cm (底周)2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：灰黄褐 外：白	10YR6/4 2	約90%	R 136	
193	S K7030	土器部 片	(口幅)24.6cm (底周)11.7cm	口縁部ヨコナギ、内面凹 テラリ、ケリナギ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR7/6 2	約90%	R 73	
194	S K7030	土器部 片	(口幅)13.2cm (底周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 138	
195	S K7030	土器部 片	(口幅)13.1cm (底周)3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR6/6 2	約90%	R 137	
196	S K7030	土器部 片	(口幅)12.5cm (底周)2.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	織密	良好	内：根 外：白	SYR6/6 2	約90%	R 93	
197	S K7030	土器部 片	(口幅)12.5cm (底周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 101	
198	S K7030	土器部 片	(口幅)14.2cm (底周)2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：灰黄褐 外：白	10YR8/4 2	約90%	R 100	
199	S K7030	土器部 片	(口幅)14.0cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：淡黄褐 外：白	10YR8/4 2	約90%	R 92	
200	S K7030	土器部 片	(口幅)14.5cm (底周)3.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：根 外：白	7.5YR7/6 2	約90%	R 94	
201	S K7030	土器部 片	(口幅)15.4cm (底周)3.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	SYR6/6 2	約90%	R 91	
202	S K7030	土器部 片	(口幅)13.7cm (底周)3.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR7/6 2	口径のO1/4	R 99	
203	S K7030	土器部 片	(口幅)12.8cm (底周)9.7cm	口縁部ヨコナギ、体部内外 ナギ、藍銅外顎ヘラケシ	書	良好	内：にふい・黄澄 外：白	10YR7/4 2	約90%	R 74	
204	S K7030	土器部 片	(口幅)13.2cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 116	
205	S K7030	土器部 片	(口幅)13.0cm (底周)2.9cm	口縁部ヨコナギ、体部丁寧 なナギ、オサエ	織密	堅緻	内：にふい・黄澄 外：白	10YR6/3 2	残存充	R 56	
206	S K7030	土器部 片	(口幅)12.8cm (底周)2.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 122	
207	S K7030	土器部 片	(口幅)14.5cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR7/6 2	約90%	器表記の剥離するむ	R 125
208	S K7030	土器部 片	(口幅)14.5cm (底周)3.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：根 外：白	7.5YR6/6 2	約90%	R 123	
209	S K7030	土器部 片	(口幅)13.8cm (底周)3.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 120	
210	S K7030	土器部 片	(口幅)13.3cm (底周)2.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	織密	良好	内：にふい・根 外：白	7.5YR7/4 2	約90%	R 141	
211	S K7030	土器部 片	(口幅)13.2cm (底周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：淡黄褐 外：白	10YR8/4 2	約90%	R 121	
212	S K7030	土器部 片	(口幅)13.2cm (底周)2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ、 オサエ	書	良好	内：淡黄褐 外：白	10YR8/4 2	残存充	器表記の剥離著しい	R 57

No.	地土種別	登 種	出 量	調査・技術の特徴	地 土	地 式	色 質	疾 密度	固 程	登録番号
213	S K7030	土壌透 枝	(口徑) 3.6cm (高さ) 3.6cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：にぶい 黄褐色	7.5YR6/2 10YR5/3	約70%	R 113
214	S K7030	土壌透 枝	(口徑) 3.4cm (高さ) 2.4cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：にぶい 黄褐色	10YR7/4 10YR6/3	約70%	R 55
215	S K7030	土壌透 枝	(口徑) 3.4cm (高さ) 2.4cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：にぶい 黄褐色	10YR6/3	約60%	R 119
216	S K7030	土壌透 枝	(口徑) 3.4cm (高さ) 2.4cm オサエ	口縫部ヨコナデ、内面ナデ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：にぶい 黄褐色	10YR7/2 10YR6/3	約60%	R 96
217	S K7030	土壌透 枝	(底面) 5.8cm (高さ) 2.5cm オサエ	内外面ヨコナデ、底面ナデ 未承認	密	良好	内：灰白 外：灰黄	5Y7/1 2.5YR7/1	底径の1/3	R 97
218	S K7030	土壌透 枝付根	(口徑) 3.4cm (高さ) 3.6cm オサエ	口縫部ヨコナデ、内面ナデ 未承認	良好	中や砂質多いが密	内：浅黄褐色 外：浅黄褐色	7.5YR6/4 5YR7/6	台盤の1/4	R 177
219	S K7030	土壌透 枝	(口徑) 18.4cm (高さ) 7.3cm オサエ	口縫部ヨコナデ、底部外面 ナデ、ナサエ、内面ナデ	中や砂質多いが密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	7.5YR8/4 10YR8/3	口徑の1/4 表面の摩耗すむ	R 176
220	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 28.6cm (高さ) 7.3cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部外面 ナデハラ、内面ナデ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/3 10YR7/2	口徑の1/4	R 178
221	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.0cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4	約60%	R 3
222	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 11.4cm (高さ) 2.3cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	7.5YR6/2 10YR7/2	約40%	R 25
223	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 11.2cm (高さ) 2.3cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 48
224	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 11.2cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	疊層な砂粒含むが 密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	2.5YR6/4 10YR7/2	約60%	R 35
225	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.3cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	7.5YR6/2 10YR7/2	性状定存	R 11
226	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.1cm (高さ) 3.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 34
227	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.2cm (高さ) 3.2cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	2.5YR6/4 10YR7/2	約60%	R 39
228	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 14.2cm (高さ) 3.1cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	2.5YR6/4 10YR7/2	約60%	R 54
229	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 15.9cm (高さ) 3.5cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/3 10YR7/2	約60%	R 30
230	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 14.5cm (高さ) 3.4cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 35
231	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.2cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4 10YR6/3	約60%	R 36
232	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.0cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4 10YR6/3	約60%	R 49
233	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.0cm (高さ) 2.6cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 29
234	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.0cm (高さ) 2.9cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4 10YR6/3	性状定存	R 9
235	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.0cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4 10YR6/3	完存	R 43
236	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.6cm (高さ) 2.6cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 37
237	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.3cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	疊層な砂粒含むが 密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR7/6 10YR6/3	約70% 粘土板凝合疾患も	R 38
238	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.2cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	疊層な砂粒含むが 密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	7.5YR7/6 10YR6/3	約60% 日本部C.治療付着	R 35
239	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.8cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60%	R 45
240	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.9cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	ややあまい	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 10YR7/2	約60% 全面著しく崩壊	R 52
241	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.0cm (高さ) 2.7cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	疊層な砂粒含むが 良好	良好	内：にぶい 黄褐色 外：灰	10YR7/4 10YR6/3	性状定存	R 2
242	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 13.3cm (高さ) 2.8cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	10YR8/4 7.5YR7/6	約40% 表面剥離し崩壊	R 51
243	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.5cm (高さ) 2.3cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	5YR8/8 10YR8/4	約50%	R 7
244	S K7040	土壌透 枝	(口徑) 12.5cm (高さ) 2.6cm オサエ	口縫部ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	軟密	良好	内：浅黄褐色 外：灰	2.5YR8/3 10YR7/2	約60%	R 22

No	出土地質	草種	株量	特徴・技術的特徴	治上	地成	色	調	現存度	調査年	登録番号
245	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.3cm (根周)2.5cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約40%	粘土板結合度高	R 26
246	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.3cm (根周)2.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/3 *	約50%		R 40
247	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.8cm (根周)2.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/3 *	完存		R 18
248	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.8cm (根周)2.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約40%		R 31
249	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.8cm (根周)2.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:復 外:グリーン	SYR6/6 *	約50%	根形の中がふ大きい	R 46
250	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.4cm (根周)2.6cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:浅黄 外:グリーン	7.5YR8/4 *	完存		R 17
251	S K7040	土壌草 木	(口徑)14.3cm (根周)3.0cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:浅黄 外:グリーン	10YR7/4 *	既存完存		R 19
252	S K7040	土壌草 木	(口徑)14.2cm (根周)3.0cm	ロ繊維二段ヨコナデ、体部 ナデ、オサエ	密	良好	内:復 外:グリーン	SYR7/6 *	約60%	底葉がよく枯れる	R 44
253	S K7040	土壌草 木	(口徑)15.0cm (根周)3.1cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:復 外:グリーン	7.5YR6/6 *	約40%		R 32
254	S K7040	土壌草 木	(口徑)15.4cm (根周)3.0cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:浅黄 外:グリーン	10YR7/4 *	約40%		R 24
255	S K7040	土壌草 木	(口徑)15.1cm (根周)3.0cm	ロ繊維二段ヨコナデ、体部 ナデ、オサエ	密	良好	内:退 外:にぶい黄緑 内:にぶい角	SYR6/6 10YR7/4 7.5YR7/3	約60%	内面に黑色物付着 内三二次側面による赤変 詰められる	R 4
256	S K7040	土壌草 木	(口徑)16.8cm (根周)3.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:浅黄 外:グリーン	10YR8/3 *	約20%		R 53
257	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.4cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:根 外:グリーン	SYR6/8 *	約70%		R 284
258	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.5cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:復 外:復	7.5YR7/2 2.5WV3	完存		R 1
259	S K7040	土壌草 木	(口徑)15.3cm (根周)3.0cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:根 外:グリーン	7.5YR7/6 *	約40%		R 182
260	S K7040	土壌草 木	(口徑)18.0cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:根 外:グリーン	SYR6/6 *	約50%		R 47
261	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.5cm (根周)2.5cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:根 外:明黄色	SYR6/8 *	約90%		R 21
262	S K7040	土壌草 木	(口徑)11.8cm (根周)2.5cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:浅黄 外:明黄色	10YR8/4 10YR8/6	約40%		R 28
263	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.4cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:根 外:グリーン	7.5YR7/6 *	完存		R 10
264	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.5cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR6/3 *	約50%		R 5
265	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.8cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	良好	良好	内:復 外:グリーン	2.5YR7/4 *	約70%		R 41
266	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.2cm (根周)2.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:根 外:グリーン	7.5YR7/6 *	約70%	外面上に粘土板結合度あり	R 14
267	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.1cm (根周)1.9cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:浅黄 外:グリーン	10YR8/4 *	約80%		R 16
268	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.6cm (根周)1.7cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約50%		R 27
269	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.7cm (根周)1.9cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	少質多い	ややあせい	内:根 外:グリーン	SYR7/8 *	約50%	春表面の剥離すむ	R 265
270	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.5cm (根周)1.9cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約80%		R 8
271	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.3cm (根周)1.6cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約80%	一面に根柢が強く這んで 露出する 外面上に粘土板結合度あり	R 13
272	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.3cm (根周)1.6cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	7.5YR7/4 *	約50%		R 23
273	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.1cm (根周)1.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:根 外:グリーン	7.5YR6/8 *	既存完存		R 12
274	S K7040	土壌草 木	(口徑)14.0cm (根周)1.5cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	散密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	既存完存	内面に次第に植物茎?が 当たった痕跡あり	R 6
275	S K7040	土壌草 木	(口徑)13.9cm (根周)1.8cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:浅黄 外:グリーン	10YR8/4 *	既存完存	根形の中がふ大きい	R 262
276	S K7040	土壌草 木	(口徑)12.4cm (根周)1.4cm	ロ繊維ヨコナデ、体部ナデ、 オサエ	密	良好	内:にぶい黄緑 外:グリーン	10YR7/4 *	約90%		R 33

No	出土遺物	器種	色	調査・技術の特徴	地 土	構成	色 調	種 類	備 考	登録番号	
277	S K7045	土器部 三	(白)	12.4cm (最高) 1.4cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	密	良好	内: 洗浄 外: *	SYR8/4 *	約90%	R 263
278	S K7046	土器部 台付杯	(白)	8.4cm (最高) 3.7cm	口縁部ヨコナギ、体部外側タ ハク、底部ナギ、内面ナギ	致密	聖	内: 植 外: *	7.SYR7/6 10YR8/4	高台部の 約50%	R 59
279	S K7047	土器部 三	(白)	11.9cm (最高) 1.5cm	口縁部ヨコナギ、体部内 側面ヨコナギ	致密	聖	内: 赤白 外: *	SYR7/2 *	高台部の 1/4	R 42
280	S K7026	土器部 三	(白)	9.7cm (最高) 1.3cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	密	良好	内: にぶい黄 外: *	10YR7/4 *	ほぼ完存	R 306
281	S K7029	土器部 三	(白)	10.0cm (最高) 1.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	やや砂質多いが密	良好	内: にぶい黄 外: *	10YR7/4 *	約70%	R 307
282	S K7029	ロコリ土 器部 体	(白)	9.4cm 4.7cm (最高) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部内外 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	やや砂質多いが密	良好	内: 植 外: *	7.SYR6/8 *	約90%	R 308
283	S K7029	ロコリ土 器部 体	(白)	14.3cm 4.5cm (最高) 4.0cm	口縁部ヨコナギ、底面部内外 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	やや砂質多いが密	良好	内: 赤黄 外: *	2.SYR8/4 *	約70%	R 305
284	S K7029	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	9.7cm 4.5cm (最高) 3.8cm	口縁部ヨコナギ、底面部外 側面ヨコナギ、内面ナギ、底 部ナギ	良好	内: 洗浄	10YR8/4 *	約70%	内部に多数のヘラ状工具 の当たり痕、調整は複	R 309
285	S K7052	土器部 三	(白)	9.0cm 2.0cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	緻細な砂質多いが 密	良好	内: にぶい黄 外: *	10YR7/4 *	約90%	R 301
286	S K7052	土器部 三	(白)	9.1cm (最高) 1.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多量に含むが 密	良好	内: にぶい黄 外: *	10YR7/4 *	約90%	R 299
287	S K7052	土器部 三	(白)	12.0cm (最高) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多量に含みや やもろい	良好	内: 洗浄 外: *	2.SY7/4 *	約90%	R 300
288	S K7052	ロコリ土 器部 体	(白)	8.9cm 4.3cm (最高) 1.8cm	口縁部ヨコナギ、底面部内 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	やや砂質多いが密	良好	内: 洗浄 外: *	10YR8/3 *	約90%	R 297
289	S K7052	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	4.6cm 1.8cm (最高) 2.0cm	口縁部ヨコナギ、底面部外 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	やや砂質多いが密	良好	内: 洗 外: *	2.SY8/3 *	約90%	R 298
290	S K7052	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	4.6cm 2.0cm (最高) 1.5cm	口縁部ヨコナギ、底面部外 側面ヨコナギ、底面部へつ 丸ナギ	良好	内: 洗 外: *	2.SY8/3 *	約90%	R 302	
291	S K7052	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	8.0cm 4.0cm (最高) 2.5cm	口縁部ヨコナギ、底面部内 側面ヨコナギ	良好	内: 植 外: *	2.SY7/6 *	高台部のみ 残存	R 303	
292	S K7053	土器部 小豆	(白)	9.4cm 1.7cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多いが密	良好	内: にぶい黄 外: *	10YR7/4 *	完存	R 293
293	S K7053	土器部 小豆	(白)	9.3cm 1.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多量に含むが 密	良好	内: 洗 外: *	2.SY8/3 *	ほぼ完存 表面に粘土層結合痕	R 292
294	S K7053	ロコリ土 器部 体	(白)	8.1cm 3.5cm	口縁部ヨコナギ、底面部内 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	砂質多い ややあまい	良好	内: 残 外: *	2.SY8/2 *	表面の氯化すむ	R 291
295	S K7054	ロコリ土 器部 体	(白)	9.5cm 2.5cm	口縁部ヨコナギ、底面部内 側面ヨコナギ、底面部軸部 切削	良好	内: 残 外: *	2.SY7/2 *	約90%	R 290	
296	S K7053	陶器 (山形県)	(白)	9.5cm	底面部外側ヨコナギ、底 面部へつ丸ナギ	底1cm～2cmは下 の部分・砂質含む が密	良好	内: 残 外: *	2.SY7/3 *	高台部のみ 残存	R 294
297	S K7053	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	6.7cm 3.0cm	体部内外側ヨコナギ、底 面部へつ丸ナギ	やや砂質多いが密	良好	内: 西洋 外: *	2.SY8/3 *	高台部のみ 残存	R 295
298	S K7053	ロコリ土 器部 台付杯	(白)	10.0cm 4.4cm (最高) 3.1cm	口縁部ヨコナギ、内面リカ ナギ、底面部軸部 切削	良好	内: 残 外: *	7.SYR7/6 *	約90%	R 299	
299	S K7053	土器部 三	(白)	11.7cm 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多いが密	良好	内: 洗 外: *	SY8/3 *	約90% 粘土板接合痕あり	R 296
300	S D7014	刷毛器 網	(白)	7.5cm 1.5cm	体部内外側へつ丸ナギ、底 部絞り直す	底: もとげ色 頭: 残白色	良好	内: 残 外: *	7.SY8/1 *	高台部の 内外全面に薄暗 後退痕	R 310
301	S D7007	刷毛器 網	(白)	7.7cm 1.5cm	底面部外側ヨコナギ、粘付 部底面内側に丸削、底面部 軸部切削、内面ナギ	良好	内: 残 外: *	2.SY8/4 *	高台部のみ 残存 近江産	R 311	

## 第104次調査

No	出土遺物	器種	色	調査・技術の特徴	地 土	構成	色 調	種 類	種 類	登録番号	
1	S E7060	土器部 杯	(白)	13.2cm 2.6cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	緻細な砂質多いが 密	良好	内: 残 外: *	SYR6/6 *	約90%	R 13
2	S E7060	土器部 杯	(白)	13.4cm 2.8cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ	聖	良好	内: 残 外: *	7.SYR7/6 *	約90% 内面に放射状歴文	R 22
3	S E7060	土器部 杯	(白)	13.4cm 2.5cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	砂質多いが密	良好	内: 残 外: *	SYR6/6 *	約90%	R 25
4	S E7060	土器部 杯	(白)	14.5cm 3.2cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	やや砂質含むが密	良好	内: 残 外: *	SYR6/6 *	約90%	R 14
5	S E7060	土器部 杯	(白)	13.8cm 3.1cm	口縁部ヨコナギ、体部ナギ オサエ	緻密	聖	内: 残 外: *	SYR6/6 *	約90%	R 16

No	出土壤種	分類	供試量	調査・性状の特徴	植 土	情 状	色 調	既存度	調 查	登録番号
6	SE7000	土壌腐 杯	(口徑)13.4cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR6/8 *	約70%	R 6
7	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)13.5cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	やや砂質多いが砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	完存	R 3
8	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)12.9cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：灰 外：ク	2.SYR5/3 *	約70%	R 34
9	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.1cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	粘土	良好	内：根 外：ク	SYR6/8 *	約80%	R 17
10	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.5cm (高さ)2.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	報告	良好	内：根 外：ク	SYR7/8 *	約50%	根糞面質耗減し
11	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.2cm (高さ)3.1cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約60%	R 23
12	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.2cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR7/6 *	約30%	R 33
13	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)16.6cm (高さ)3.6cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約50%	R 8
14	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.2cm (高さ)2.5cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	報告	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約40%	内面にネズミの歯形が残 る
15	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)13.9cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：K-ふい-黄 外：ク	10YR7/4 *	約50%	R 31
16	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.4cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR7/8 *	約80%	R 5
17	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.4cm (高さ)3.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR6/8 *	約80%	内面に十字にへり跡有
18	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)15.8cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約70%	内面に放射状又は螺旋状の 紋有
19	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)14.2cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：K-ふい-黄 外：ク	7.SYR7/4 *	根糞完存	底面に内面からの穿孔
20	SE7060	土壌腐 杯	(口徑)17.3cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	やや砂質多いが砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約40%	R 35
21	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)14.0cm (高さ)5.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR6/8 *	約90%	R 9
22	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)14.6cm (高さ)1.7cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：K-ふい-黄 外：ク	10YR7/4 *	約90%	R 4
23	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)14.0cm (高さ)2.3cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	やや砂質多いが砂	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	約90%	粘土擦合腐食有
24	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)11.0cm (高さ)3.8cm	内面5本/1mのハケ、内面 ナデ、高台端部コナデ	報告	良好	内：根 外：ク	7.SYR7/6 *	台部のみ 既存	R 32
25	SE7060	黑色土壌 杯	(口徑)10.8cm (高さ)5.7cm	内面へり2ダラ、外面ケズ リ、口縁部コナデ	報告	良好	内：根 外：ク	N1.5/0 7.SYR7/6 *	約80%	黑色土質人眼 内面に鐵錆斑紋有
26	SE7060	黑色土壌 杯	(口徑)17.4cm (高さ)4.6cm	内面へり2ダラ、外面ケズ リ、口縁部コナデ	報告	良好	内：根 外：ク	N1.5/0 7.SYR7/6 *	約60%	黑色土質人眼 内面に鐵錆斑紋有
27	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)15.2cm (高さ)13.2cm	外側2本/1mのハケ、内面 5本/1mのハケ、底面ケズ リ、口縁部コナデ	やや砂質多いが砂	良好	内：K-ふい-黄 外：K-ふい-黄	SYR5/4 10YR4/3 *	約50%	底面内面に褐色物有 また堆積時で部分剥離
28	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)17.1cm (高さ)16.2cm	外側2本/1mのハケ、内面 底面内面ケズリ	砂	良好	内：灰白 外：根	10YR5/4 *	約70%	使用痕認められない
29	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)14.2cm (高さ)4.7cm	体部コロナデ、底面に固 結未脱出、口縁部コナデ	砂	良好	内：灰白 外：ク	SYR5/1 *	約60%	内面に輪柱に重ね焼き痕 日本弓が付着するが灰化
30	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)5.5cm (高さ)2.4cm	体部コロナデ、底面軸 ヘラクリス、脚ケガキ	報告	良好	底部：灰白 外：ク	SYT7/1 7.SYR7/1 *	表面部のみ 既存	R 28
31	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)14.6cm (高さ)2.6cm	体部内面コロナデ、内面 ナデ、底面軸ヘラクリス 脚ケガキ	砂	良好	底部：灰白 外：ク	SYT7/1 SYT7/2 *	既存	底面内面に燒成斑有
32	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)18.0cm (高さ)4.1cm	体部コロナデ、底面軸 ヘラクリス、脚ケガキ	報告	ややあまい	内：K-ふい-黄 外：灰	10YR2/3 SYT7/1 *	約60%	R 27
33	SE7060	灰動植物 小皿	(口徑)4.0cm (高さ)3.0cm	口縁部コナデ、体部上部 ロクナデ、下部ヘラクシ スカサギ	底面以下2mm 底面各むき出し	良好	底部：灰白 外：灰リーブ	SYR8/1 7.SYR8/3 *	完存	外面に多量の自然鉄骨有
34	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)14.6cm (高さ)2.6cm	体部内面コロナデ、内面 ナデ、底面軸ヘラクリス 脚ケガキ	砂	堅致	底部：灰白 外：ク	SYR8/1 7.SYR8/1 *	既存	内面に輪柱と重ね焼き痕 日本弓が付着するが灰化
35	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)11.6cm (高さ)2.0cm	貼付済み、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	7.SY7/1 *	口底の約1/4 台部に一部ヘラクリス 既存	R 40
36	SE7060	土壌腐 皿	(口徑)13.2cm (高さ)2.9cm	口縁部コナデ、体部ナデ・ オサエ	砂	良好	内：根 外：ク	SYR6/8 *	既存外間に「木」の模様	R 36
37	SE7060	灰動植物 皿	(口徑)14.7cm (高さ)2.7cm	体部内面コロナデ、内面 ナデ、底面軸ヘラクリス 脚ケガキ	砂	良好	底部：灰白 外：オリーブ	SYT7/1 SYE7/3 *	既存内面に「木」の模様 と輪柱、内面に輪柱に 重ね焼き	R 38

No	出土遺物	種類	法量	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	保存状	解考	登録番号
38	SE7065	土器	小口 (口周) 0.2m (底周) 1.0m	内面ナデ、外面ナデ・オサ 素	良野	内：灰質 外：白	2.5VB/3 x	完存		R 41
39	SE7065	土器	三 (口周) 11.5cm (底周) 2.0cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ 素	良野	内：灰白 外：x	2.5VB/2 x	約90%		R 43
40	SE7065	土器	五 (口周) 12.7cm (底周) 2.4cm	内面ナデ、外面ナデ・オサ 素	豊かな砂粒含むが 素	内：にぶい黄褐 外：x	NOYR6/4 x	約90%	胎土結合不良有	R 42
41	SD7063	瓦	16.4cm (口周) 5.6cm (底周) 6.8cm	体部外凹ロクコナラとへう ケズリ、内面ナデ、底端み り狭ロクコナラ	破壊	良野	体表：灰白 端：オリーブ黄	7.5V7/1 7.5V6/3	約90%	R 30
42	瓦	瓦	合口 (口周) 4.8cm (底周) 3.0cm	裏台内面ケズリ、始は全周 素	良野	体表：灰更強 端：灰白 端：オリーブ灰	NOYR8/4 NBG/0 NOY5/3	高台側の 約51/2	見込み間に不鮮明な印刻	R 39

- 注) ○No.は本書遺物実測図の番号と一致する。
- 器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。
  - 法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ長さを示す。
  - 色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』(1988年度版)を参照した。
  - 登録番号は遺物・図面の整理及び管理上の番号で、各調査次数ごとに実測された遺物すべてに通して付されている。

## 斎宮跡発掘調査次数一覧表

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
1	S45	試掘	13-6	51	中垣内375-1(南)
2	46	古里A地区	13-7		東裏328(小川)
3		* B地区	13-8		西加座2771-1(細井)
4	47	* C地区	13-9		* 2773(細井)
5	48	* D地区	13-10		東裏362-1(兎島)
6-1		Aトレンチ	13-11		西加座2681-1(浮田)
6-2		Bトレンチ	13-12		* 2721-3, 2724-2(森川)
6-3		Cトレンチ	13-13		東前沖2506-2(宮下)
6-4		Dトレンチ	14-1	52	2Eトレンチ
6-5		Eトレンチ	14-2		2Fトレンチ
7	49	古里E地区	14-3		2Gトレンチ
8-1		Fトレンチ	14-4		2Hトレンチ
8-2		Gトレンチ	14-5		2Iトレンチ
8-3		Hトレンチ	15		斎宮小学校
8-4		Iトレンチ	16-1		竹川町道A
8-5		Jトレンチ	16-2		* B
8-6		Kトレンチ	16-3		* C
8-7		Lトレンチ	16-4		* D
8-8		Mトレンチ	16-5		* E
8-9		Nトレンチ	16-6		* F
8-10		Oトレンチ	17-1		竹神社社務所
8-11		Pトレンチ	17-2		竹神社防火用水
9-1	50	Qトレンチ	17-3		西加座2721-6(西沢)
9-2		Rトレンチ	17-4		東裏2894-1(中川)
9-3		Sトレンチ	17-5		* 2895-1(西口)
9-4		Tトレンチ	17-6		出在家3237-3(吉川)
9-5		Uトレンチ	17-7		* 3237-1(墨中)
9-6		Vトレンチ	17-8		東裏2894-1(西村)
9-7		Wトレンチ	17-9		東海造機
9-8		Xトレンチ	18	53	6AEL-E・I(下園)
9-9		Yトレンチ	19		6AEEN-M・N・O(御館)
9-10		Zトレンチ	20		6AE0-I・J(柳原)
10		広域層道路	21-1		6AGN-B(鍛冶山、北山)
11-1		西加座2661-1(山中)	21-2		6AEI-D(西加座2711-2, 2717-4他、山路)
11-2		* 2681-1(山名)	21-3		6AFD-D(西前沖2649-1、大西)
11-3		東前沖2483-2(農田)	21-4		6AFH-F(西加座2678, 2679-3、森下)
11-4		下園2926-9(吉木)	21-5		6AGD-K(東前沖、波部)
12-1	51	2ATレンチ	21-6		6ACA-T(古里3269-2、中西)
12-2		2Bトレンチ	21-7		6AFE-F(東前沖2631-1、鈴木)
12-3		2Cトレンチ	21-8		6AEG-A(東裏2909-3、大西)
12-4		2Dトレンチ	21-9		6AED-R(篠林3218-3、宇田)
13-1		東加座2436-7(浜口)	22-1		6AGU
13-2		* 2436-4(中村)	22-2		6AGU
13-3		古里3283(村上)	22-3		6AGW
13-4		東裏2916-2917(松井)	23	54	6AEL-B(下園)
13-5		御館2974-1(川本)	24		6AGF-D(西加座)

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
25-1	54	6ADP-K (牛糞3029-1、三重土地ホーム)	37-12	56	6AFH-J (西加座2681-1・3・4、淡谷)
25-2		6ACA-Y (古里3270、鷺田)	37-13		6AGK-F (西加座2385-3、386-3、竹内)
25-3		6ADD-F (鶴林3189-3、池田)	38		6ACD-S (塚山)
25-4		6AER-H (牛糞3014、牛糞公民館)	39		6ABD-R・S・T (古里)
25-5		6AGN-H (鐵治山2392、丸山)	40		6AGH-L・M (東加座)
25-6		6AFH-A (西加座2675-5、谷口)	41		6AGJ-J (他 (斎宮地内))
25-7		6AEK-V (下園2926-10、奥田)	42-1	57	6AEI-D・F (楽殿)
25-8		6AFC-D (西前沖2064-5、山本)	42-2		6AEK-A・B (楽殿)
25-9		6ACN-C (広頭3387-1、北出)	43-1		6ADC-C (出在家3235-2、水田)
25-10		6AEV-A (鈴池339-1、水島)	43-2		6ADT-B (木葉山308-1、山本)
25-11		6ACF-B (東裏364-1、沢)	43-3		6ACP-T (南裏241-1、辻)
25-12		6AEE-Y (楽殿2892-3、山本)	43-4		6ADS-D (牛糞123-3、西山)
25-13		6AEJ-E (西加座2766-1、山内)	43-5		6ADE-D (鶴林3220-3、涇野)
26-1		6AFR (中西)	43-6		6AGE (東前沖、町道側溝)
26-2		6AEX~6ACQ (鈴池、木葉山、南裏)	43-7		6ABD-F (古里588-6、今西)
26-3		6AEV-W・X (鈴池)	43-8		6ADQ-H (牛糞3025-2、大西)
26-4		6ACR (木葉山、南裏)	44		6AFL-A・B (鐵治山2759-1、他)
27		6ACG-S・T (東裏)	45		6AEG-P・Q (楽殿2904-2、他)
28		6AEO-D (鶴原)	46		6AGN-C・D (鐵治山2737-1、他)
29		6AFI、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ	47		6ADJ-D・G (西加座、鶴原、宮ノ前、上瀬)
30	55	6ABJ-M・X・W (中垣内)	48-1	58	6AGM-M (広頭3385、森宮小)
31-1		6ADO-M (内山3038-13、岩見)	48-2		6ADP-Q (牛糞3033-1・2、吉田)
31-2		6ACP-I (南裏227-2、鈴木)	48-3		6ABL-M (中垣内434-6、西川)
31-3		6ABD-A (古里588-4、北敷)	48-4		6AGL-B (東前沖2480、倉田)
31-4		6ADQ-T (牛糞3018-2、百五銀行)	48-5		6AGD-6AFE (東前沖、町道側溝)
31-5		6ACC-G (塚山3338-3、水谷)	48-6		6AGC-A (西前沖3550-1、今西)
31-6		6ABO-X (古里576-1、池田)	48-7		6ADT-H (木葉山307、森西)
31-7		6AGI-L (東加座2427-1、竹内)	48-8		6ACL-E・F・G (東裏334-15、他)
31-8		6ACN-G (広頭3388-1・5・8・9・森)	48-9		6AEV-J (鈴池341-1、乾)
31-8		6AGDL-L (北野2487-1、中川)	48-10		6AGT (牛糞、町道側溝)
31-10		6ADM-O (内山3043-3、斎宮駅)	48-11		6ADP-E (鐵治山251-1・2352-1、鶴原)
31-11		6ADT-I (木葉山304-2、涇野)	48-12		6AFC-H (西前沖2604-8・9、清水)
31-12		6ADT-J (木葉山304-7、宇田)	48-13		6ACM-O (東裏、斎宮小)
32		6ACE-D・E・F (塚山)	48-14		6AET (牛糞、町道側溝)
33		6ADE-C・D (鶴原)	49		6ADI-D・U・V・W・X (上瀬3063、他)
34		6ADE-F・G・H (西加座)	50		6ACH-H (東裏294、山本)
35		6APE (西前沖)	51		6AFF-D (西加座2663-1・4、2664、森下)
36	56	6ABI-F (中垣内)	52		6AGF-D (西加座2703、他)
37-1		6AFC-M (西前沖2064、日本絆木)	53-1	59	6ACM-P (東裏284、体育馆)
37-2		6ADQ-R (牛糞3021-2、野田)	53-2		6ACA-M (古里3280-2、中西)
37-3		6AFC-F (西前沖2604-6、神田)	53-3		6ABE (古里573-2、永納)
37-4		6AFC-M (西前沖2604、日本絆木)	53-4		6ACL-S (東裏271-1、田所)
37-5		6AFC-G (西前沖2604-7、中村)	53-5		6ACR (木葉山97-5、田中)
37-6		6ABD-A (古里588-2、北敷)	53-6		6AGO (鐵治山、町道側溝)
37-7		6AEC-M (鶴原2861-2、南王公民館)	53-7		6ADD-U (鶴林3147-3、野呂)
37-8		6ADR-P (木葉山28-8・13・14、富山)	53-8		6AGE-O (東前沖2470-2、上田)
37-8		6AGK-E (東加座2355-1、竹内)	53-9		6ACS-O (木葉山95-2、浅尾)
37-10		6AED-O (楽殿3217-1、渡部)	53-10		6ACA-R (古里3267-1、西川)
37-11		6ADN-O (内山3043-3、斎宮駅)	53-11		6ADR-W (木葉山131-7、西村)

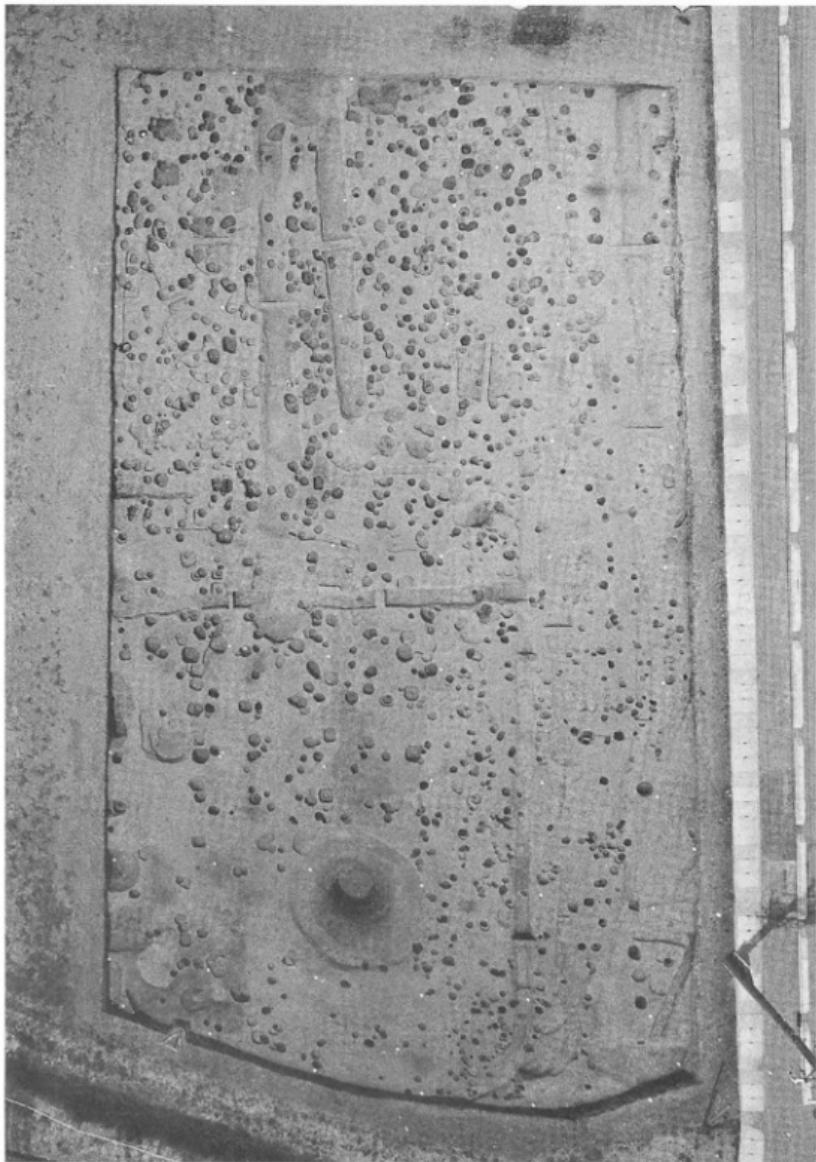
次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
53-12	59	6ABL-K (中垣内464-2、沢)	70-10	62	6AFD-B・D (西前沖2649-4、大西)
53-13		6ADQ-L (牛葉3022、辻)	70-11		6AGO-H (鐵治山2363-2、川合)
53-14		6ACM-O (東裏287-3、体育原)	70-12		6ADD-F・G (篠林3158、長谷川)
53-15		6AFK-C・D (西加座2721-1、鉢木)	70-13		6AEC-N・G (刈干、佐藤)
54		6AFE-N (西前沖2630、他)	70-14		6ABL-R (中垣内459、北岡)
55		6AEN-P (柳原、御館2785-1、他)	70-15		6AFD-A (西前沖2644-1、山本)
56		6ACH-S (東裏289-1、他)	70-16		6ACB-A他 (町道塚山線括幅)
57		6AGF-H・I (東加座2441、他)	71		6ABE (古里501、他)
58-1	60	6AFK-C・D (西加座2721-1、鉢木)	72-1		6ABE (古里500、他)
58-2		6AFH-N (西加座2681-8、三村)	72-2		6ABF (古里523、他)
58-3		6ACM-N (東裏3385-2、斎宮小)	72-3		6ABF (古里551-2、他)
58-4		6ABL-A (中垣内4731-1、小家)	72-4		6ABF (古里528-1、他)
58-5		6ADQ-Q (牛葉、町道御濱)	73		6AFF-B・C・E・G (西加座2663-5、他)
58-6		6ADR-V (木葉山131-3、西山)	74-1		6ABF (古里523、他)
58-7		6AGS-G (中西611、山路)	74-2		6ABF (古里522、他)
58-8		6ABM-A (中垣内430-3他、近鉄)	74-3		6ABE・F (古里524、他)
59		6ACJ-I (広瀬3379-1、他)	74-4		6ABE (古里548-1、他)
60		6AGJ-B・D・G (東加座2450-1、他)	74-5		6ABE (古里543、他)
61		6AFF-H・I・D (西加座2663-1、他)	75		6AGF-C (西加座2702、他)
62		6AGI-J・K (東加座2425、他)	76-1	63	6ADB-A~D (町道塚山線括幅)
63		6AGF-M・N (西加座2659-1、他)	76-2		6ADE-F・G (篠林3158、長谷川)
64-1	61	6ACO-H (牛葉3395-1、トカイ)	76-3		6ABE (古里554、明和町)
64-2		6AGL-F (東加座2435-1、大和谷)	76-4		6ACK (東裏354-13、山際)
64-3		6ADD-A (篠林3136-1、山路)	76-5		6AEE-W (楽殿577、岡田)
64-4		6AGR-N (蒲川3240、丸山)	76-6		6ACB-A (塚山3276-1、今西)
64-5		6ACM-R・Q・P (東裏3385-2、斎宮小)	76-7		6ACM-M (広瀬3385-2、斎宮小)
64-6		6ACK (東裏361-2、竹川自治会)	76-8		6AFM-G (鐵治山2736-3、近鉄)
64-7		6AGI-G (東加座2435-2、大和谷)	76-9		6ACQ (南裏144-1、田所)
64-8		6AGR-J (蒲川2341-6、山下)	76-10		6ABD-U (古里579、池田建設)
64-9		6ADQ-M (牛葉、町道御濱)	76-11		6ABE (古里554、明和町)
64-10		6ACF-A (東裏365-1、樋口)	76-12		6AEE (楽殿、町道下水管)
64-11		6ACM-O (東裏3385-2、斎宮小)	76-13		6ADD-K (篠林3143、中西)
64-12		6ADE-B (篠林3162-3、江崎)	76-14		6AEE-S (楽殿2878-3、山路)
65-1		6ACC-M (塚山3331-1)	76-15		6ABF~6ABH (中垣内、県道括幅)
65-2		6AEG-S (楽殿2908-2、他)	76-16		6AEK-B (下園2936-2、明和町)
65-3		6AEI-L・M (東裏2917-5、他)	76-17		6AEV-A (鉢池339-5、水鳥)
66		6AGG-C (東加座2437-1、他)	77		6AGJ-D (東加座2453、他)
67		6ABF (古里523、他)	78		6ADL (宮ノ前3054、他)
68		6ABF (古里502、他)	79		6AGG-A・B (東加座2440、他)
69		6AGM-E~H (東加座2373、他)	80		6AGF-F~I (西加座2696、他)
70-1	62	6ACC-X (塚山3325-1、江崎)	81-1	H 1	6ACE-F (町道塚山線括幅)
70-2		6AEE-W (楽殿2875-2、岡田)	81-2		6ABJ・6ABK (古里、県道括幅)
70-3		6ADR-I (木葉山129-5、大西)	81-3		6ADS-M (木葉山137、中川)
70-4		6ACN-A・B・E・L (広瀬3388-8、林)	81-4		6AED-L (楽殿2881-2、山本)
70-5		6AEW-A (鉢池333-1、八田)	81-5		6AFQ-C (中西597-2、木戸口)
70-6		6ABL-S (中垣内430-6、奥山)	81-6		6ADD-F (篠林3133、池田)
70-7		6AEE-T (楽殿577、浅尾)	81-7		6ABL-U (中垣内430-7、川本)
70-8		6AEU・6AXE-A (牛葉、鉢池、三重県)	81-8		6ABJ (古里、明和町)
70-9		6AEP-C・D (御濱、柳原、近鉄)	81-9		6ACF (中垣内、三重県)

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
81-10	1	6ADR-V (木葉山297、明和町)	91	3	6ABH-F (中垣内393、他)
81-11		6ACM-N (広瀬3385-2、明和町)	92		6AGN-A (鐵治山2734-3)
81-12		6AED-A (篠林3225、中川)	93		6ADN (内山3045-12、他)
81-13		6ACB (塙山3276-19他、明和町)	94		6AEM (御館2942)
81-14		6AED-F (楽殿2844-2、澄野)	95	4	6ADN (内山3046-17、他)
81-15		6AED-U (楽殿2885-2、西山)	96-1		6AGM (東加座2374 丸山)
81-16		6AG (北野3655-1、他)	96-2		6ADO (内山3068-3、他 明和町)
82-1		6ADI-F~J (上園3095、他)	96-3		6ACA-D (古里3260 清水)
82-2		6ADI-K·L (上園3100、他)	96-4		6AFN (中西2749-1 本山)
83		6AFJ-C~F (西加座2770-3、他)	96-5		6ADR-T (木葉山28-3 加藤)
84-1		6AFJ-G (西加座2764-3)	96-6		6ADD-D (篠林3138-1 藤井)
84-2		6AFH-G·H (西加座2679-1、他)	97		6AEM (中垣内482、他)
85-1	2	6ABD~6ACD (古里、三重県)	98		6AFM-C·E (鐵治山2745、他)
85-2		6ACA-P (古里3279、松本)	99	5	6ADN (内山3046-11、他)
85-3		6ACJ-B·D (東裏、明和町)	100		6ABI-T (中垣内423)
85-4		6ABE (竹川573-1、永納)	101		6ADG (篠林3194)
85-5		6AED-U (楽殿2885-2、西山)	102-1		6ADS (木葉山119-5 澄野)
85-6		6AFH-B (西加座、明和町)	102-2		6AED-J (楽殿2882-5 杉本)
85-7		6ACB-C (塙山3276-3他、加藤)	102-3		6AAQ (花園663-1 中川)
85-8		6ABI-N (中垣内427-1、小林)	102-4		6ACF-A (東裏365-1 猪口)
86		6AFH-F·G·H (西加座2679-1他)	102-5		6ABJ-D (中垣内493-6 川口)
87		6ACE-N·Q·R (塙山3356他)	102-6		6AG (鐵治山地内 明和町)
88		6AGN-C·D (鐵治山3411-1他)	102-7		6ACG-E (東裏318-1 川本)
89-1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄資宮駅)	102-8		6AE (楽殿地内 明和町)
89-2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)	103		6AEQ-A (柳原2779-3)
89-3		6ADM-N·O (内山3060-4、近鉄資宮駅)	104		6AGT (苗川1048-1、他)
90		6AFH-A·B (西加座2680他)			

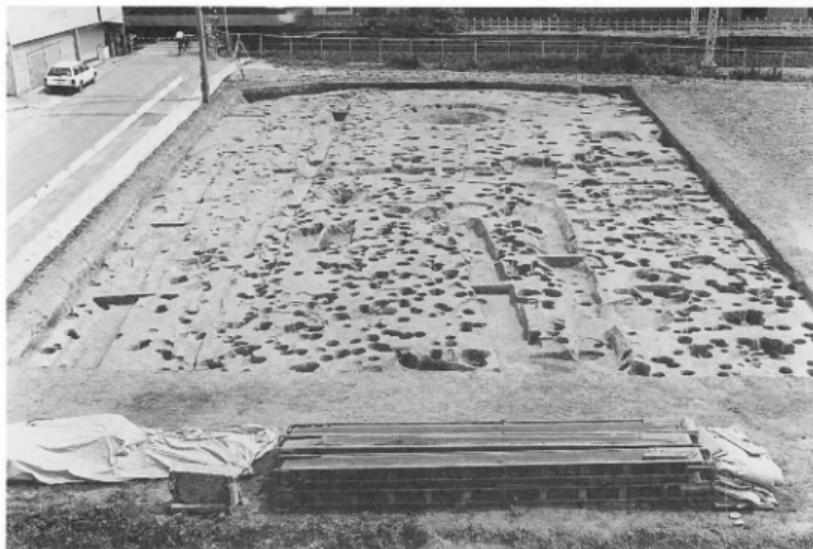


第40図 査宮跡地区表示

# 図版



調査区全景（真上から）



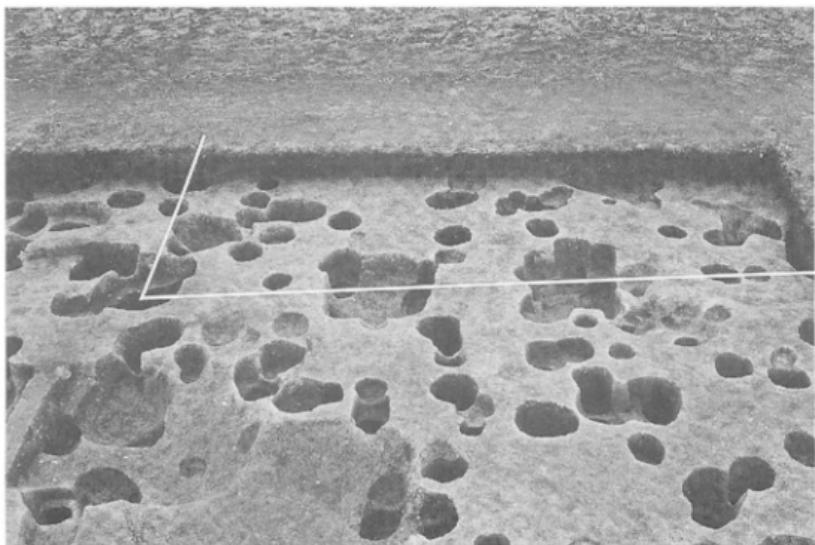
調査区全景（北から）



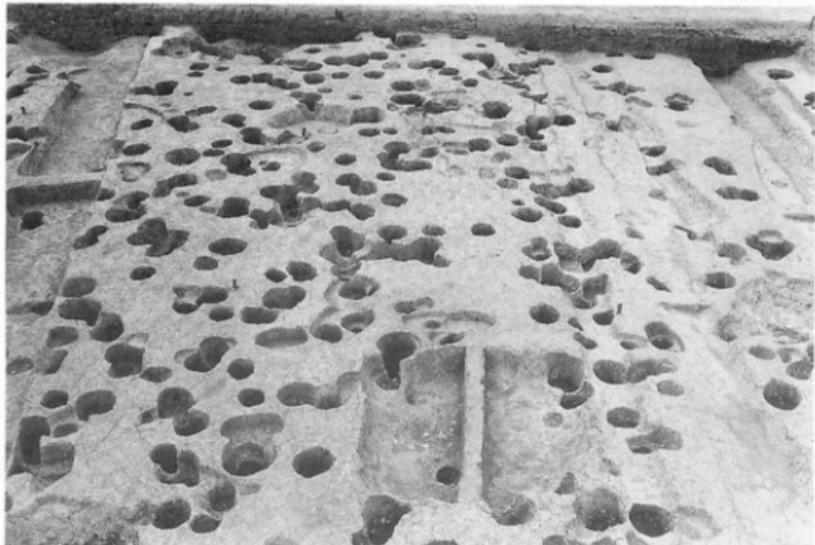
調査区北東部（南から）



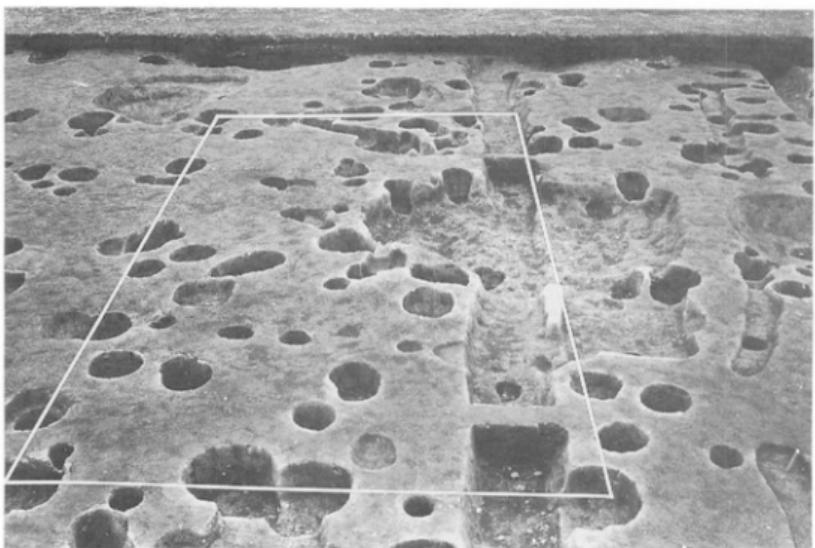
調査区南東部（北から）



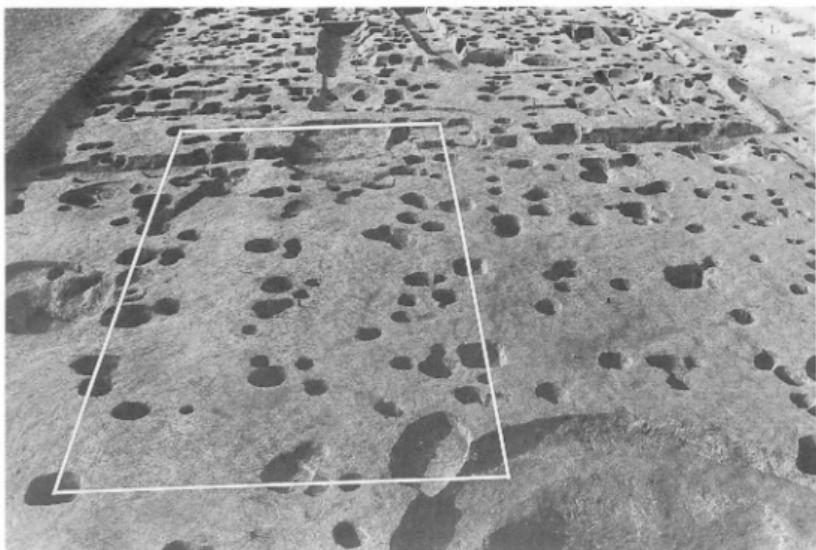
S B 0251 (東から)



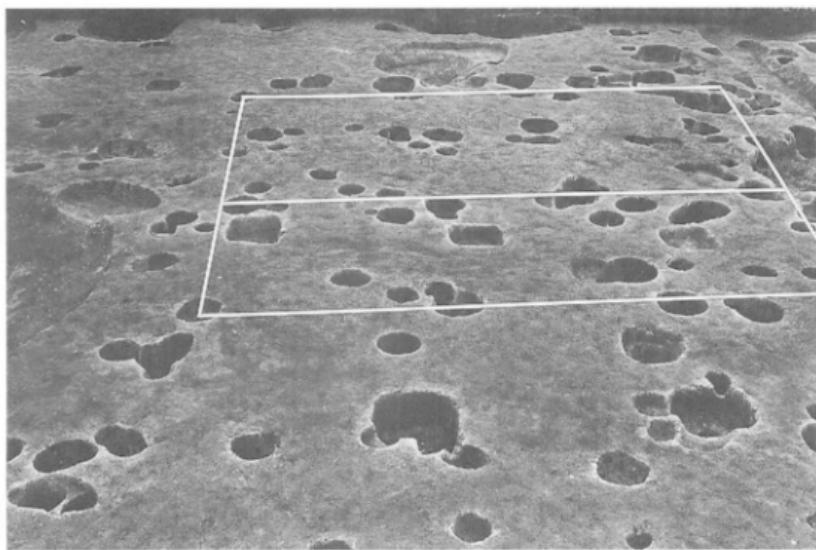
調査区北部（南から）



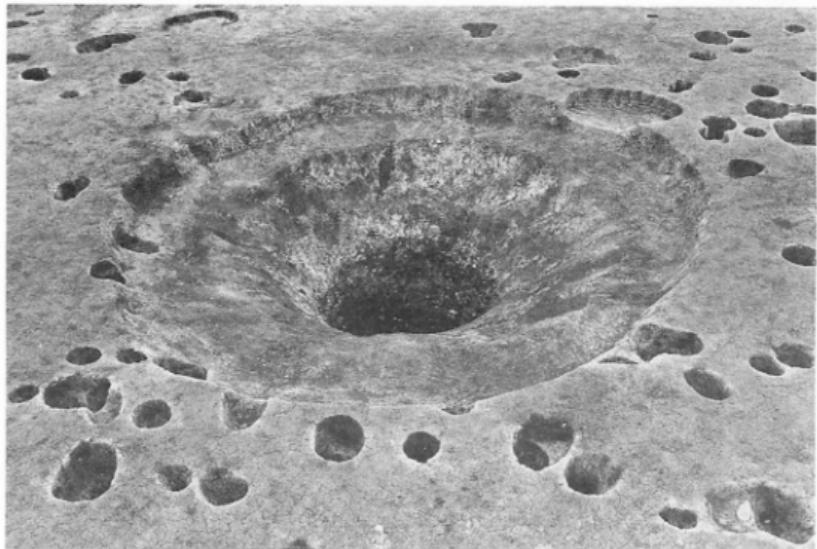
SD 6919・SB 6922（東から）



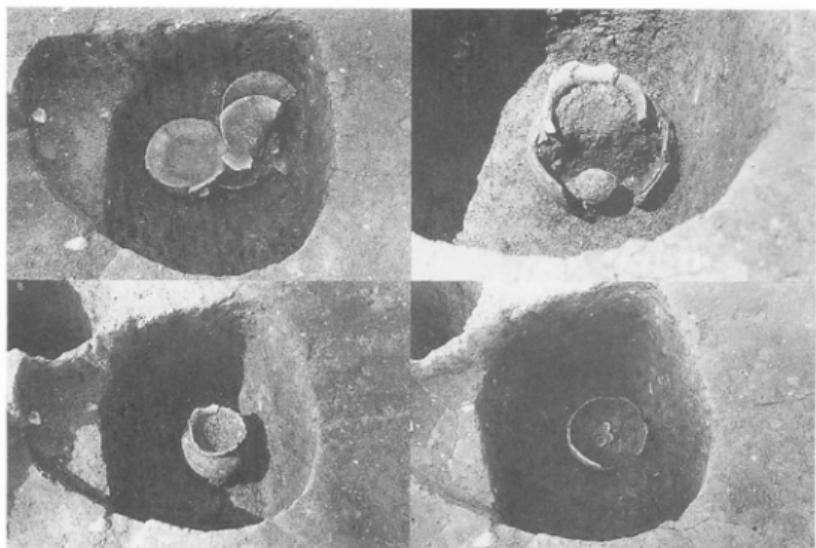
SB 6918 (南から)



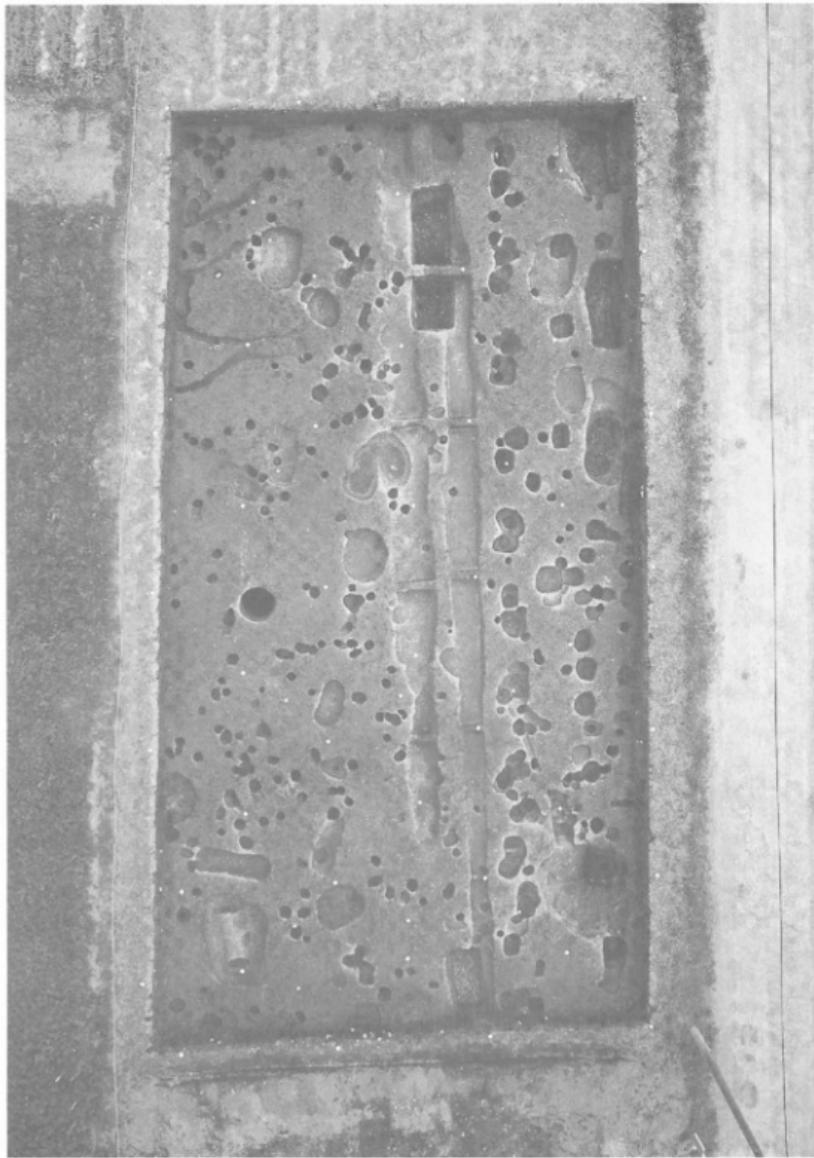
SB 6923 (東から)



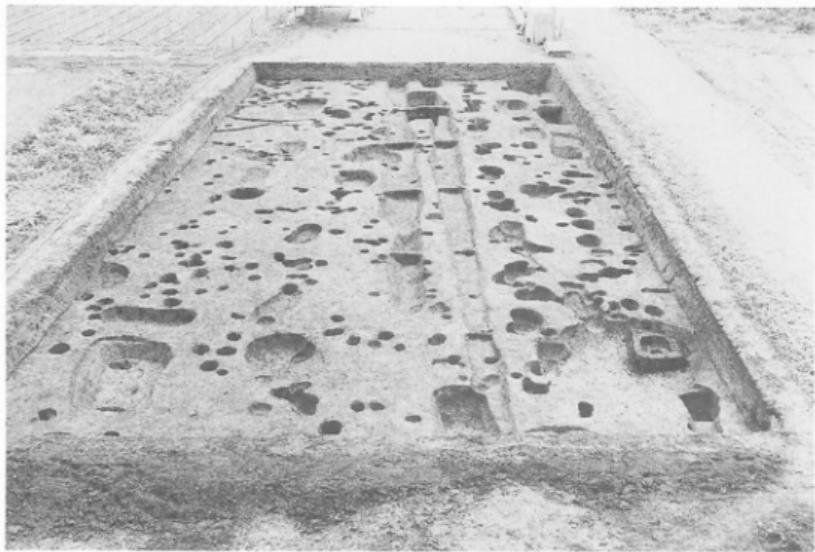
S E 6920 (東から)



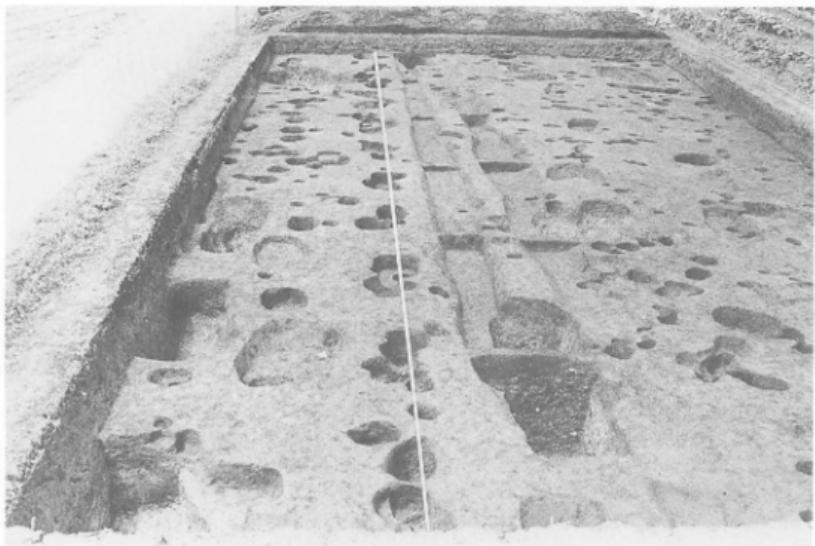
S X 6900棲出状況（南から）



調査区全景（真上から）



調査区全景（西から）



S A 6940・6941～6943（東から）



調査区全景（真上から）

P L 10

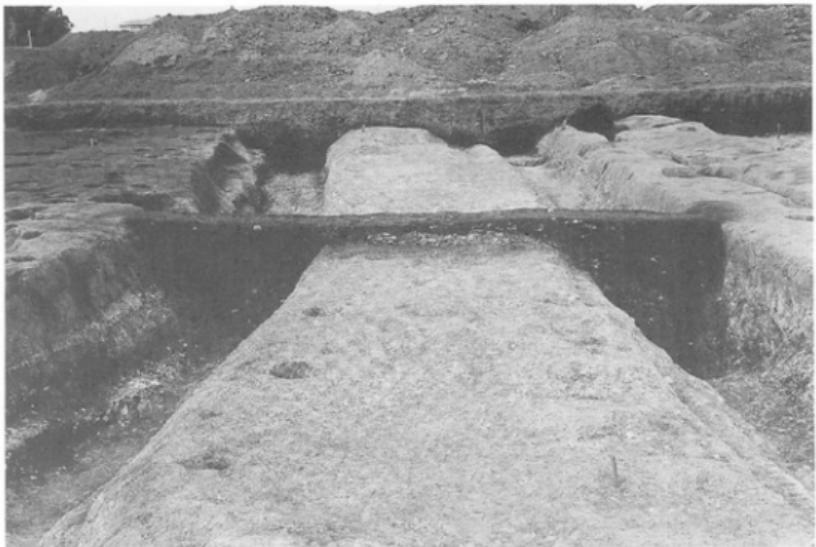
第101次調査



調査区全景（北から）



S F 6983南端（西から）



S F 6983 (南から)



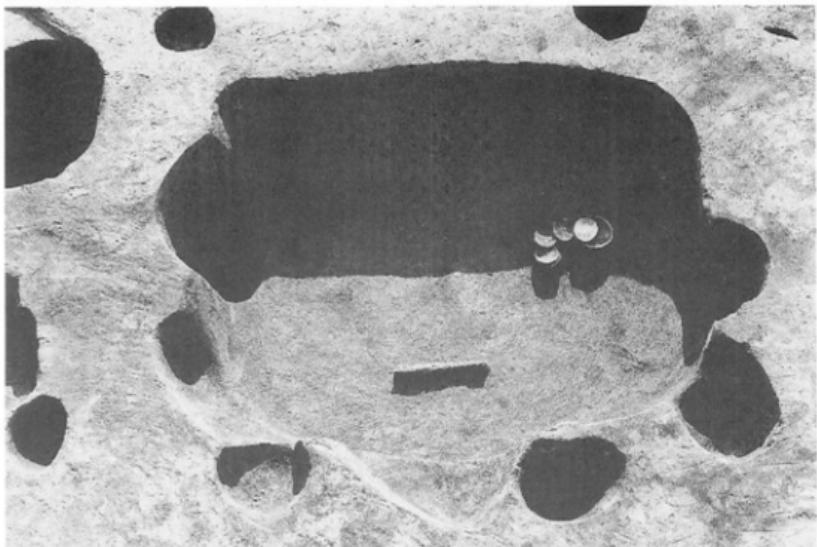
中世墓群 (北から)



S X6975 (南から)



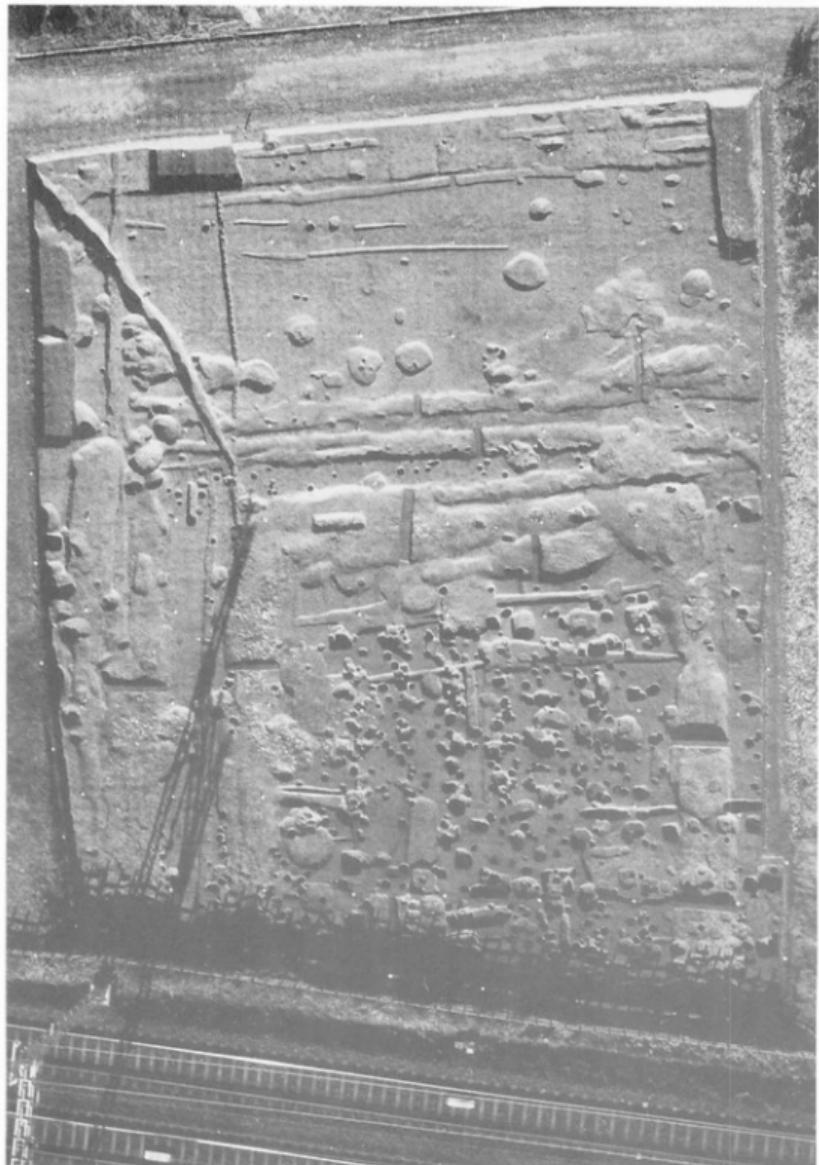
S X6975遺物検出状況（東から）



S X 6977 (東から)



S X 6976 (南から)



調査区全景（真上から）



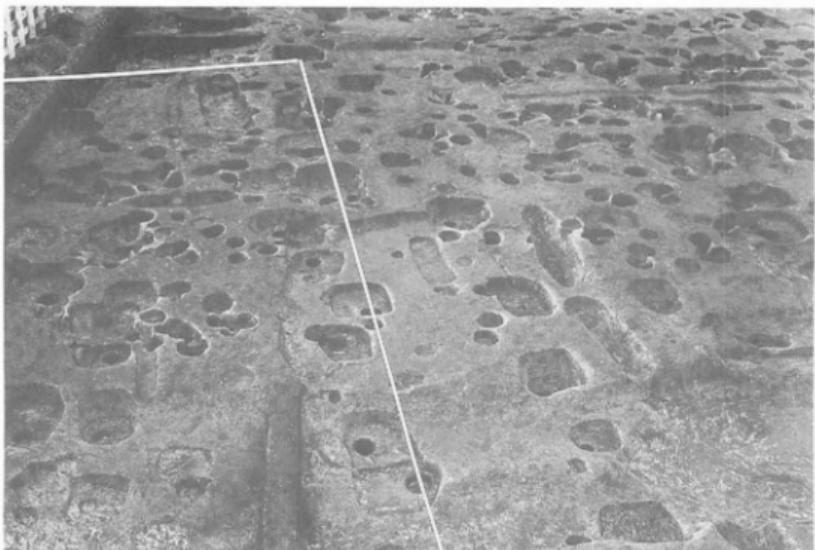
調査区全景（西から）



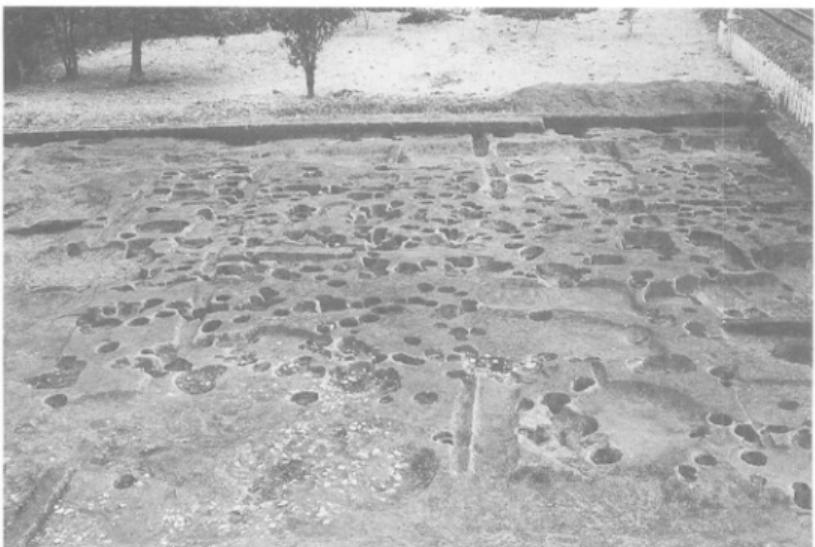
調査区全景（北西から）

P L 16

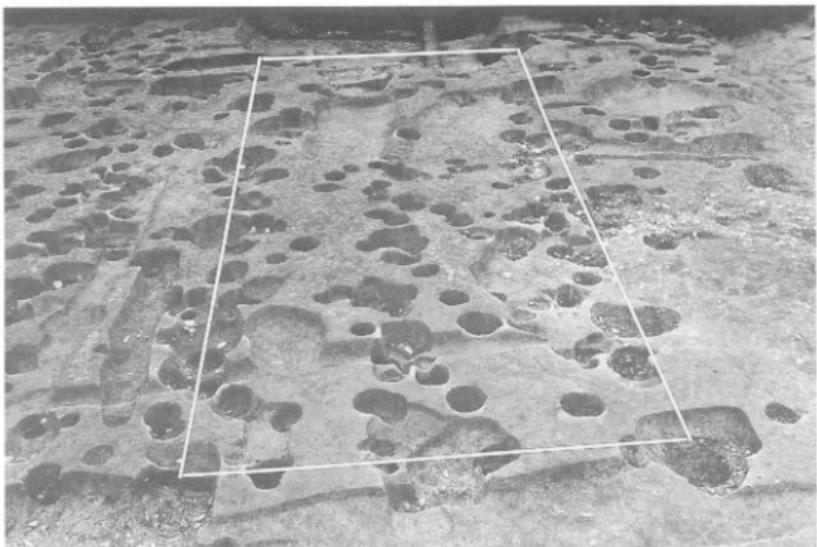
第103次調査



S A 7000 (東から)



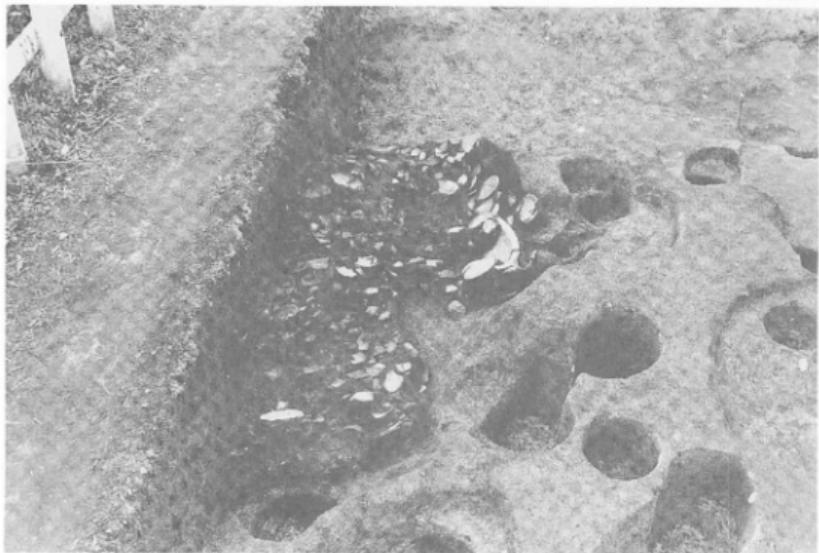
調査区南東部 (西から)



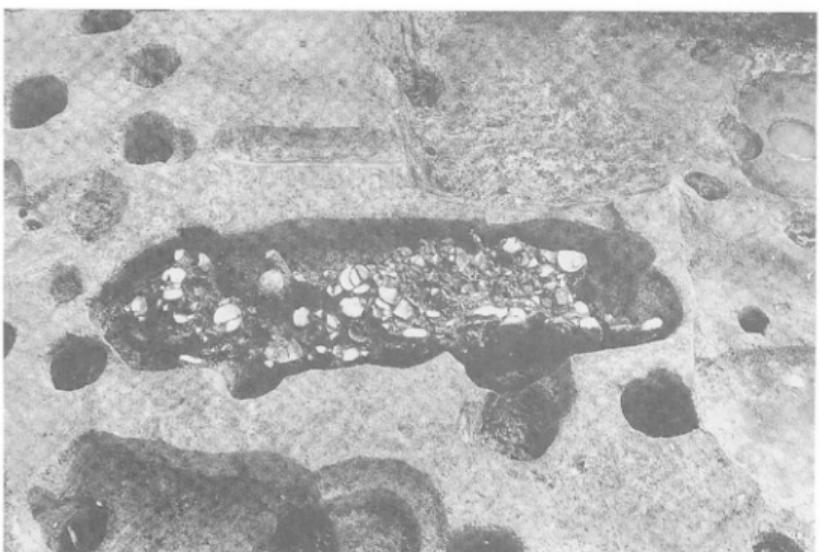
SB7024 (北から)



SB7020 (西から)



SK7017 (東から)



SK7040 (北から)



SK7030（東から）



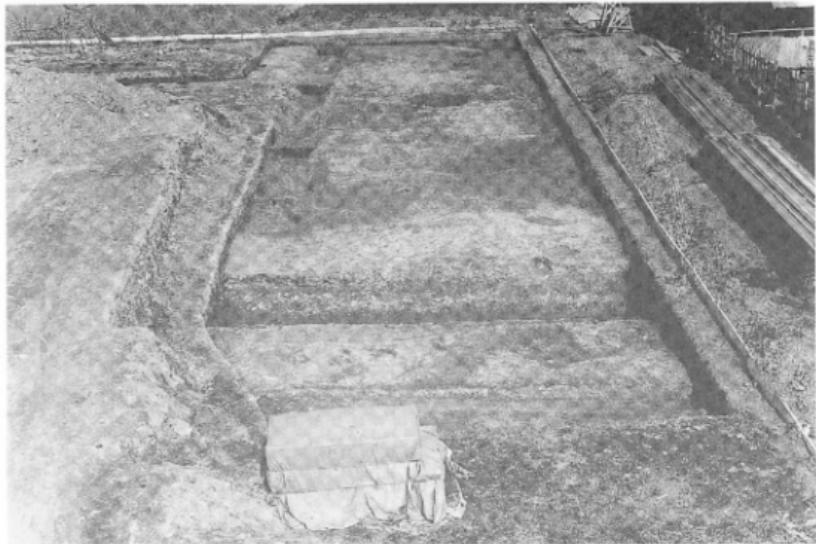
SK7030遺物検出状況（北東から）



調査区遠景（南から）



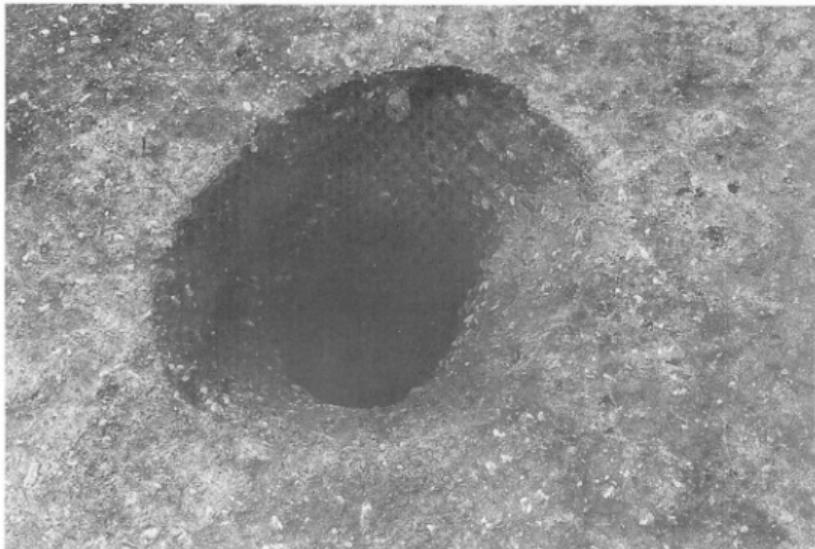
調査区遠景（東から）



調査区全景（南から）



S D7067 (西から)



SE7060 (東から)



SD7063 (南から)



98



101



96



65



100

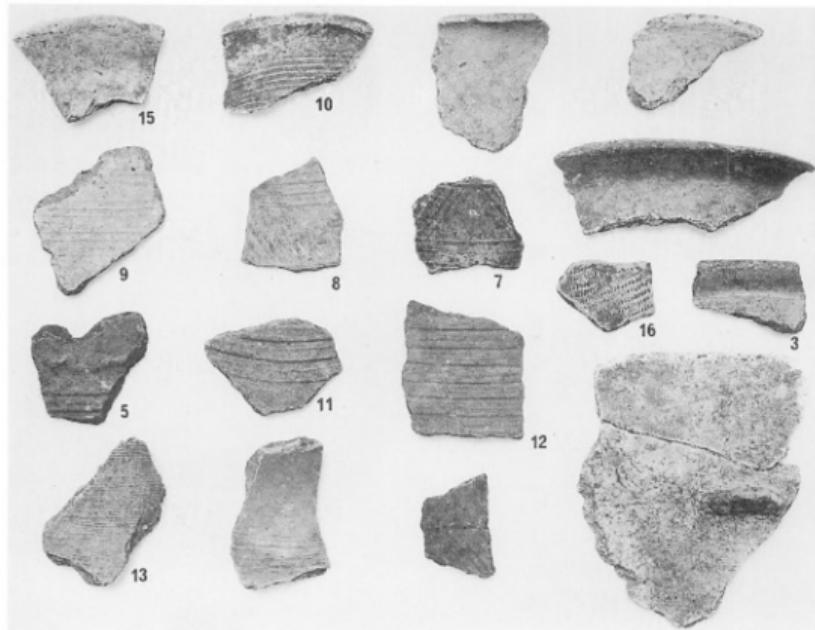


102



67





第100次調査 出土遺物



第101次調査 出土遺物



第104次調査 出土遺物

P L 26



第103次調査 出土遺物

---

---

国史跡 斎宮跡

平成 5 年度  
発掘調査概報

平成 6 年 3 月 31 日

編集発行 斎宮歴史博物館  
印刷 光出版印刷株式会社

---